

知識集約型社会を支える人材育成事業(文理横断・学修の幅を広げる教育プログラム)

新潟大学 全学分野横断創生プログラム(NICE プログラム)

自己評価報告書

新潟大学教育基盤機構

令和4年 10 月

目次

はじめに.....	1
令和2、3年度事業の自己評価	2
資料編	17
(参考)ロードマップ	
令和4年度外部評価結果.....	86
おわりに.....	100

はじめに

環境と社会の変化が私たちに苛酷に迫る時代となっています。気候変動はいよいよ毎年のように風水害をもたらす生活に影響を及ぼし始めました。国内外の社会・経済情勢はしばしば混迷の様相を呈し、国際的な緊張は高まる一方となっています。人類を含む多種多様な生物がこれからもその生を謳歌し地球上で繁栄を続けるためには、いまこの困難な時代を生きる私たちに大きな義務が課されています。

環境に関していえば、地球全体が持続可能となる道をいくつか探り出し、後世の人々に選択を委ねられるような道標を示さねばなりません。社会に関しても、急激な人口構造の変化に耐え得る、特定世代にしわ寄せしない社会保障や税制、再配分のしくみを構築する必要に迫られています。

このような時代にあって人材育成を担っている大学はどのような役割を果たすべきでしょうか。高等教育界で注目されているのは、学生が1つの専門分野だけではなく複数の専門分野を学ぶことです。各分野に分散している知識を融合することによって課題解決のための大きな力が生まれます。新潟大学ではそのために本格的にメジャー・マイナー制という方向に舵を切りました。その嚆矢となる本学の「全学分野横断創生プログラム」が「知識集約型社会における人材育成事業」に採択されたことは、本学の教育を新しい方向に進める上で大いに役立っております。

本報告は、この事業に関する進捗状況を事業遂行者自身が振り返り、自己評価報告書として取りまとめたものであります。また、その過程においては、外部の有識者の方々に構成された外部評価委員会において、それぞれの専門的な立場から本事業の評価をしていただきました。その評価結果も掲載されております。多大な労を取っていただいた外部評価委員の先生方にはこの場を借りて厚く御礼申し上げます。

本報告には新潟大学の新しい教育の試みが示されています。多くの皆様にご覧いただき、今後の我が国の高等教育の発展に少しでも貢献できれば幸いです。

令和4年10月

全学分野横断創生プログラム事業プロジェクト実施責任者
教育基盤機構 教学マネジメント部門長 福島 治

知識集約型社会を支える人材育成事業(文理横断・学修の幅を広げる教育プログラム)

新潟大学 全学分野横断創生プログラム(NICEプログラム)

令和2、3年度事業の自己評価

目次

1. 事業基盤	
(1) 事業設計 (2) 教育プログラムの内容 (3) 改善点	p2～p6
2. 学修成果	
教学 IR・学修成果の可視化	p7～p8
3. 学修支援	
アカデミック・アドバイジングと学修デザイン相談	p9～p11
4. 教育制度(授業内容)	
学修創生型マイナー支援科目の開設と実施	p12～p13
5. 企業・社会との接続	
大学教育と社会・仕事との接続	p14
6. 高大接続	
高等学校、高校生、保護者等への広報	p15～p16
資料編	
資料1-1、1-3～1-5	p17～23
資料1-2 別冊 学修創生型	p1
パッケージ型マイナー科目リスト	p2～p53
別冊 オナーズ型マイナー科目リスト	
資料2-1～2-6	p24～p47
資料3	p48～p51
資料4	p52～p58
ループリック	p59～p61
科目「分野横断デザイン」シラバス	p62～p64
資料5	p65～p69
資料6-①～6-⑩	p70～85

1. 事業基盤

項目：(1) 事業設計(事業実施体制、プログラム設計)、(2) 教育プログラムの内容、(3) 改善点

担当者： 福島 治

*評価は、以下の4段階の区分により行う。

区分	評価
1	所期の計画以上の取り組みが行われている
2	所期の計画と同等の取り組みが行われている
3	所期の計画に比べ、全体の取り組みが遅れているが、一部は同等の取り組みが行われている
4	所期の計画に比べ、取り組みが遅れている。

評価	2 所期の計画と同等の取り組みが行われている
理由)	<p>事業基盤については、事業実施体制、教育プログラムの内容、改善点の観点からみている。このうち実施体制に関しては、事業申請時に想定した体制とすることができたこと、特に事業推進の要となる NICE オフィスは十分に機能し、プログラム構成、履修支援、質保証、学修成果の可視化についても実施体制を整えることができたことから計画通りの取り組みが行われている。</p> <p>教育プログラムに関して、プログラムの数としては既に十分な水準に達している。その内容に関して、学問分野に即したディシプリンベースのプログラム(領域学修)、データサイエンスのような教育政策に即したプログラム、本学が注力してきた地域連携的なプログラム(アグロフードアソシエーツやことづくりマネジメント、ふるさと共創学など)など多様なプログラムの開設に成功した。</p> <p>改善点に関して、事業管轄の文科省による「現地視察」の際の指摘事項に対してどのように対応するかを示した。こうした指摘事項は、ほぼ2週間に1回開く NICE オフィスミーティングで自主的に把握・共有されていたものも多く、その対応や今後の方針について比較的円滑に遂行や方針決定などができている。</p>

1. 事業基盤

1. 進捗状況

(1) 事業設計(事業実施体制と事業内容としてのプログラムの設計)

1) 事業実施体制

本事業プログラム「全学分野横断創生プログラム」は、新潟大学がメジャー・マイナー制に移行するための充実したマイナー・プログラム(副専攻)の展開を目的としています。

この事業の実施体制は、図1の通りです。学長のリーダーシップのもと、大学全体の教育戦略の方針と現場の教育実践の連携を意識した体制を整備しました。事業開始の令和2年度は全学の教育の重要事項を審議する大学教育委員会のもとに、「教育基本問題検討作業委員会」を設置し、メジャー・マイナー制を含む本学の教育改革の将来方向と全体的な制度設計を行いました。この内容は各学部の情報共有の場である「教務専門委員会」を通じて各学部と共有し、全学的にメジャー・マイナー制を導入することが承認されました。

本事業の実務的な運営を担っているのは、令和2年12月に教育・学生支援機構内に設置した「NICEプログラムオフィス」です。これは教育・学生支援機構に配置された、学務担当副学長を中心として、副専攻、教育評価、FD、IR、学術情報、アカデミック・アドバイザー等を担当する教員、事務職員という多彩なメンバーで構成されるプロジェクトチームであり、本事業の実質的な運営、情報収集および事業改善を行っています。このオフィスにおける NICE プログラムミーティングで事業実施に必要な事項がまず検討され、次に各学部の代表者で構成される教務専門委員会での議論を通してオーソライズし、すべての学位プログラムに浸透させる体制を整えています。

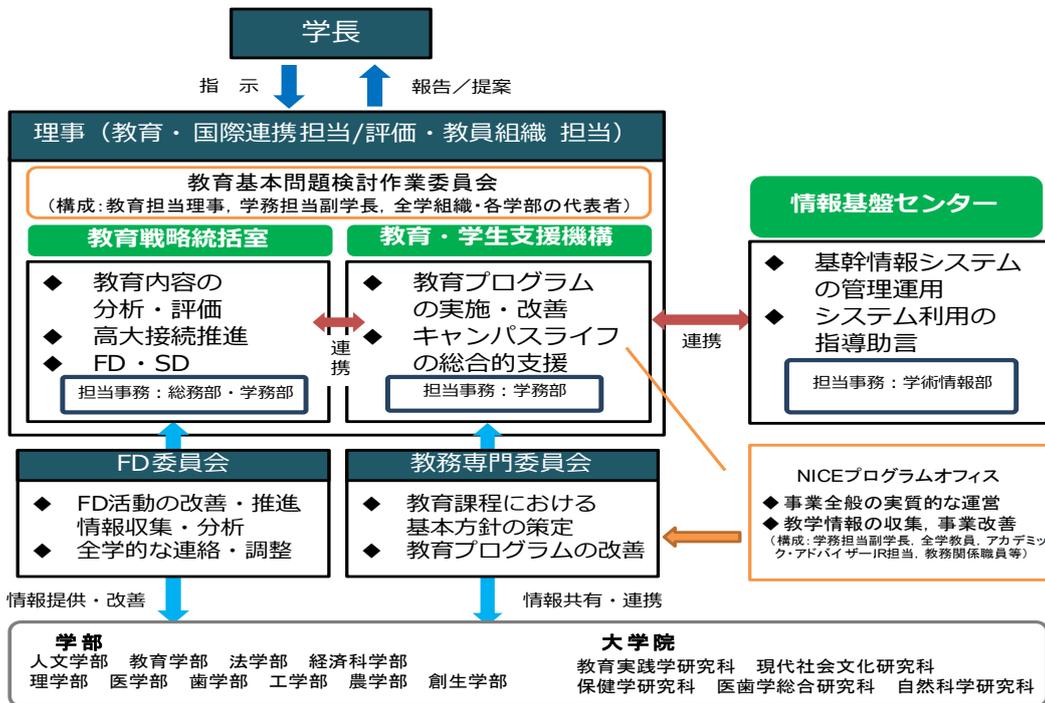
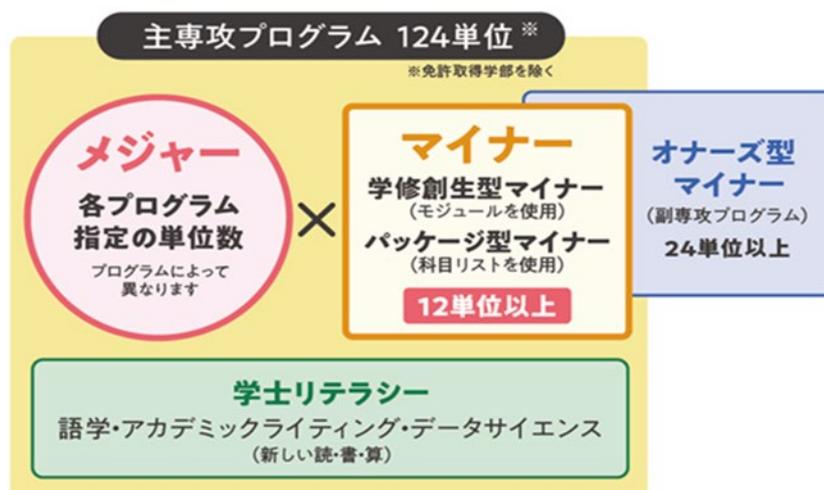


図1 全学分野横断創生プログラムの事業実施体制

2) プログラムの設計

プログラムの設計図となるメジャー・マイナー制の基本構造は、図2の通りです。特に、本学のマイナー・プログラムに関する制度設計上の特徴として挙げられるのは、卒業要件単位数(124単位)の中でマイナ

一履修が可能になっているところです。例えば、人文学部の学生は、35 単位の自由選択科目を履修する必要があります。これまでは、学生が任意にその時々興味や時間割の都合等でこれらの科目選択をしていました。しかし、その科目選択にマイナー・プログラムとしての体系性を持たせることにより学修効果が高まると考えました。



マイナー（オナース型を含む）の一部には、メジャーや学士リテラシーの科目も含まれます。

図2 新潟大学のメジャー・マイナー制

この図において「メジャー」とは、各主専攻プログラムで開設されている主専攻の科目群のことを表しています。「学士リテラシー」とは、共通教育の科目群を指します。この中には教養教育としての哲学や物理学などは含まれていません。設計上、それらはマイナーとして履修することが可能となるためです。

以下では、図中の a)マイナー・プログラムの構成と各々の履修方法、b)履修支援のしくみ、c)プログラムの質保証体制、d)学修成果の可視化について述べます。

a)マイナー・プログラムの構成と履修方法

マイナー・プログラムには次の3つの型があり、履修方法（どのように科目選択をするか）が異なります。

・学修創生型マイナー

これは知る限り海外にも例のない非常にユニークな学び方です。このマイナー・プログラムでは、学生は、アカデミック・アドバイザーとともに自分の目指す進路や問題意識・関心に即して、大学全体で提供している数千科目の中からその学びに必要な科目を選択し、自分のマイナーとしてデザインします。科目選択にあたっては、個々の科目を1つ1つ選ぶことも、3～5科目程度の同種の専門科目をセットにしたモジュールと呼ぶ科目セットを選ぶこともできます。

修了までの単位数は12単位+2単位の14単位です。2単位が別に加わっているのは、「分野横断デザイン」（1年次1単位）と「分野横断リフレクション」（4年次1単位）が必修となっているためです。これらの科目は、1年次の学生が教員のアドバイスを受けながらマイナーをデザインし、4年次にマイナー学修を振り返ってメジャーとの掛け合わせで得られた学修成果をレポートにまとめるという形で、単に科目編成をするだけでなく、その意味についても学生が主体的に考えられるような授業にしています。

・パッケージ型マイナー

各専門分野の科目リストをパッケージとして提供するプログラムです。科目リストの中から選択して学ぶ方式であり、あらかじめマイナーとして学びたい分野が明確である場合に適しています。科目リストのほとんどは、メジャーの科目群から基礎的な科目が選定されています。アメリカの大学でよくみられるマイナー・プログラムと同様のしくみです。修了までに必要な単位数は12単位です。

・オナーズ型マイナー

パッケージ型と同様に科目リストから選択履修するプログラムです。しかし、オナーズ(honors)という語が成績優秀者を表すように、このプログラムを修了するためには次の条件があります。①各プログラムの授業科目を24単位以上修得すること、②3年次末までに各プログラムで定めた「入門科目」を履修すること、③卒業時の総修得単位数が各学部の定める卒業要件数を12単位以上上回っていること、④卒業時の全履修科目GPA(成績評価の指標で1~5)が2.5以上であること、さらにプログラムごとに条件を定めている場合もあります。

b) 履修支援のしくみ

次に、履修支援のしくみとして、NICE オフィスにアカデミック・アドバイザーを配置し、メジャーとマイナーの組み合わせ方や具体的な履修科目の相談ができる体制を整えています。特に、自由選択科目の枠の中で学生が体系的な科目選択をする際、学生個人ではその選択が結局は任意の選択とあまり変わらないということが考えられます。また、各学部の履修要件は様々で、そのうちどの科目区分でマイナーとする科目を履修することができるのかがわからないというケースもあり得ます。

そこで、各学生の課題意識や目的に即してどのようなマイナー・プログラムを履修するとよいのか、またどの科目区分でどのような科目編成をするとよいのか等について、学生へのアドバイスを行う教員をアカデミック・アドバイザーとして2名配置しています。「学修デザイン相談タイム」として、週3日、午前1時間、午後2時間を設定し、問い合わせフォームによる相談や特定の日時の予約面談もできるようにしています。具体的な相談の実施状況については資料3をご覧ください。

また、「分野横断デザイン」という授業では、学生の学修目標やメジャーとの相乗効果を考慮しながら科目編成を行う意義について学びます。この授業のシラバスは資料4にありますが、企業等の社会人を招いてミニ講義を加えて大学での学びが社会にどのようにつながるかなど、学ぶ意味を徹底的に考え、仲間とディスカッションします。この科目は学修創生型マイナーでは必修となっています。

c) プログラムの質保証体制

プログラムの設計においては、プログラムの質保証のしくみを整えることも重要です。全学的な連携体制を強化してメジャー・マイナー制の企画・実施、評価・改善を行うため、全学組織の教育・学生支援機構と教育戦略統括室の協力関係を構築し、令和3年度にはまずメジャーの質保証にかかわる「学位プログラム評価」を実施し、プログラム単位で質保証をしていくための素地を整えました。「3.今後の予定」で述べる通り組織改編がありますので、マイナー・プログラムの質保証に関しては、この「学位プログラム評価」の体制が強化された形で臨めることとなります。

d) 学修成果の可視化

学修成果を可視化するための新潟大学学士カアセスメントシステム(NBAS)のシステム改修を進めており、計画通り一部運用を開始しています(資料1-1)。

(2) 教育プログラムの内容

ここでは、現在展開されているマイナー・プログラムの内容を示します。学修創生型は、学生自身が科目編成をするため具体的な学修内容は様々ですがプログラムとしては1種類です。パッケージ型には27種類、オナーズ型には14種類のプログラムがあり、全部で42プログラムとなります。

プログラムの内容に関する資料は多くなりますので、別冊にまとめました。資料1-2をご覧ください。

なお、令和2年度から現在までのマイナー学修プログラム履修生数は資料1-3の通りです。

(3) 改善点

ここでは、既に開始している本事業を成功に導くために必要な改善点として、どのような課題があるか、またそれらの課題にどのように対応しているかを示します。

本学のメジャー・マイナー制は、文科省の事業として補助金を受けているため、令和3年度に「現地視察」を受けました。その際に付された課題・意見と我々の対応状況を改善点として示します(資料 1-4 参照)。

2. 成果と課題

事業実施体制に関しては、当初の計画通りの体制とすることができました。今回の外部評価に関する業務もそうですが、NICE オフィスは十分に機能しております。履修支援のしくみも順調に進んでいます。マイナー・プログラムの質保証についても、組織改編により体制は強化されるので、本年度10月から令和5年度にかけて教学マネジメントとして具体的なしくみづくりに着手します。学修成果を可視化するためのシステム(NBAS)改修は大きな前進です。課題としては、各学部で実質的な履修管理を行っている「学務係」との連携を深めることが挙げられます。メジャー・マイナー制による履修者をさらに増やそうとするとき、各学部に対して単に報告や意見交換の場を用意するだけではなく、実際の履修登録等の管理を行う教職員との連絡体制づくりが必要と考えています。またNBASは今後も改修を行いますが、改修前には必ずしもすべての学生が頻繁に利用するというものではなかったため、学生にとってさらにわかりやすく利用しやすいシステムにすることが課題となっています。

教育プログラムに関して、所期の計画では令和3年度からマイナー・プログラムを段階的に導入し、順次その数を増やすこととしていましたが、プログラムの数としては、令和4年度に目標を達成できました。これには、専門科目が全学科目化(専門科目を他学部の学生にも開放)していたことと、創生学部の領域学修パッケージや、COC+など先行事業の教育プログラムを援用・継承できたことが大きく寄与しています。課題としては、更に各プログラムの質を高めることと捉えています。

改善点に関しては、「現地視察」を受けての対応を示しておりますが、このほか、日々の業務の中で問題が生じた時には、2週間に1回開くNICE オフィスマーケティングで報告され、多くの場合、その場で対応案が示されたり、協議が行われたりすることで迅速な解決に向けて動くようにしています。課題としては、改善方法を即時に案出できなかつたとき、改善の着手までに時間を要することがある点です。

3. 今後の方針

事業実施体制に関して、令和4年度の10月から現在の「教育・学生支援機構」が「教育基盤機構」として改編されます(資料 1-5)。メジャー・マイナー制を担うのは、新しい機構の中に設置される「未来教育開発部門」となります。学内の組織的な位置づけは多少変わりますが、NICEオフィスそのものは変わらずその機能を果たすこととなります。むしろ、当該部門は本学の中期目標中期計画の達成に向けて全学教育改革の旗印となるものであり、今後はNICEオフィスとともに全学的なメジャー・マイナー制による履修を強力に進めていく方針です。

教育プログラムに関して、マイナー・プログラムの数は十分と思われるので、今後は各プログラムの質を高めることが課題です。これには事業実施体制が深く関わってきます。上述の「教育基盤機構」には「教学マネジメント部門」も設置され、ここで教育プログラムの質保証も担うこととなります。メジャーの質保証に関わる「学位プログラム評価」はこの部門で担当しますので、その知見を活用し、マイナー・プログラムの質保証サイクルの確立をするという方針がございませう。しかし一方で、マイナー・プログラムは、それ自体で学位を与えるものではないため独自の質保証の仕組みが必要ではないかといった議論もあります。教学マネジメントの一環として、このような議論の統合・解決を図りながら令和6年度の事業期間終了までに学内におけるマイナー・プログラムの質保証のしくみを構築する方針です。

改善点に関しては、引き続きPDCAサイクルを効果的に回していくことが方針となります。特にNICEオフィスが所属する組織の改編がありますので、「未来教育開発部門」の部門長及びスタッフにもこれまでの事業実施内容と今後の計画について十分に説明を行い、その協力を得ながら当初の事業目的の達成を目指します。また、中期的な全学の教育改革方針に沿う形を作ることも重要ですので、改善への着手が遅れることのないよう、主担当者が改善計画を立て着実に実行する体制を作ります。

2. 学修成果の評価

項目: 教学 IR・学修成果の可視化

担当者: 齋藤 有吾、長 創一朗

*評価は、以下の4段階の区分により行う。

区分	評価
1	所期の計画以上の取り組みが行われている
2	所期の計画と同等の取り組みが行われている
3	所期の計画に比べ、全体の取り組みが遅れているが、一部は同等の取り組みが行われている
4	所期の計画に比べ、取り組みが遅れている。

評価	2 所期の計画と同等の取り組みが行われている
理由)	<p>教学 IR・学修成果の可視化について、以下の事項から「2 所期の計画と同等の取り組みが行われている」と考えます。</p> <p>① <u>ディプロマサプリメント</u></p> <p>新潟大学学士カアセスメントシステム (NBAS) のシステムを通してディプロマサプリメントが発行できるよう、その掲載内容 (メジャー・マイナーごとの学生の成績・単位数・GPA、学修成果、修得科目等) の議論を進めています。</p> <p>② <u>学修成果の可視化にかかる調査・分析</u></p> <p>学務情報システム (LMS) を用いた全学の学生に対するオンラインアンケート調査やマイナー履修者へのインタビュー、他大学の事例調査を実施し、学修成果の可視化に向けた有用な情報を得られています。加えて、教務課と連携し、学生の成績や履修データ恒常的に収集・分析する体制が整いました。</p>

【取組の現況】

1. 進捗状況

① ディプロマサプリメント

新潟大学学士カアセスメントシステム (NBAS) のシステム改修が計画通り行われており、一部運用を開始しています。また、システムを通してディプロマサプリメントが発行できるよう、その掲載内容 (メジャー・マイナーごとの学生の成績・単位数・GPA、学修成果、修得科目等) の議論を進めています。メジャー・マイナー別のディプロマサプリメントの掲載内容案は、資料 2-1 をご覧ください。

② 学修成果の可視化にかかる調査・分析

教学 IR における学生データの収集・分析体制の構築に向けて、学生の成績や履修データを恒常的に収集・分析できる体制を整えました。さらに、学修成果の可視化のための実態調査として、学務情報システム (LMS) を用いた全学の学生に対するアンケート調査 (「新潟大学のおすすめ科目アンケート」令和 3 年 4 月実施、対象全学生 10,150 人、回収率 10%) (資料 2-2)、「(卒業予定者に対する) 大学での学びについてのアンケート」(令和 4 年 2 月) (資料 2-3)) とマイナー履修者へのインタビュー調査

(令和4年3月)を実施しました。他大学の事例として、桜美林大学へ訪問調査を実施しました(令和4年5月)(資料2-4)。

2. 成果と課題

① ディプロマサプリメント

現時点では学期単位でGPAと成績段階別単位取得状況が可視化され、学びを評価するための項目は学位プログラムごとに設定できます。本学の学生情報は、学生カルテとしてこれまで成績関連の情報はまとまっていたが、システム改修により令和4年3月に卒業時の進路情報が統合されました。今後は、アクセス権の管理などセキュリティ面も考慮しながら可能であれば入試願書等で入手される高校時代の情報や毎年度の健康診断等の情報との統合を進める予定です。さらに、メジャー・マイナー制による学びの状況を可視化し、それをディプロマサプリメントとして統合的に提示できるようにするなど、さらに改修を進める予定です。

② 学修成果の可視化にかかる調査・分析

調査・分析結果は、NICEプログラムの教職員に逐次報告し業務の改善に役立てています。加えて、「オンライン授業における学生の学修等に関する実態調査」の分析結果は、「令和3年度 新潟大学全学FD・SDプログラム 主体的学修を推進する新潟大学の取り組み(令和4年3月9日)」にて本学教職員に報告しました(資料2-5)。マイナー履修者へのインタビュー調査の分析結果は、「新潟大学におけるメジャー・マイナーの学習成果に関する学生の認識」というタイトルで大学教育学会第44回大会(2022年6月5日、岡山理科大学)にて発表しました(資料2-6)。これらの調査・分析によって、マイナーを履修している学生間でのつながりが学修成果につながるということが明らかになり、今後は、学生の学びのコミュニティづくりをどのように支援できるかを検討することが課題として浮かび上がってきました。また、他大学の訪問調査や、本学の実践の積み重ねから、マイナーにおけるプログラムレベルの学修成果を捉えることや、メジャー・マイナーの統合的な学修成果を捉えることの難しさが明らかになり、その具体的な方策を議論する必要性が出てきました。

3. 今後の方針

① ディプロマサプリメント

スループット(在学中)、アウトプット(卒業時)の学生情報の統合が進められており、それをいかにディプロマサプリメントの形で提示できるようにするかを検討を行い、令和5年度から実装していきます。また、入試課等関係部署と連携し、インプット(入学前)情報の統合を目指します。今年度中に統合に向けた検討を行います。

② 学修成果の可視化にかかる調査・分析

質保証における評価指標としたり、ディプロマサプリメントに掲載したりするため、マイナーにおける学修成果をどのように捉えていくのか、議論を進めていきます。また、継続的にマイナー履修者や卒業予定者へのアンケート及びインタビューを実施し、定量的・定性的な学生データの蓄積を目指します。調査・分析から派生的に生じた課題として「学生の学びのコミュニティづくり」がありました。これについては「学修支援」のコミュニティづくりへつなぎます。このように、プロジェクト全体の活動を進めていくため、派生的に浮かび上がった課題へも連携して対応していきます。

3. 学修支援

項目: アカデミック・アドバイジングと学修デザイン相談

担当者: 神田 麻衣子

*評価は、以下の4段階の区分により行う。

区分	評価
1	所期の計画以上の取り組みが行われている
2	所期の計画と同等の取り組みが行われている
3	所期の計画に比べ、全体の取り組みが遅れているが、一部は同等の取り組みが行われている
4	所期の計画に比べ、取り組みが遅れている。

評価	2 所期の計画と同等の取り組みが行われている
理由)	<p>分野横断型学修を希望している学生に対し、対話を通じて思考を可視化し、本人が潜在的に志向しているマイナー学修の方向性を引き出して、具体的な科目選択にまでつなぐアカデミック・アドバイジングを提供しています。また、相談時に顕在化した個々の学生のニーズに応じて、専門部署へのリファラーなど、適切な学修支援を実施しています。現在すでに稼働しているスチューデント・アシスタント(SA)体制を発展させ、今後はピア・サポートを導入することで、より学修者本位の学びを支援する体制の構築を見込んでいます。</p>

【取組の現況】

1. 進捗状況

NICE プログラムでの学修支援は、アカデミック・アドバイザー(AA)が中心となり、マイナー履修支援科目「分野横断デザイン」を起点に実施しています。学修支援の目的は、マイナー履修者の目標達成を、主にマイナーの履修指導を通じて支援することです。

① アカデミック・アドバイジング

令和3年度は、「分野横断デザイン」履修者を主な対象として実施しました。学生が分野横断型の学びを進めるには、自身の興味や将来展望、関心のある社会課題が単一の学問分野だけで完結するものではないことを認識することが重要です。同時に、他の領域の専門家と話し合うためには、他者との協働も不可欠という認識も持つ必要があります。マイナー履修を行ってみたいと考える1、2年次学生の多くは、別のことをやってみたいということへの意欲はあるものの、分野横断の方向性を具体的に定め、履修可能な科目を選択することに困難を覚えています。

そこで、アカデミック・アドバイジングでは、学生に質問を投げかけ、その答えをキーワードとしてホワイトボードに書き出すという方法で学生の興味・関心を可視化し、本人がマイナーとして学びたいことを掘り下げていけるよう支援をしています。さらに、出てきたキーワードを分野的に腑分けしたりすることで、具体的な分野横断のイメージをもってもらいます。メジャー学修の目標や学内外での学修経験なども踏まえ、必要に応じて履修可能な科目の提案を行っています。アドバイジング終了時には、思考の可視化の記録としてホワイトボードの撮影を学生に促しています。相談だけでアドバイジングが完了するわけではありません。相談時の可視化された考えをもとに、さらに自分で考えていく手掛かりになることを期待しているためです。

マイナー履修は、およそ1年半から2年にわたる長期的なものです。そこで、マイナー履修の意

欲を継続させるためにもフォローアップが欠かせません。令和 3 年度 1 学期の「分野横断デザイン」の修了者から、マイナー履修の進捗確認を目的としたフォローアップを各ターム終了時に実施しています。また、マイナー履修についてアドバイザーに相談するだけでなく、マイナー履修者間で履修科目の情報を共有したり、自分の学びを振り返ったりする機会となる「情報交換会」も同時期に開催しています。

② 学修デザイン相談

令和 3 年 4 月より、学期期間中の火、木、金曜日に「学修デザイン相談」を開設しています。「学修デザイン相談」は、マイナー履修に関する対面での相談で、マイナー履修に関するものであれば、対象者は問いません。

令和3年度では、相談者の大半は「分野横断デザイン」履修者でした。そのため、相談内容は上述したようにマイナー履修計画の立案に関するものでした。対話を進めていくなかで、相談者が成績の低迷に悩んでおり、それが特にオンライン授業に感じている困難に起因する可能性があることがわかったというケースもあります。このように学修上の困難に対して専門的な対応が必要と判断した場合は、学内の担当機関を紹介しています。

「分野横断デザイン」履修者以外の相談は、多くがマイナー履修全般に関する問い合わせです。中には、マイナー制度を資格取得コースとして誤って認識しているケースも複数あり、なかには資格取得を本人が強く希望しているにもかかわらず、在籍する学部では取得が見込めないという深刻なケースもありました。こうした学生には、在籍している学部での学びの意義や将来への可能性を説明し、目標達成のためには広い選択肢があることを伝えています。

2. 成果と課題

「分野横断デザイン」の授業アンケートでは、「分野横断デザイン」受講後も継続して「学修デザイン相談」（アカデミック・アドバイジング）を利用したいかを尋ねています。1人以外の 97%が「はい」と回答しました（R3 年度 1 学期、2 学期を合わせた受講者は 62 人に対する授業アンケート結果。回答率は 51.6%）。なお、「いいえ」と答えた1名の学生も、授業後のフォローアップ連絡を通じて「学修デザイン相談」を行いました。

このように、授業アンケートでの肯定的な結果や、また、実際に「学修デザイン相談」を継続的に利用する学生、「情報交換会」でのマイナー履修者間の交流に積極的な学生もいることから、学修支援の取組に関して十分な成果があったといえます。

一方で、アカデミック・アドバイジング制度の全学拡大に向けた整備が十分ではないことが今後の課題として挙げられます。アドバイジングの知見は蓄積されつつあり、相談記録等のデータベース化も順次進めています。今後は学内で共有可能な程度にまで体系化することが課題です。

3. 今後の方針

① ピア・サポート体制の構築

「学修デザイン相談」の利用者から、同じ学部の先輩からマイナー履修について話が聞きたいとの声が挙がっています。各学部・主専攻プログラムにおけるメジャー学修のノウハウやマイナーとの両立方法などは、学生が互いに支援していくことが望ましい事項です。スチューデント・アシスタント(SA)によるピア・サポート体制を令和 4 年度中に立ち上げ、アカデミック・アドバイザー(AA)とともにメジャー・マイナー学修を総合的に支援する体制を整えていきます。

② アカデミック・アドバイジングの知見の体系化

全学的にアカデミック・アドバイジング制度を拡大するためには、本プログラムでの知見を、各学部で導入可能なものとして体系化する必要があります。令和 4 年度中に、アカデミック・アドバイジングを含む相談記録をデータベース化し、特徴的なケースの抽出を開始します。その後、本学のメジャー・マイナー学修で必要となるアカデミック・アドバイジングの知識や手法の体系化に取り組み、全学 FD 等の機会や学部との連携を通して、同制度の学内普及を目指す予定です。

4. 教育制度 (授業内容)

項目: 学修創生型マイナー支援科目の開設と実施

担当者: 竹岡篤永

*評価は、以下の4段階の区分により行う。

区分	評価
1	所期の計画以上の取り組みが行われている
2	所期の計画と同等の取り組みが行われている
3	所期の計画に比べ、全体の取り組みが遅れているが、一部は同等の取り組みが行われている
4	所期の計画に比べ、取り組みが遅れている。

評価	3 所期の計画に比べ、全体の取り組みが遅れているが、一部は同等の取り組みが行われている
----	---

理由)

1. 進捗状況

R3 年度に「分野横断デザイン」*を開講しました。また、「NICE プログラム」の学修成果の到達度を測る指標(5つの指標)に沿った評価ルーツ(ルーブリック)を開発しました。

2. 成果と課題

R3年度の「分野横断デザイン」の履修者(合格者)数は、1学期・2学期をあわせて 55 人でした。R4年度1学期の履修登録者は 47 人でした(合否は R4. 8 末に確定)。授業には、R3 年度2学期より、SA(Student Assistant)の活用、社会・仕事との接続を組み入れました。

質の高い授業を開発・実施できており、受講者の満足度はたいへん高いものとなりましたが(R3 年度1学期・2学期授業アンケート結果)、受講者数が目標を下回るという課題があります。

3. 今後の方針

授業の質を維持しつつ、数値目標達成を実現するため、2つの取り組みを実施します。1つめは、「分野横断デザイン」修了者(SA)による相談会の実施です。履修登録時期(4月、10月)に併せて開催します(R4 年度4月は実施済み)。2つめは、学修創生型マイナー以外の2つのマイナーを選んだ学生への展開です(現時点でも受講は可能です)。R4 年度2学期より実施予定です。

*「分野横断デザイン」は学修創生型マイナーの支援科目です。「分野横断デザイン(入口科目)」「分野横断リフレクション(出口科目)」の2科目があり、3つあるマイナー(学修創生型、パッケージ型、オナーズ型)のうち、学修創生型マイナーを選択した学生は、両方を順に履修することが必須です。

参考) 学修創生型マイナー支援科目にかかわる所期の目標を下表に示します。(波下線部が本書類作成時点での目標値)

No	項目	目標値
1	支援科目「分野横断デザイン」履修者数	R3 年度: 120 人 R4 年度: 160 人 R5 年度: 200 人 R6 年度: 240 人
2	支援科目「分野横断デザイン」履修者の卒業時平均 GPA	R6 年度: 3.4
3	支援科目「分野横断リフレクション」を履修の上、マイナー学修を修了した者	R6 年度: 120 人
4	支援科目「分野横断リフレクション」履修者の4年間の学びの満足度	R6 年度: 80%

【取組の現況】

1. 進捗状況

R3 年度に、学修創生型マイナーの入口科目にあたる「分野横断デザイン」を開講しました。学修創生型マイナーは、学生が自分自身で科目を選び、マイナー学修をつくりあげることの特徴があります。しかし、数千の中から自分の興味・関心にあった科目を選びだすことはマイナー学修への意欲が高い学生にとっても難しいことです。そこで、入口科目「分野横断デザイン」は、マイナー学修計画書作成を目標のひとつに据えました。また、自らの興味・関心を明確に把握するために、授業ではグループ学習による意見交換に重きを置きました。さらに、個別のニーズに対応するため、教員との対話によって視野を広げ、具体的な科目選びの支援をする「学修デザイン相談」を設置しています。

R3 年度2学期からは、「分野横断デザイン」の修了生の中から SA (Student Assistant) を採用し、授業中のグループ学習のファシリテーションを行うようにしました。SA はグループ学習の雰囲気づくりをし、また、求めに応じ修了生ならではのアドバイスも行います。

授業設計と並行し、「全学分野横断創生 (NICE) プログラム」の学修成果の到達度を測るため、ルーブリックを開発し、運用を始めました。ルーブリックによって、学生は自分の目指すところを理解し、進捗を自分で確認できます。教員もこれにそった評価が可能になります。

2. 成果と課題

R3年度の「分野横断デザイン」の履修登録者数は、1学期・2学期合わせて 62 人で、うち合格者は 55 人でした。不合格者は最初から授業に出てこないなど、出席しなくなった学生でした。

授業アンケートの結果 (回答率 51.6%) から、授業に対する満足度は非常に高かったことがうかがえました。また、授業の核となる学生同士、学生と教員のやりとり (グループ学習、学修デザイン相談、課題へのコメント) に関して、授業の目標達成の寄与度について尋ねたところ、これらの活動の効果も高かったことが示され、質の高い授業となっていることが示唆されました。さらに、SA がファシリテーターを務めた授業内のグループ学習についても、R3年度2学期の授業アンケートの結果より、効果があったという結果が示されました。

授業アンケートの結果より、質のよい、満足度の高い授業が開発・実施されていることが示されましたが、受講者数は目標を下回るという課題が挙げられます。

3. 今後の方針

数値目標を達成するため、次の2つの取り組みを実施します。

- ◆「分野横断デザイン」修了者 (SA) による相談会の実施 → 履修登録時期 (4月、10 月) に併せて開催

- R4 年度4月は実施済み。10 月もすでに予定済み

- ◆学修創生型マイナー以外の2つのマイナーを選んだ学生への展開 (現時点でも受講は可能)

- R4 年度2学期から実施 (ただし、受講者の数に応じて調整あり)

その他、「分野横断デザイン」の開講日時を増やすなども状況に応じて実施していく予定です。

5. 企業・社会との接続

項目：大学教育と社会・仕事との接続

担当者：竹岡篤永

*評価は、以下の4段階の区分により行う。

区分	評価
1	所期の計画以上の取り組みが行われている
2	所期の計画と同等の取り組みが行われている
3	所期の計画に比べ、全体の取り組みが遅れているが、一部は同等の取り組みが行われている
4	所期の計画に比べ、取り組みが遅れている。

評価	1 所期の計画以上の取り組みが行われている
理由)	<p>R3 年度に開講した「分野横断デザイン」の中で、2学期より、専門領域と社会・仕事との接続についてのミニ・レクチャーを開始しました。R3 年度は、同授業を担当している教員7人がそれぞれの専門について、R4 年度は新潟大学サポーター倶楽部会員企業4社が、「仕事の中の分野横断」として話をしました。アンケート結果、および、質問・感想の記述分析より、受講者、企業の両者から肯定的な反応が得られたことが確認できました。</p>

【取組の現況】

1. 進捗状況

メジャーに加えマイナーを履修することにより、かつては存在しなかった諸課題に対応するための人材育成をすることを大きなねらいとし、まずは、マイナー履修へのモチベーションを高めるため、R3 年度に開講した「分野横断デザイン」の中で、2学期より、専門領域と社会・仕事との接続についてのミニ・レクチャーを開始しました。R3 年度は、同授業を担当している教員7人がそれぞれの専門について話をしました。R4 年度は新潟大学サポーター倶楽部会員企業4社が、「仕事の中の分野横断」として話をしました。

2. 成果と課題

多くの受講者がミニ・レクチャーへの質問・感想を寄せ、また、質問・感想の分析結果から、受講者が現実の仕事は一つの専門分野ではできないことを知り、マイナー履修へのモチベーションを高めたことがうかがえました。企業へのアンケート結果からは、ミニ・レクチャーの10分は十分ではなかったものの、分野横断というテーマが現場の実情に沿ったものであることが示されました。

3. 今後の方針

今後も、新潟大学サポーター倶楽部会員企業と連携しながら、参加企業の業種を多様なものとしていき、地域のニーズを拾い上げる一助になる取り組みにしていく予定です。また、ミニ・レクチャー動画の後悔許諾を得ている企業については、R4 年度2学期より、NICE プログラムのホームページに掲載します。

6. 高大接続

項目：高等学校、高校生、保護者等への広報

担当者：神田 麻衣子、長 創一郎

*評価は、以下の4段階の区分により行う。

区分	評価
1	所期の計画以上の取り組みが行われている
2	所期の計画と同等の取り組みが行われている
3	所期の計画に比べ、全体の取り組みが遅れているが、一部は同等の取り組みが行われている
4	所期の計画に比べ、取り組みが遅れている。

評価	2 所期の計画と同等の取り組みが行われている
理由)	<p>新型コロナウイルス感染症の拡大により、オープンキャンパスや高校訪問などの対面イベントが中止となる中で、パンフレットの配布やウェブサイトの充実化、オープンキャンパスでオンラインイベントを開催するなど、一定の成果を挙げています。イベント参加者の満足度も高く、既存の取組を今後も継続する意義があります。今後、情報提供体制において学部との連携を進めることで、高校生・教職員の間で本プログラムに対する周知が進めば、計画以上の取組となることも期待されます。</p>

【取組の現況】

1. 進捗状況

大学入学前より、メジャー・マイナー制という学修制度について理解を深めてもらうこと、同時に本プログラムの周知を図ることを目的として、以下のような活動を展開しています。

① 高等学校に対する本プログラムの周知（パンフレット配布、大学広報誌との連携）

令和2年度は県内の高等学校等を中心に、本プログラムのパンフレットを一斉配布しました。令和3年度は、本学の高大接続部門と連携し、全国の高等学校で本学志願者の多い250校に対して重点的にパンフレットの配布を実施しました。また、本学入試課とも連携し、入試課が発行する『大学案内2023』の取材に協力しました（資料6-① マイナー履修者の「学修デザイン相談」の利用風景の掲載）。なお、同『案内』は、高校生が志望学部にかかわらず目を通すものであるため、本プログラムの具体像の普及に対して大きな効果が見込まれるものです。

② ウェブサイト、ソーシャルメディアによる広報活動

NICE プログラムホームページ参照

<http://www.iess.niigata-u.ac.jp/niceprogram/index.html>

令和2年度に本プログラムのウェブサイトを開設し、履修方法や学修パッケージの一覧（資料6-②）を掲載したほか、分野横断型学修をわかりやすく提示した動画を掲載しました（資料6-③）。

令和3年度には、ウェブサイト上に「よくある質問（FAQ）」（資料6-④）などのほか、「高校生・受験生のみなさんへ」（資料6-⑤）というページを新設し、マイナー履修者の生の声、およびマイナー履修中の時間割（資料6-⑥）を掲載するなど、本学志願者により訴求力のある情報を実装しました。また、

大学ウェブサイト・トップページのスライド画面に本プログラムへのリンク画像を掲載したほか、同年度末には Twitter(資料6-⑦) アカウントを開設し、若者世代によりアクセスしやすい環境整備や情報の提供に力を入れているところです。

③ オープンキャンパスにおけるイベント実施

新型コロナウイルスの感染拡大を受け、令和 3、4年度とも、オープンキャンパスはオンラインでの実施となりました(両年度とも 8 月開催)。

令和3年度は、本プログラムでのマイナー履修がスタートして間もない時期だったこともあり、本プログラムの理解を目的とした紹介動画(資料6-⑧)を公開したほか、ウェブサイトの「問い合わせフォーム」を通して、質問を受け付けました。令和 4 年度のオープンキャンパスは、マイナー学修の意義について説明する動画(資料6-⑨)をオンデマンドで公開したほか、説明会「幅広い学びで力をつける!マイナー(副専攻)履修ナビゲーション」(各日 2 回、計 4 回)、個別相談会(1 人 15 分、各日 6 セッション、計 12 セッション開設)をオンラインで開催しました。両イベントには、本プログラムでスチューデント・アシスタント(SA)を務める学生が加わって、マイナー履修の実感について述べたり、学修計画を紹介したりしたほか、参加者から寄せられた質問に回答しました。(資料6-⑩)

2. 成果と課題

令和 4 年度のオープンキャンパスで開催した個別相談から、『大学案内』や大学ウェブサイトを入口として、本プログラムウェブサイトアクセスしたという声が複数ありました。また、高校の教員から本プログラムを紹介された参加者もあり、本プログラムの周知やマイナー履修への理解が進んでいることが確認できました。なお、オープンキャンパス参加者アンケート(資料6-⑪)でも、マイナー制度について「かなり興味を持った」との回答が大半を占めており、これまでの取組に一定の成果があったといえます。

一方でイベント参加者数は 2 日間で計59名となっており、本学志望者の間で本プログラムの周知が進んでおらず、マイナー履修への十分な関心を喚起できていない状況です。オープンキャンパスが対面で実施された場合には、キャンパス内での人流に対し本プログラムについてアピールすることができましたが、現状では叶いません。各学部のオンラインプログラムには、多数の参加者があったことを踏まえ、今後、各学部の広報媒体に本プログラムの情報を掲載するなど、学部との連携が必要です。

3. 今後の方針

① 情報発信の充実化

令和 4 年度のオープンキャンパスで開催した説明会にて、マイナー学修パッケージの修了認定単位数に言及したところ、参加者より大学の単位制度に関する質問が相次ぎました。こうした「マイナー学修以前」の疑問に答えることが、マイナー学修の意義の理解や大学での学びを具体的に考えることにつながるの明白です。そこで、大学の教育制度についての説明を含んだマイナー紹介動画を制作し、令和 4 年度中に本プログラムウェブサイト公開する予定です。

また、令和 4 年度中に、SA を中心としたマイナー履修のピア・サポートコミュニティを立ち上げ、令和 5 年度以降に、ここを起点とした高校生向けの情報発信やオープンキャンパスと連動したイベントの企画・実践を開始したいと考えています。

② 学部との連携

大学入試が学部単位で実施されていることもあり、高校生の情報収集は学部レベルであることが多いという現状があります。令和 5 年度入試に向けて、各学部と連携し、学部ウェブサイトや学部パンフレットに本プログラムの情報を掲載することで、より広く本プログラムの周知を図りたいと考えています。

資料編

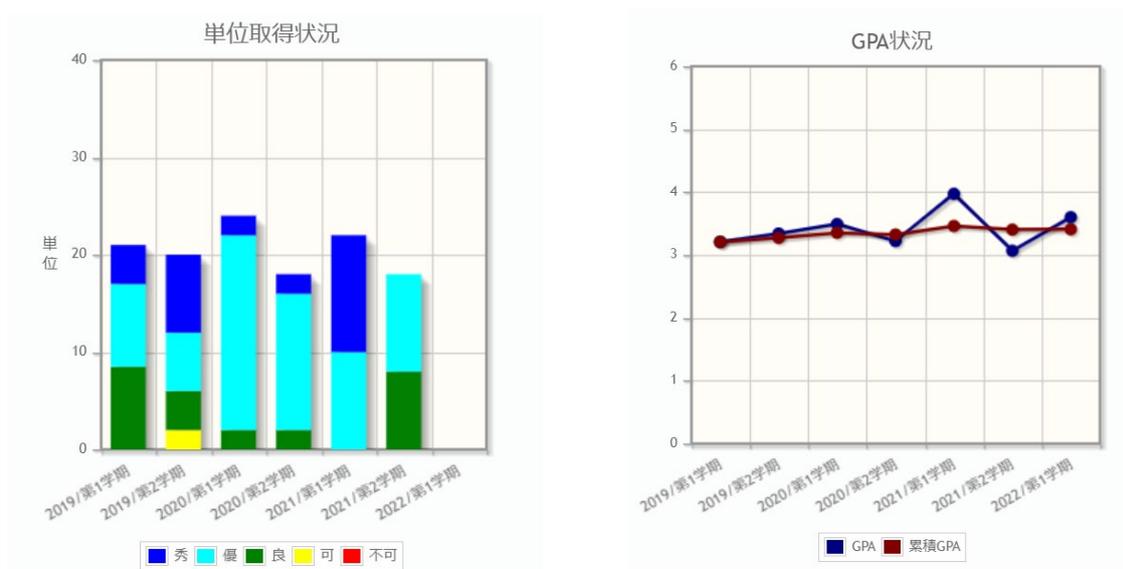
学修成果を可視化するための新潟大学学士力アセスメントシステム（NBAS）の改修について

学士力アセスメントシステム（Niigata University Batcheler Assessment System: NBAS）を開発し、利用してきましたが、今後メジャー・マイナー制の学内普及が進むことによって、新たな可視化の枠組みが必要となります。

教学マネジメントの一環として、本事業を契機としてその改修を図っているところです。単位取得状況や GPA に関して、メジャーとマイナーを区別して表すことを目標として改修を進めています。

マイナー・プログラムは令和6年度に本格開設する計画でしたが、予想以上に早く多くのプログラムを展開できました。しかし、メジャーとマイナーを区別するための改修は、予算的な制約もあるため、ほぼ計画通りに進める必要があります。

令和4年度は、次のような形式で単位取得状況と GPA の可視化を実現しました。令和6年度にはこれらをメジャーとマイナーで区別する形式で可視化する計画です。



また、学修者主体の学びを進めていくには、自らの学修に関して、どのような目標を立て、その成果をどのように評価しているのか、学生が自分のことばによって表すことによる振り返りもその学修の意味付けにおいて重要な働きがあります。

特に、メジャー・マイナー制における学修に対して学生たちがどのような意味づけをしているのかを把握し分析することにより、教育の改善につながる有効な情報を得ることができます。

先の改修に合わせてシステムとしては、そのような学修の振り返りをする機能を備えることができます。どのような観点で学修の振り返りをさせるのかについては、全学に共通する項目と各プログラム独自の項目を立てるという方向性で議論を進めています。

現在は、まだ項目内容が確定していないため、次に例示用の画面を示します。青字で書かれている項目部分は、全学的に、あるいは教育プログラムの単位で比較的自由に設定できます。また、右側の数直線により、学生自身が各項目の記載内容に関して自己評価をすることができます。

自己PR(カテゴリ1)		
過去の自分(カテゴリ1)	小学校、中学校時代の自分を振り返り、得意だったことを記入してください (必須)	<div style="border: 1px solid #ccc; padding: 5px; min-height: 30px;">123456789012345</div> <p style="font-size: small; color: red;">10文字以下で入力してください。</p>
	高校時代の自分を振り返り、得意だったことを記入してください (必須)	<div style="border: 1px solid #ccc; padding: 5px; min-height: 30px;">12345678901234567890</div> <p style="font-size: small; color: red;">10文字以下で入力してください。</p>
	両親や祖父母、兄弟等の身近な人で尊敬できる人とその理由を記入してください (必須)	<div style="border: 1px solid #ccc; padding: 5px; min-height: 30px;">@@@@@</div> <p style="font-size: small; color: red;">目標は必須です</p>
現在の自分(カテゴリ2)	この大学を選んだ理由 (必須)	

資料1-3

20220819 NICE作成

2021年度 マイナー履修申請学生数

学部	学士1年	学士2年	学士3年	学士4年	
人文学部	16	48	34	19	
教育学部	0	4	5	2	
法学部	17	22	8	3	
経済学部	0	1	7	10	
経済科学部	42	35	0	0	
理学部	31	40	11	5	
医学部	4	6	5	1	
歯学部	0	0	0	0	
工学部	47	57	24	2	
農学部	13	42	13	10	
創生学部	1	4	8	1	
合計	171	259	115	53	598

学修創生型

学部	学士1年	学士2年	学士3年	学士4年	
人文学部	1	3	0	0	
教育学部	0	0	1	0	
法学部	0	1	0	0	
経済学部	0	0	0	0	
経済科学部	6	1	0	0	
理学部	5	0	0	0	
医学部	1	0	0	0	
歯学部	0	0	0	0	
工学部	2	3	0	0	
農学部	1	1	0	0	
創生学部	0	1	0	0	
合計	16	10	1	0	27

パッケージ型

学部	学士1年	学士2年	学士3年	学士4年	
人文学部	2	4	1	0	
教育学部	0	0	0	1	
法学部	7	3	0	0	
経済学部	0	0	1	2	
経済科学部	8	16	0	0	
理学部	5	7	6	0	
医学部	0	1	2	1	
歯学部	0	0	0	0	
工学部	7	16	7	0	
農学部	2	13	3	0	
創生学部	0	2	6	0	
合計	31	62	26	4	123

オーナーズ型

学部	学士1年	学士2年	学士3年	学士4年	
人文学部	9	39	33	19	
教育学部	0	4	4	1	
法学部	8	16	7	3	
経済学部	0	1	6	8	
経済科学部	22	15	0	0	
理学部	16	33	5	5	
医学部	2	5	3	0	
歯学部	0	0	0	0	
工学部	30	37	17	2	
農学部	7	25	10	10	
創生学部	1	1	2	1	
合計	95	176	87	49	407

未定

学部	学士1年	学士2年	学士3年	学士4年	
人文学部	4	2	0	0	
教育学部	0	0	0	0	
法学部	2	2	1	0	
経済学部	0	0	0	0	
経済科学部	6	3	0	0	
理学部	5	0	0	0	
医学部	1	0	0	0	
歯学部	0	0	0	0	
工学部	8	1	0	0	
農学部	3	3	0	0	
創生学部	0	0	0	0	
合計	29	11	1	0	41

資料I-3

20220622 NICE作成

2022年度 マイナー履修申請学生数

学部	学士1年	学士2年	学士3年	学士4年	修士1年	
人文学部	19	36	93	75	0	
教育学部	9	7	9	10	0	
法学部	10	25	35	19	0	
経済学部	0	0	2	32	0	
経済科学部	31	83	65	0	0	
理学部	16	57	78	31	0	
医学部	7	7	10	8	1	
歯学部	0	0	0	0	0	
工学部	9	113	93	36	0	
農学部	14	45	57	37	0	
創生学部	0	6	19	10	0	
合計	115	379	461	258	1	1214

学修創生型

学部	学士1年	学士2年	学士3年	学士4年	修士1年	
人文学部	2	5	5	0	0	
教育学部	1	1	0	1	0	
法学部	3	2	3	0	0	
経済学部	4	0	0	0	0	
経済科学部	0	10	2	0	0	
理学部	0	8	1	0	0	
医学部	1	1	0	0	0	
歯学部	0	0	0	0	0	
工学部	2	6	2	0	0	
農学部	4	5	1	0	0	
創生学部	0	0	2	0	0	
合計	17	38	16	1	0	72

パッケージ型

学部	学士1年	学士2年	学士3年	学士4年	修士1年	
人文学部	6	4	20	2	0	
教育学部	4	1	1	1	0	
法学部	1	8	10	0	0	
経済学部	0	0	0	8	0	
経済科学部	14	20	32	0	0	
理学部	5	13	20	9	0	
医学部	2	0	1	2	1	
歯学部	0	0	0	0	0	
工学部	3	42	36	9	0	
農学部	3	10	19	10	0	
創生学部	0	3	14	5	0	
合計	38	101	153	46	1	339

オーナーズ型

学部	学士1年	学士2年	学士3年	学士4年	修士1年	
人文学部	7	22	65	73	0	
教育学部	1	4	8	8	0	
法学部	1	12	20	18	0	
経済学部	0	0	2	24	0	
経済科学部	5	46	27	0	0	
理学部	6	32	57	22	0	
医学部	3	5	9	6	0	
歯学部	0	0	0	0	0	
工学部	2	55	53	27	0	
農学部	3	27	35	27	0	
創生学部	0	3	2	5	0	
合計	28	206	278	210	0	722

未定

学部	学士1年	学士2年	学士3年	学士4年	修士1年	
人文学部	4	5	3	0	0	
教育学部	3	1	0	0	0	
法学部	5	3	2	1	0	
経済学部	0	0	0	0	0	
経済科学部	8	7	4	0	0	
理学部	5	4	0	0	0	
医学部	1	1	0	0	0	
歯学部	0	0	0	0	0	
工学部	2	10	2	0	0	
農学部	4	3	2	0	0	
創生学部	0	0	1	0	0	
合計	32	34	14	1	0	81

【資料 1-4】

令和3年度知識集約型社会を支える人材育成事業採択事業計画に係る委員現地視察報告書より抜粋

現地視察において付された課題・意見	対応状況
<p>①「分野横断デザイン」は、現在3つのマイナー学修の1つである「学修創生型マイナー」でのみ必修科目となっているが、履修学生のこの科目に対する評価が非常に高いことから、残りの2つのマイナー学修を選択する学生の履修についても検討されたい。</p> <p>②現在、NICE プログラムの説明は、1年生の新年度ガイダンスのみで行われているが、2年生のガイダンスでも説明することで、より多くの学生に NICE プログラムへの参加を促すことが望まれる。</p> <p>③マイナー科目を履修する際、メジャー科目との時間割重複により選択できないといった制約が見受けられる。明確な解決策を見出すことは容易ではないかもしれないが、課題意識を持ち続けることが望まれる。また、マイナー科目の中には「前提科目」が存在するものがあり、現状では、学生が個々にシラバスから遡って必要科目を調べている様子が見受けられるが、より容易に把握できる仕組み作りが望まれる。</p> <p>④年度進行に伴い AA (アカデミック・アドバイザー) への相談件数の増加が予測されることから、施設設備や学修相談体制のより一層の充実を期待したい。</p>	<p>①令和4年度の履修に向けて、ビデオによるマイナー履修ガイダンス、および、履修相談会を開催し、マイナーの種類を問わず履修可能であることや履修のメリットを周知していった。また、令和4年度の全学履修ガイダンスとあわせて、マイナー履修相談会を実施し、そこで「分野横断デザイン」修了生が相談員となり、履修実態を生の声として伝えた。</p> <p>一方、現在の授業実施方法で「分野横断デザイン」の履修者を拡充していくためには、単純に人的資源の不足がある。教育・学生支援機構の教員人事は本部と他の機構とを合わせた全体の中で進める必要があり、メジャー・マイナー制の全学展開に必要であることを引き続き強調し、教員確保に尽力している。</p> <p>②1、2年生を対象に、相談会の実施やガイダンスビデオの視聴を、学務情報システムを通じて広く呼び掛けた。</p> <p>③マイナー科目だけの課題ではなく、メジャー科目とともに考えていく必要がある。クォーターとセメスターが並行していることも時間割重複の一因となっている。講義科目を一律にクォーターに合わせて開講するよう求めた「メジャー・マイナー制における授業科目開設のガイドライン」を全学の教務専門委員会で審議し、承認された。また、「前提科目」については、1つ1つの科目シラバスを調べなくても把握できるように、マイナー・プログラムごとに履修要件や必要科目のリストにアクセスできるようにする。</p> <p>④令和3年度は、相談者多数の場合は、より収容定員の多い教室等に相談会場を変更して対応した。恒常的な相談施設の検討を実施する予定である。</p>

⑤新潟大学では、従来から先進的な学修成果可視化の仕組みを持っている。その観点からも、大学全体のディプロマ・ポリシー及び各学位プログラムのディプロマ・ポリシーに対し、本事業計画で構築される NICE プログラムがどのような関係性を持ち、またディプロマ・ポリシーを達成するにあたりどのような位置づけとなるかを整理するために、カリキュラムツリーの作成等を含めて、引き続き学内で十分な検討を行っていただきたい。

⑥申請時の計画調書や新潟大学が作成している「NICE プログラムパンフレット」にある「文理複眼」という考え方を社会に対して正確に伝えるとともに、学生に NICE プログラムの意義や育成する人材像が明確に伝わるような周知活動が望まれる。

⑦同一の授業において、その科目がメジャー科目となる学生とマイナー科目となる学生との間に教育内容や成績評価基準の差異が生じることのないよう、引き続き授業運営の標準化に努めていただきたい。

⑧NICE プログラムへの参加を目指し新潟大学へ入学する学生が増加すれば、他大学への波及効果も期待できる。そのためには、高校の進路担当教員や受験生の心を掴む広報が必要であり、更なる広報活動の充実を検討されたい。

⑤評価担当副学長、教育改革担当副学長、学務担当副学長および教学マネジメント担当の専任教員により、メジャー・マイナー制を前提としたディプロマ・ポリシーについて協議を進めている。特に、1つの学位プログラムの中で、メジャーとマイナー、共通教育の学修を行うこととなることから、各学位プログラムの人材育成目標と学位授与の方針およびカリキュラムポリシーとが整合するよう留意して協議している。

⑥令和3年度から運用している NICE プログラムのホームページを充実させている。また、令和4年度より新潟大学サポーター倶楽部（新潟大学の協力企業等）の協力を得て、「分野横断デザイン」に講師として参加してもらい、実社会で活躍する人材像を具体的な形で紹介している。

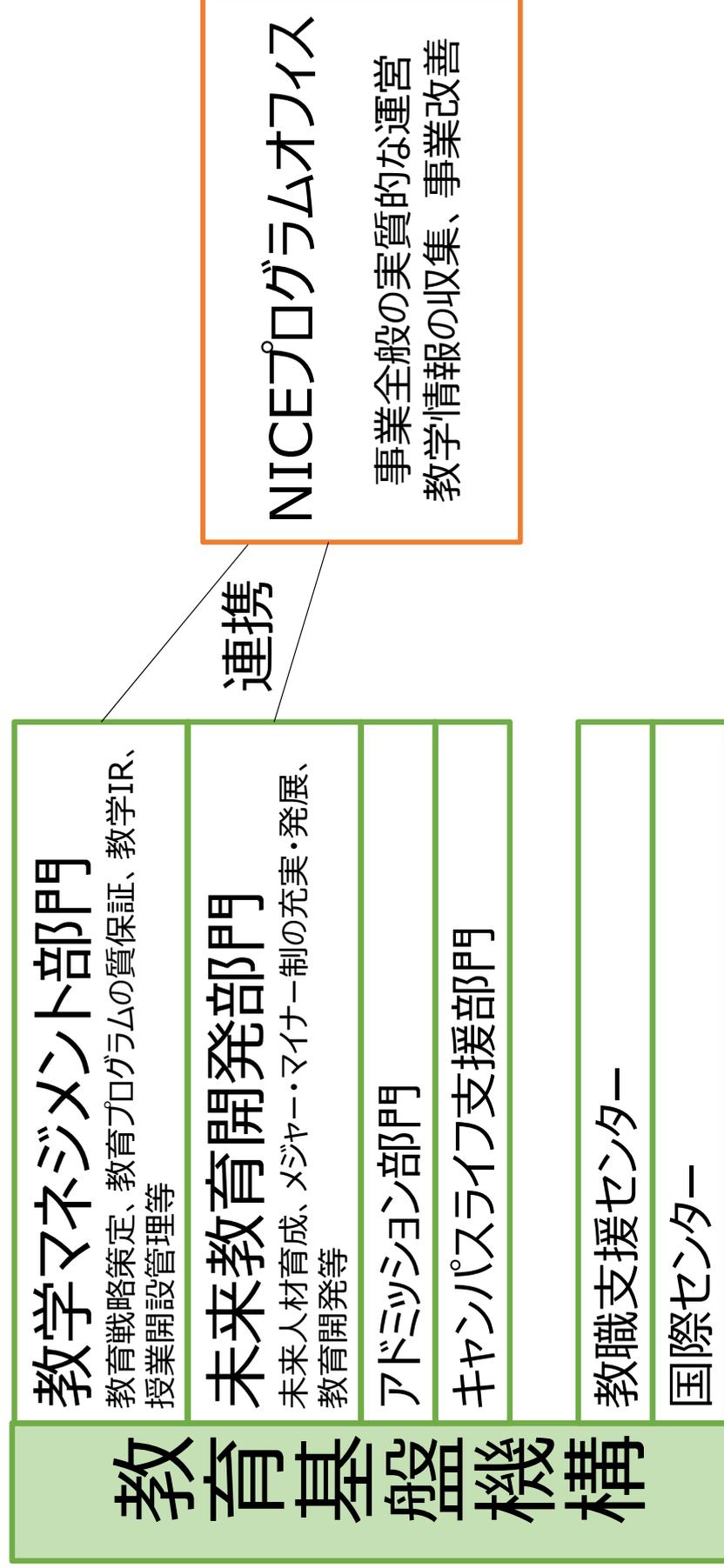
⑦本学が専門科目を全学科目化（他学部の学生にも専門科目を開放する）した際に、自他の学部での扱いに差異が生じないように注意喚起がなされ、全体としてはメジャーとマイナーの履修者で差が生じることはないと考えている。今後も引き続き、新任教員等への周知を行っていく。

⑧令和3年度から運用している NICE プログラムのホームページの内容を充実させた。また、オープンキャンパスへの出展や高校への「出前講義」における補助資料にメジャー・マイナー制のページを加えるなど、周知につとめたことにより、高校生からの問い合わせもみられるようになった。学内の高大接続部門と協力し、広報活動を充実させていく。

【資料1-5】

「教育基盤機構」

(「教育・学生支援機構」を改組設置 令和4年10月)



資料2-1

新潟大学ディプロマサプリメント（案）220818

1 本学卒業者

氏名	斎藤有吾	氏名（英）	SAITO Yugo
生年月日	19850105	学籍番号	p0101010

2 授与された学位と授与機関

学位名	学士（教育学）	学部	教育学部
		学位プログラム	学校教員養成プログラム
		授与機関	新潟大学（国立大学）
修業年限	4年		
学位授与の要件	本学に当該学位プログラムの修業年限以上在学し、所定の授業科目及び131単位以上を修得した者で、プログラムの到達目標（目標としての学修成果）に記載の能力を有すると認められる者。		

3 学位プログラム及びメジャーの内容

概要と教育目標	総合大学としての新潟大学で学ぶ利点を活かし、学校教員として必要とされる理論知の基礎を体系的に提供し、体系的な教育実習を通しての実践知を経験する機会を提供し、理論的知識を深める方法の基礎を修得させることにより、教師に不可欠な人間関係を形成する能力、子どもの発達と教育に関する基礎的な知識、および教科の内容と教育法の基礎的な知識を有し、かつ、一生涯にわたって学び続け、学びの成果を他者と共有することのできる教師を育成することを目標としています。プログラムの修了者には、教育職員免許法で定める小学校教諭一種免許状・中学校教諭一種免許状（各教科）・特別支援学校教諭一種免許状等を取得できる資格が与えられます。プログラムの修了者は、新潟市をはじめとする新潟県内や隣接自治体において、人格・能力ともに優れた学校教員や特別支援学校教員等として活躍することが期待されます。
---------	--

カリキュラム編成と学修内容・方法	カリキュラムは理論知の修得と実践知の経験の双方をバランスよく学修できるようにすることを基本方針としています。教職に関わる理論知の基礎の修得を目的とする講義（いわゆる教職専門科目）、理論知の修得を目的とする講義および演習・実験・実習、実践知を経験する教育実習、理論知を深める方法および深められた理論知を効果的に他者と共有する卒業研究、ならびに、教育実習を通して蓄積してきた実践知を総合する科目（教職実践演習など）から構成されています。理論知の学修は、講義を通して行われるだけでなく、個々の教員が行う少人数ゼミにおける理論知の獲得と形成への主体的な参加を通して、そして、教員集団の指導の下で、学生自身が「問い」を確定し、独自の「解」を先行研究の成果に依拠しながら見出し、独自の「解」を他者と効果的に共有するという学生の自律性を重視したプロセスを通して行われます。実践知の経験と総合化は、4年間を通じて行われる体系的な教育実習（観察実習、教育実習、学習指導ボランティア）およびその振り返りと総合化（教職実践演習）を通して行われます。
------------------	---

※3ポリのDPとCPから引っ張ってくる。
4領域の各項目はあったほうがよいが、紙面の都合上難しいかもしれない。

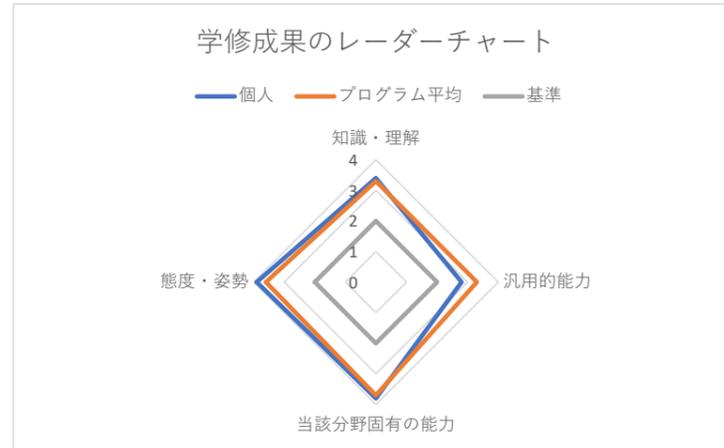
資料2-1

メジャー

4 学位プログラム及びメジャーの学修成果

取得総単位数	131	取得メジャー単位数	80
総合GPA/成績 (P平均)	3.4 (3.2)	メジャーGPA/成績 (P平均)	3.6 (3.8)
4領域ごとの学修成果			
知識・理解	3.4 (3.3)	当該分野固有の能力	3.8 (3.7)
汎用的能力	2.8 (3.3)	態度・姿勢	3.9 (3.6)

レーダーチャート



※レーダーチャート

作成用

	個人	プログラム平均	基準	
知識・理解		3.4	3.3	2
汎用的能力		2.8	3.3	2
当該分野固有の能力		3.8	3.7	2
態度・姿勢		3.9	3.6	2

※基準は集大成の成果物をルーブリックで評価し、合格最低基準をレベル2に設定しているということを示す。

※集大成科目が存在しない場合や、4領域に対応する評価ができない場合は、カリキュラムマップをもとに得点化したものを掲載するという手がある。

集大成科目の成果物	種別	論文
	タイトル	学士課程教育における高次の統合的な能力の評価とその変容に寄与する学習者要因の検討

集大成科目の成績	指導教員	松下佳代	教授
		3.6	

※種別は論文以外にも、最終プロジェクト、ジュニアリサーチペーパー、臨床実習等が想定される。いずれにせよ、最終的な学習成果を評価するためになにかしらのパフォーマンス評価を行っている想定されるため、それがどのようなものなのか記載できる形であればよい。

主要科目のGP/成績	○○論	2.4	××概論	2.4
	○○演習	3.3	××実習	3.3
	○○論	2.4	××概論	2.4
	○○演習	3.3	××実習	3.3
	○○論	2.4	××概論	2.4
	○○演習	3.3	××実習	3.3
	○○論	2.4	××概論	2.4
	○○演習	3.3	××実習	3.3

※20科目以内くらい？

※特にメジャーを構成する必修科目あるいは重要科目を入れる。判断は各プログラムに委ねる。

資料2-1

マイナー

5 マイナーの内容と学修成果

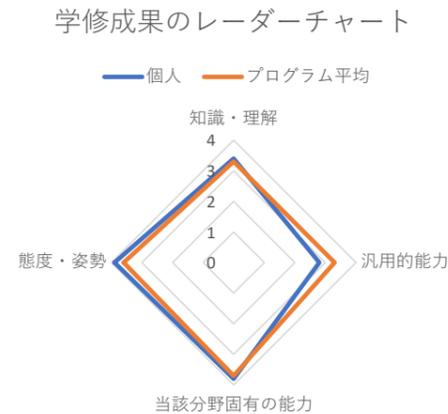
マイナー名	ふるさと共創学	修了要件	所定の授業科目について14単位以上を修得
種別	パッケージ型マイナー		
概要と教育目標	<p>ダブルホームの地域活動をとおして地域づくりに関心を持ち、地域の思いに寄り添いながら地域や社会における課題を探究し、解決に向けて積極的に取り組む人材を育成していくことを目指す。</p>		

取得マイナー単位数	14
マイナーGPA/成績 (P平均)	3.8 (3.5)

4領域ごとの学修成果	知識・理解	3.4 (3.3)	当該分野固有の能力	3.8 (3.7)
	汎用的能力	2.8 (3.3)	態度・姿勢	3.9 (3.6)

レーダーチャート

※現状、マイナーでこのような到達目標を掲げていないし、その評価も行っていないため、実際には学修成果の得点やそれをもとにしたレーダーチャートの記載はできない。今後、マイナーの質保証の議論も出てくると予想されるため、描くことができるように制度改正をしていくと良いと考えられる。



マイナー科目のGP/成績	〇〇論	2.4	××概論
	〇〇演習	3.3	××実習
	〇〇論	2.4	××概論
	〇〇演習	3.3	××実習
	〇〇論	2.4	××概論
	〇〇演習	3.3	××実習

5 マイナーの内容と学修成果 (学修創生Ver.)

マイナー名	学修創生	修了要件	所定の授業科目について14単位以上を修得
種別	学修創生型マイナー		
概要と教育目標	<p>今日の社会課題は複雑化・多様化しており、単一の専門分野の知見だけでは解決することが難しくなっている。そこで「学修創生」では、自己の興味関心と社会課題をベースとして、学生自らが既存の学問分野の枠組みにとらわれず、本学の多様な学問分野の科目から、一人一人の関心に適合する魅力的なオリジナル学修パッケージを創生する。また分野横断的な学修および履修計画を支援する授業科目群を通じて、メジャー・マイナーの掛け合わせが自分のキャリアにどのように役立つかを意識化・言語化できるようにする。以上を通じて、自己の目標をベースとしたオーダーメイド型の学修を進め、分野横断的な視点から社会課題にアプローチできる人材の育成を目指す。</p>		

取得マイナー単位数	14
マイナーGPA/成績 (P平均)	3.8 (3.5)

履修計画内容の説明	…を学修する。
-----------	---------

学修成果の説明

…を学修する。

なお、以上の内容は授業科目「分野横断デザイン」においてアカデミック・アドバイザーの承認を受けている。

※学修創生型は他と異なるため、記載項目自体を変える。

※これらの内容は新NBASに記載されているものを転機する形がわかりやすい。逆に言えば、学修創生履修生は、これらの内容を新NBASに必ず記載することを求めることにする必要がある。

…を修得した。

なお、以上の内容は授業科目「分野横断リフレクション」においてアカデミック・アドバイザーの承認を受けている。

マイナー科目のGP/成績	〇〇論	2.4	××概論	2.4
	〇〇演習	3.3	××実習	3.3
	〇〇論	2.4	××概論	2.4
	〇〇演習	3.3	××実習	3.3
	〇〇論	2.4	××概論	2.4
	〇〇演習	3.3	××実習	3.3

6 資格・特筆すべき成果

- 1 TOEIC : 990点
- 2 教員免許
- 3 〇〇学会××賞

※各学生でそれぞれ異なった形になる。
新NBASの記載内容を転機するかたちにしておく。

資料2-2

新潟大学のおすすめ科目アンケートで得られたおすすめ科目の例

所属	人文学部人文学科社会・地域文化学プログラム		学年	4年
2: 大学で学んでいる内容・テーマ	児童福祉における家庭的支援の意義について			
3: テーマや目的等をもって必修科目以外の科目の履修を行った。	まったく当てはまらない			
4: 複数の科目のかたまりで履修したほうがよいと思うようなものの内容・テーマ	実験心理学・教育心理学・臨床心理学は同じ心理学分野でも人文学部と教育学部に開設科目がはっきりと分けられているが、同時に履修したほうが良いと思う。特に臨床心理学の心理療法（認知行動療法等）は実験心理学における理論に基づいているものがあるため、実験心理学と臨床心理学を同時に学ぶ必要性があると感じる。			
5: 4の内容・テーマの科目	神経・生理心理学/人体の構造と機能及び疾病健康・医療心理学/教育・学校心理学B/学習・言語心理学/知覚・認知心理学A/障害児心理学演習産業・組織心理学/応用心理学心理学概論A/心理学概論B/臨床心理学概論心理学統計法/心理学研究法社会・集団・家族心理学/家族社会学/感情・人格心理学発達心理学/福祉心理学心理的アセスメント/発達臨床心理学実践演習（心理学的支援法）			
6-1: 視野が広がったと感じた科目	家族社会学/つながりと絆の社会学			
6-2: 課題発見・解決に役立つと感じた科目				
6-3: 課題解決に必要な知識やスキルが身についたと感じた科目				
6-4: 主体的に学ぶ姿勢が身についたと感じた科目	フィールドワーク/情報処理概論A II/社会統計学/人間学概説/心理学統計法			
6-5: 課題に協働して取り組むための力を養えたと感じた科目				
7: おすすめ科目				
7-1a: 科目名 1	人体の構造と機能及び疾病			
7-1b: 理由 1	神経・生理心理学をこの科目より先に履修してしまったのだが、神経系の知識が皆無だったために授業内容についていくことができなかつた。人体の構造と機能及び疾病は人間の体の基本的な仕組みを概説的に学ぶことができる良い科目であった（特に神経系について詳しく紹介されており、神経・生理心理学より前に取りたかつた）。Gコードということもあり、教養科目として考えられてしまっているが、公認心理師の学部におけるカリキュラムに基づいて設定された科目であり、教科書を読み込み、さらに講義を聞くことで人体の構造と基本的な疾病についての知識を身につけることができる。個人的には科目担当の先生の講義のペースが速く、情報量が多かつたため大変だったが、その分身に着いた知識は他の科目よりも多かつた。			
7-2a: 科目名 2	人間学概説			
7-2b: 理由 2	哲学系の講義で、人文学部の選択必修のうちの一つとしてとつた科目である。基本的に先生が講義を行い、その後自分でレポートを作成するという講義であるが、レポートに課せられた課題が厳密に定義されていて、レポート作成（＝つまり自分で調べ、課題を設定して論文を批判する）に取る時間がかかり必要となつた講義である。テーマが哲学に設定されているだけで、研究における基本的なレポート・論文の書き方と、批評的に本を読む力が身についた良い講義だつた。グループワークにおいて他者と疑問点をぶつけあつたり、自分の改善点を教えてもらつたりと、学生同士の関わり合いがあつたのもとてもよかつた。			
7-3a: 科目名 3				
7-3b: 理由 3				
9: 質問・要望	公認心理師に関連する科目をNICEプログラムとして設定してほしい（私は科目を履修し終えたので、後輩のために）。公認心理師に関連する科目は人文学部の実験心理学系科目と教育学部の教育・臨床心理学系科目とGコードにおける公認心理関連科目が分かれて開設されており、心理学系科目を履修する際に個人個人で先生に履修の許可を取りに行つたり、あるいは公認心理師の資格を取りたいと考えているのにGコード科目に設定されているために抽選落ちを危惧しなければならない状況があるといった問題がある。公認心理師資格に関連する心理学系科目は学部を横断して履修しなければならないため、それぞれの学部での開設している現状は踏まえつつも、同時にNICEプログラムのような副専攻のような科目設定にして、科目のバッティングが起らないようにしてもらえれば一番良いのではないかと考えている。現状、今の副専攻（NICEプログラム）はどの学部の人でも履修可能な科目設定になっていると思うが、公認心理師科目は心理系の学部には所属している人でさえ、主専攻の科目とのバッティングにより資格取得を諦めざるを得ない状況にある人も存在する。資格取得は学生の将来の進路に重大に関わってくるものであり、大学側のカリキュラム設定によってその希望進路が閉ざされている状況は改善すべきものであると感じる。もし可能であるならば、NICEプログラム（副専攻）という科目設定で公認心理師あるいは心理学に関連する科目を1つのプログラムとして設定してもらいたい。			

所属	人文学部人文学科西洋言語文化学プログラム	学年	4年
2: 大学で学んでいる内容・テーマ	アルベール・カミュの「不条理」の概念について		
3: テーマや目的等をもって必修科目以外の科目の履修を行った。	とても当てはまる		
4: 複数の科目のかたまりで履修したほうがよいと思うようなものの内容・テーマ	副専攻「法律学」の取得を目指して法学部科目を履修する際は、まずは「人文社会科学入門(法学)」を履修して法学の「お作法」を身に付けてから、各法分野の「I」がつく科目から順番に履修することをお勧めします。具体的には、刑法であれば「刑法I」からはじめて、順番に「刑法III」、「刑法各論発展」のように履修するといひように思います。そのうえで、必要であれば「特殊講義(刑事法発展)」でより高度な法的知識、思考力を身に付けることをお勧めします。また、演習科目として「法政演習I・II」がありますが、これは法学部3年次以降の学生が履修する高度な科目であるため、その前段階で「刑法基礎演習」を履修することで、「法政演習」へのスムーズな接続を図ることができると考えられます。その他に、刑法に隣接する分野の講義として、「刑罰論」や「特殊講義(法医学I・II)」などがあり、これらを履修することで刑法をより体系的に深く学ぶことができると考えております。		
5: 4の内容・テーマの科目	講義科目:「人文社会科学入門」/「リーガル・システム」/「刑法I」/「刑法II」/「刑法III」/「毛法各論発展」/「刑事法発展」演習科目:「刑法基礎演習」/「法政演習I・II」/「卒業研究I・II」周辺科目:「特殊講義(刑罰論)」、「特殊講義(法医学I・II)」		
6-1: 視野が広がったと感じた科目	「国際法」/「英米言語論A」/「心理学特殊講義」/「特殊講義(法医学I)」		
6-2: 課題発見・解決に役立つと感じた科目	「刑法基礎演習」/「リーガル・システム」/「国文学概論I」/「フランス言語文化基礎演習A・B」		
6-3: 課題解決に必要な知識やスキルが身についたと感じた科目	「特殊講義(公法発展・刑事法発展)」/「民法IV」		
6-4: 主体的に学ぶ姿勢が身についたと感じた科目	「法政演習I・II」/「フランス言語文化演習」		
6-5: 課題に協働して取り組むための力を養えたと感じた科目	「刑法基礎演習」		
7: おすすめ科目			
7-1a: 科目名1	「憲法I」		
7-1b: 理由1	上村先生が担当してくださいました。憲法の人権各論分野における基本的な知識に留まらず、それらをもとに憲法上の主張を展開する方法や注意点についてまで講義で示してくださいました。この講義に限らず、多くの法学科目における解答作成上の方法論について学ぶことができ、初学者にとって必要な事柄がたくさん詰まった講義であるといえます。憲法の人権分野をひととおり学習し終え、さらに深めたい方には、先生の担当します「公法発展」もおすすめです。		
7-2a: 科目名2	「民法III」		
7-2b: 理由2	石畝先生が担当してくださいました。先生は民法の解釈上特に争いのある点についてレジュメを使って対立の態様を詳しく解説してくださいました。はじめは判例に限定しないで学説まで学ぶことに戸惑いを感じるかもしれませんが、それぞれの主張を丁寧に紐解き、それらを利用して自分の主張を展開するうえでは欠かすことのできないポイントであると思います。石畝先生の解説を聞けば、その重要性に早く気付くことができると考えております。		
7-3a: 科目名3	フランス言語文化演習		
7-3b: 理由3	逸見先生が担当してくださいます。ディドロとダランベールという18世紀のフランスで特に有名な思想家の対談を原文で読み、一文一文丁寧に解釈して内容を把握することを目的としています。フランス語をきちんと解釈する力が要求されるだけでなく、和訳した文をさらにかみ砕きながら、二人の思想家の主張を理解するという点において極めて負荷の大きなトレーニングではありますが、それだけの意義とやりがいのある演習だと感じております。		
9: 質問・要望			

所属	経済学部経済学科夜間主コース	学年	3年
2: 大学で学んでいる内容・テーマ	経済と美術について		
3: テーマや目的等をもって必修科目以外の科目の履修を行った。	とても当てはまる		
4: 複数の科目のかたまりで履修したほうがよいと思うようなものの内容・テーマ	どうしても人文系の履修が必要になる。		
5: 4の内容・テーマの科目	美術／マーケティング論／マイクロ経済学／人間学／経済学概論／		
6-1: 視野が広がったと感じた科目	哲学／人間学特殊講義／近世越後諸地域の歴史と社会／経済学特殊講義／比較経済体制論		
6-2: 課題発見・解決に役立つと感じた科目	哲学／マーケティング論／経済学特殊講義／会計情報論／経営学概論Ⅰ、Ⅱ／経営戦略論／簿記		
6-3: 課題解決に必要な知識やスキルが身についたと感じた科目	哲学／マーケティング論／経済学特殊講義／会計情報論		
6-4: 主体的に学ぶ姿勢が身についたと感じた科目	哲学／マーケティング論／経済学特殊講義／会計情報論／経営学概論Ⅰ、Ⅱ／経営戦略論		
6-5: 課題に協働して取り組むための力を養えたと感じた科目	マーケティング論／企業分析		
7: おすすめ科目			
7-1a: 科目名 1	簿記		
7-1b: 理由 1	やったことがない人には衝撃的な内容だろう		
7-2a: 科目名 2			
7-2b: 理由 2			
7-3a: 科目名 3			
7-3b: 理由 3			
9: 質問・要望	副専攻プログラムは気づいたのが遅かった。非対面授業になると分かっていたらできたと思うと残念である。		

所属	理学部理学科理学科（共通）	学年	2年
2: 大学で学んでいる内容・テーマ	化学における数学、特に代数学の利用について		
3: テーマや目的等をもって必修科目以外の科目の履修を行った。	とても当てはまる		
4: 複数の科目のかたまりで履修したほうがよいと思うようなものの内容・テーマ	教養について学ぼうとするならば言語学、歴史、文学についての講義を受けることは必須であると思います		
5: 4の内容・テーマの科目	文学 D/文学 E/音と音楽をめぐる科学と教養/日本語学概説/日本と外国人/古典ラテン語/数学基礎 A/数学基礎 B/統計学基礎/極微の世界/芸術学入門/日本国憲法		
6-1: 視野が広がったと感じた科目	アクティブ・ラーニング(物理学)		
6-2: 課題発見・解決に役立つと感じた科目	アクティブ・ラーニング(物理学)		
6-3: 課題解決に必要な知識やスキルが身についたと感じた科目	アカデミック・イングリッシュ L1/アカデミック・イングリッシュ L2		
6-4: 主体的に学ぶ姿勢が身についたと感じた科目	化学基礎実習		
6-5: 課題に協働して取り組むための力を養えたと感じた科目	日本と外国人		
7: おすすめ科目			
7-1a: 科目名 1			
7-1b: 理由 1			
7-2a: 科目名 2			
7-2b: 理由 2			
7-3a: 科目名 3			
7-3b: 理由 3			
9: 質問・要望	<p>芸術学の履修を検討しており去年度の時点で芸術学入門や関連科目の履修をいくつか済ませておりますが、開講時間が理学部のカリキュラムと合わず受講が難しいコア科目が複数あるため芸術学副専攻科目の構成を見直していただけないかと思っております。また、芸術学実習では論文だけでなく制作も認められているとのことで作曲物を提出しようと考えております。制作過程で評価や添削をいただきたく、教育学部音楽専修の科目を単位が付かなくても構いませんので聴講したいのですが聴講対象外の学生にも副専攻に関係があれば聴講を可能にする仕組みを作っていただけませんか。</p>		

所属	医学部保健学科看護学専攻	学年	2年
2: 大学で学んでいる内容・テーマ	セクシュアリティと医療・看護		
3: テーマや目的等をもって必修科目以外の科目の履修を行った。	まあ当てはまる		
4: 複数の科目のかたまりで履修したほうがよいと思うようなものの内容・テーマ	セクシュアリティと医療・看護		
5: 4の内容・テーマの科目	看護に進む方はセクシュアリティ・スタディーズを履修することをお勧めします。必修科目と言われてもおかしくないくらい、看護を学ぶにも役立ちます。性差については看護学専攻の科目でも学習しますが、医療面だけでなく文化的な面からも見ることで理解が深まります。		
6-1: 視野が広がったと感じた科目	セクシュアリティ・スタディーズ／対人関係の心理学／心理学概論		
6-2: 課題発見・解決に役立つと感じた科目	セクシュアリティ・スタディーズ／対人関係の心理学／心理学概論		
6-3: 課題解決に必要な知識やスキルが身についたと感じた科目			
6-4: 主体的に学ぶ姿勢が身についたと感じた科目	セクシュアリティ・スタディーズ／歴史学		
6-5: 課題に協働して取り組むための力を養えたと感じた科目			
7: おすすめ科目			
7-1a: 科目名 1	セクシュアリティ・スタディーズ		
7-1b: 理由 1	現代社会の問題に看護・文化など様々な視点から学ぶことができ、『セクシュアリティ』について新しい視点を持つことができるからです。文化面だけ取り上げても過去の映像と現代との比較を行ったり、興味深いものが多く、オンラインでしたが十分楽しい講義でした。		
7-2a: 科目名 2			
7-2b: 理由 2			
7-3a: 科目名 3			
7-3b: 理由 3			
9: 質問・要望			

所属	工学部工学科社会基盤工学プログラム	学年	4年
2: 大学で学んでいる内容・テーマ	土木の将来について. 社会インフラの老朽化について.		
3: テーマや目的等をもって必修科目以外の科目の履修を行った。	まあ当てはまる		
4: 複数の科目のかたまりで履修したほうがよいと思うようなものの内容・テーマ	理系の学部だと, σ や ξ , ϕ といったギリシャ文字や, 外国語をよく使うので, 様々な外国語を勉強すると良いと思う. また, 統計をよく使うので, 統計学に関する科目を履修すると良いと思う.		
5: 4 の内容・テーマの科目	外国語ベーシック (古典古代ギリシア) / 外国語ベーシック (古代ローマ帝国ラテン語) / 古典古代ギリシア語 A / 古典古代ギリシア語 B / 古代ローマ帝国ラテン語 A / 古代ローマ帝国ラテン語 B 統計学基礎 I / 統計学基礎 II / 応用数理 E / 統計入門		
6-1: 視野が広がったと感じた科目	統計入門 / 外国語ベーシック (古代ローマ帝国ラテン語) / 新潟の農林業 / 都市計画学 II / グリーンケミストリー入門 / 交通工学		
6-2: 課題発見・解決に役立つと感じた科目	応用力学 / コンクリート工学 / 水理学 / 地盤工学 / 統計入門		
6-3: 課題解決に必要な知識やスキルが身についたと感じた科目	応用力学 / コンクリート工学 / 水理学 / 地盤工学 / 統計学基礎		
6-4: 主体的に学ぶ姿勢が身についたと感じた科目	社会基盤プロジェクト・マネージメント (グループで橋梁の設計を行った.) / 社会基盤工学実験 (積極的に実験に取り組んだ.)		
6-5: 課題に協働して取り組むための力を養えたと感じた科目	社会基盤プロジェクト・マネージメント (グループで橋梁の設計を行った.) / 社会基盤工学実験 (積極的に実験に取り組んだ.)		
7: おすすめ科目			
7-1a: 科目名 1			
7-1b: 理由 1			
7-2a: 科目名 2			
7-2b: 理由 2			
7-3a: 科目名 3			
7-3b: 理由 3			
9: 質問・要望			

所属	農学部農学科農学科（共通）	学年	2年
2: 大学で学んでいる内容・テーマ			
3: テーマや目的等をもって必修科目以外の科目の履修を行った。	とても当てはまる		
4: 複数の科目のかたまりで履修したほうがよいと思うようなものの内容・テーマ	理工農といった自然科学系学部はそれぞれの専門領域を学ぶ前にそれらの土台となる自然系基礎科目(数学基礎、化学基礎、生物基礎)をA. B. C(化学のみ)セットで受講した方がよい。		
5: 4の内容・テーマの科目	化学基礎 A/化学基礎 B/化学基礎 C/生物基礎 A/生物基礎 B 数学基礎 A/数学基礎 B/化学基礎 A/化学基礎 B/化学基礎 C		
6-1: 視野が広がったと感じた科目			
6-2: 課題発見・解決に役立つと感じた科目	スタディスキルズ		
6-3: 課題解決に必要な知識やスキルが身についたと感じた科目	スタディスキルズ		
6-4: 主体的に学ぶ姿勢が身についたと感じた科目			
6-5: 課題に協働して取り組むための力を養えたと感じた科目			
7: おすすめ科目			
7-1a: 科目名 1			
7-1b: 理由 1			
7-2a: 科目名 2			
7-2b: 理由 2			
7-3a: 科目名 3			
7-3b: 理由 3			
9: 質問・要望			

資料2-3

(卒業予定者に対する) 大学での学びについてのアンケート

○趣旨

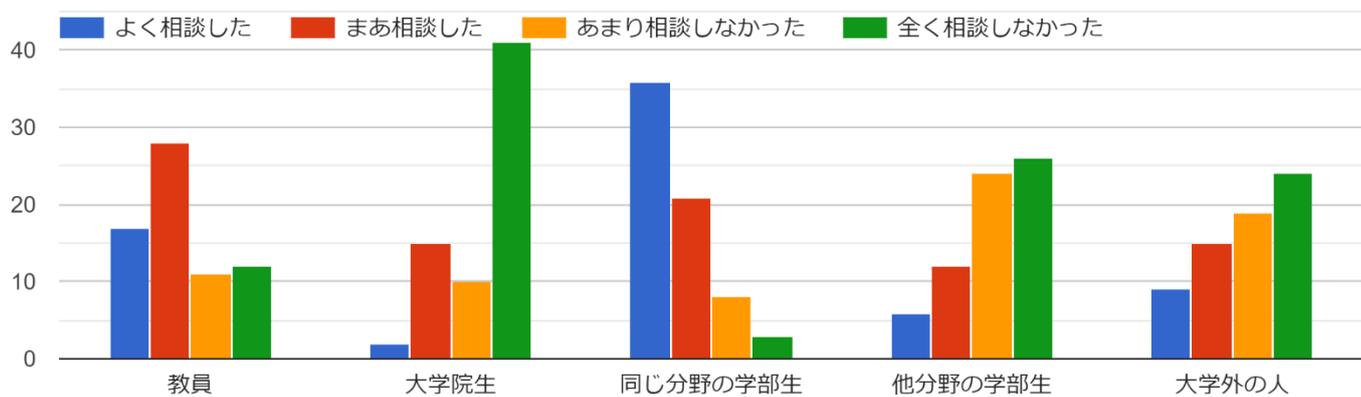
卒業を予定している学生が、副専攻を履修した／しなかった理由等を明らかにするために実施した、卒業年次学生に対するアンケートについて報告いたします。

○アンケート概要

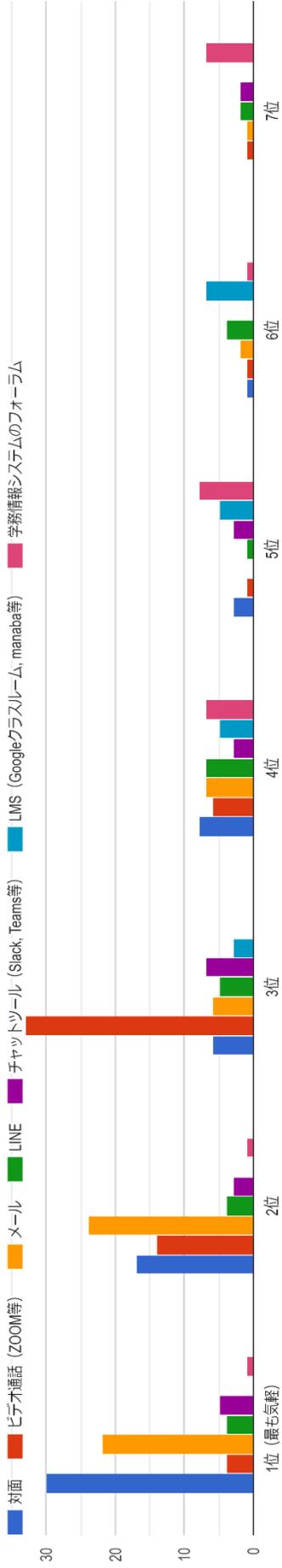
- a) 回答受付期間：2022/02/25 18:00～2022/03/31 23:59
- b) 対象者：令和3年度卒業予定者（回答件数：69件）
- c) 結果：資料を参照ください

資料

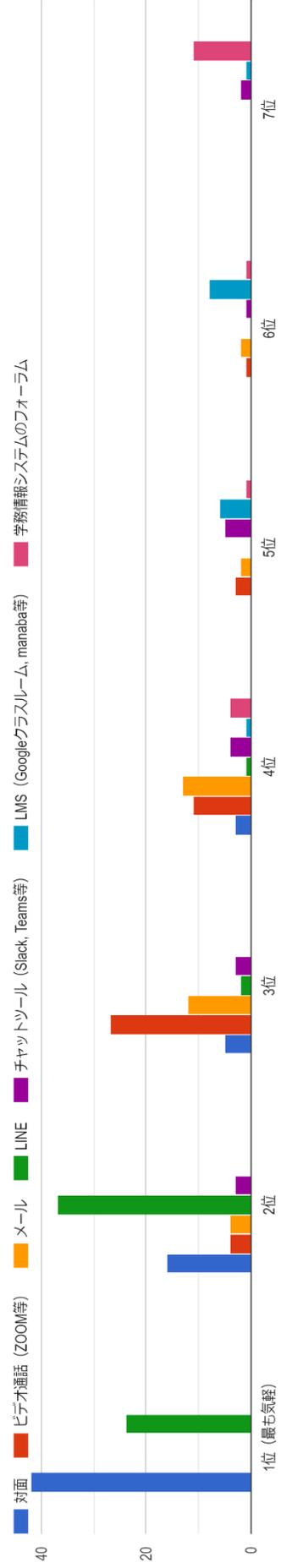
大学での学びについて困ったことや相談したいこと...次に挙げる方々には、どの程度相談しましたか。



教員に学習の相談をする方法について、気軽だと感じる順に順位をつけてください。



学生同士で学習の相談をする方法について、気軽だと感じる順に順位をつけてください。



[副専攻を履修しなかった学生に] 副専攻を履修しなかった理由

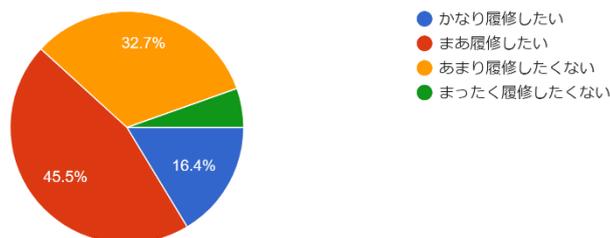
主専攻が忙しいから/興味のあるプログラムを履修完了できなそうだったので/しらなかった/院進するつもりのない自分にとって、副専攻を履修した際のメリットとして記載されていた内容はメリットになりえず、履修した場合の労力に見合わない判断したため。
/医学部だから/仕組みがよく分からなかったから/興味のあるものがなかったから/主選考のプログラム自体が分野横断型だったため、学習面での負担が大きかったから。/存在や履修方法をしらず、分野によっては気づいた頃には間に合わなかったり、興味のある分野の必須科目が学部の必須科目の時間割と被っていたため。/主専攻で精一杯だと思ひ、他分野の科目まで手を出さなかったから。/負担が大きすぎる/仕組みがよくわからず、興味も湧かなかつた。/編入生だから/2年からキャンパス移動で時間がなかったから。/調べなかつたため。/カリキュラム上履修が難しいため/副専攻したいと思わなかつたから。/副専攻プログラムについて知る機会がなかつた。/主専攻プログラムとの両立が難しく感じたため。

[副専攻を履修しなかった学生に] どんな工夫やサポートがあれば、副専攻プログラムを履修したと思いますか？

なし/・1年次から卒業までの履修計画を立てられるような支援体制・隔年開講の講義や、その年で開講が最後の講義などの情報/面白さを伝える/苦勞に見合うだけのメリットの提示。しかし、学外の教授もおっしゃっていたことだが、現在の大学は就職のための「大卒ブランド」のために進学してきている生徒がほとんどだと思ひ。ゆえに、副専攻プログラムそのものの存在意義があるのか再検討し直すことも必要ではないか。/一年の全体説明会のときに詳しい説明がほしいです/無理のないスケジュール/少数でも単位認定される/副専攻を履修していた先輩の話を知いたり、相談できたら嬉しいです。/副専攻に関する大学公認サークルの設立/今あるかはわかりませんが、学科の講義だけでたくさんあったため履修を組む時にアドバイスをくれるサポートがあれば履修したかもしれません。/対面での説明会があれば履修したに違いない/オンラインで視聴することもでき自由な時間に取り組むことができる/役に立つ資格につながる/授業時間に余裕があれば。/編入生でも入れるような柔軟性/卒業に必要な単位習得の手助けになるような工夫

再び新潟大学に入学したと仮定してお応えください...新しい副専攻プログラム※は履修したいですか。

55件の回答



[副専攻を途中でやめた学生] やめた時期

- ・やめた時期は2年生の後半から3年生の前半が多い

[副専攻を途中でやめた学生] やめた理由

副専攻履修に必要な講義の時間が合わなかった/主専攻や就活が忙しく負担が大きかった/興味があり履修したい講義が多く、履修上限のために副専攻の単位が取れなそうだった/申請単位数に足らなかった/将来のことを考えて/コロナで履修できない科目(昼休みに行うもの)があり、学務に相談したが、たらい回しにされたあげく、何の返答も得られなかったため。/教職との並行でかなりきつかったから

[副専攻を途中でやめた学生] 履修して良かったと思うこと

中国語や中国の文化に少し詳しくなった。ネイティブ並みに話せることはできないが、中国の方とも話すハードルが下がった。少人数クラスが多いのでひとりひとりに丁寧な指導があり、中国語だけでなく他言語についても発音や文法を気をつける意識ができた。/卒業単位を早く取れた/中国の文化について知見が深まった。/外国人の友人が出来た。

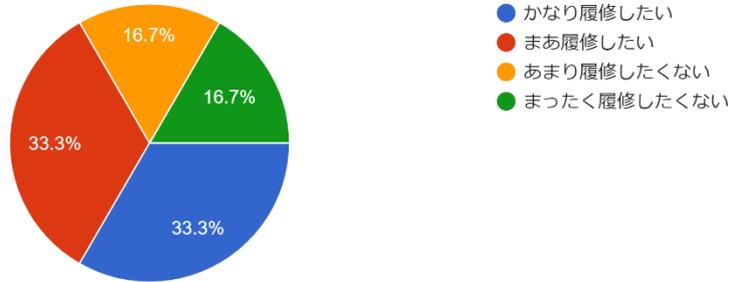
[副専攻を途中でやめた学生] 履修で困ったこと

プログラムによっては学部が限定されているなど副専攻で履修しづらい講義がある/経済学部は履修単位数の上限が小さいので経済学部の単位を優先すると副専攻が取れなかった。また、中国語の講義が開講しないこともあり、予定を立てずらかった。特に集中講義は中止になりやすく、困った。/学務と教員との間での連携がとれているのか、確認がなされているのか疑問。(授業の内容、試験、システム等)

[副専攻を途中でやめた学生] 必要だったサポート

1年次に院生の方の相談会に参加した際、2年生から副専攻は頑張ればいよとの話を真に受けて、Gコードを優先して取っていたら非常にギリギリになってしまった。自分できちんと調べて考えれば良かったとも思うが、副専攻を受けた先輩の話聞く機会があれば良いと思った。/教授と相談して計画的に取る必要があった/パンフレットだけではなく、教員の方から副専攻認定科目や必要科目数、必要単元等の説明がなされれば、より親切だと感じた。

再び新潟大学に入学したと仮定してお応えください..新しい副専攻プログラム※は履修したいですか。
6件の回答



[副専攻認定申請中の学生] 履修した理由

興味/学習の継続を形にしたかったから/環境問題に関心があり、それに関連する職業に就きたいと考えていたため。/韓国語を勉強したかった。歴史や文化についても学習したかった。/自身の研究や就職後の仕事に活用するため/ずっと役に立つ分野であるから。必修が1年で終わってしまうためそれ以降も継続して勉強したいと思ったから。/折角なら複数のことを学びたく、特に新潟という地域について詳しくなりたかったため。

[副専攻認定申請中の学生] 履修して良かったと思うこと

専攻はミクロ分野だが、マクロなことを知れた。/他学部の学生と意見交換できたこと、積極的に学習する姿勢が身についたこと/主専攻以外の学びが得られ、関心のある分野を重点的に学ぶことができたこと。/多角的に物事を学ぶことの大切さを知れた。/通常通りの履修では得られない専門的知識を得ることが出来たこと。/英語力の衰えを緩やかにできた。自主性が身についた。

[副専攻認定申請中の学生] 困ったこと

履修者が少なく、相談相手がない。専攻の授業と被る。科目区分によっては選択肢が少ない。コロナの影響で聴講できなかった科目がある。/他学部で特に文理が違う学生は、履修登録に勇気が必要だったり、「他学部生 OK」「副専攻〇〇学」とシラバスには書いてあってもメールをしないと履修を認められなかったりした。/春頃にはガイダンスがあるが、その後副専攻に関して誰に相談すればいいのか、いつ申請すればいいのかがわかりづらい。/周囲に同じプログラムを履修している知り合いがいないと、困った時に気軽に相談が出来ないこと。

[副専攻認定申請中の学生] 役に立った、必要だったサポート

他学部の講義を履修する許可を得る際に、「副専攻を取りたいから」と理由が言いやすく、履修が認められやすかったことや、履修する心理的ハードルが下がったことは大変ありがたかった。欲を言えば、副専攻取得のために履修している学生はいなくて当然として授業の説明がなされるよりも、そういう学生がいる可能性を考えていただければ疎外感が削減されたかと思う。/分野別でのサポート・相談ができる体制

資料2-4

出張報告書

調査概要	桜美林大学におけるメジャー・マイナー制度の運用と、マイナーを含めた学習成果の可視化についてのインタビュー
日時	2022年5月9日（金）16時～18時
参加者	インタビュー：田中一孝 准教授（桜美林大学 リベラルアーツ学群） インタビューア：斎藤有吾 准教授 長創一朗 特定助教
場所	桜美林大学町田キャンパス、崇貞館、B416、田中一孝研究室 （〒194-0035 東京都町田市忠生4丁目1-4-1 1-6）
主な質問内容	<ul style="list-style-type: none"> ・マイナーの履修に関する学生への説明や指導 ・マイナーの認定 ・マイナーに関する学習成果とメジャーとの統合 ・マイナーも含めた教学 IR

○インタビュー概要

・マイナーの履修に関する学生への説明や指導、マイナーの認定

- ✓ 桜美林大学では、マイナー履修を推している（リベラルアーツ学群はダブルメジャーも可）。カリキュラム改定により、マイナー履修が必須化している
 - 改定に際して、教員からの反発はなかった。大学の理念「学而事人（学んだことを社会のために役に立てる）」を踏まえて、現代社会における課題解決能力を育むためにメジャー・マイナー制度が必要という認識。大学の生き残りのために自分の大学の強みを強調するという側面も。
 - 学生のインセンティブは、学位記に記載されるくらい。
- ✓ 入学の際に人文・社会・自然から選択、その基礎科目は必修。その後学際的にメジャー・マイナー選択。その後探究から社会課題の解決にかかわる。そのような集大成科目が専攻演習・卒業研究・探究サービスラーニング。←新潟大学のNICEプログラムでもあるが、かなり位置づけが異なる（リフレクション科目）。
- ✓ メジャー・マイナーの選択に対する教員の指導について
 - オリエンテーション（制度について）をかなり綿密におこなっている（年2回）。先輩も動員する。
 - プログラムごとの説明会も実施している（最低3つ以上）。
- ✓ 履修モデルを全マイナープログラムで作成（表形式）。どのような科目をどこから履修したら良いか視覚的にわかる。
 - 受け入れる学部（開講主体）も認識が広まりやすいのでは。
- ✓ 制度や科目選びについての説明だけでなく、大学の理念からの説明も必要

- この大学はこういう理念で人材育成をするから、こういう学びをして大学を卒業してほしいという説明。
- 入学時(学生が謎の万能感があるうち)、できるだけ早いうちに伝えたほうが良い。

・マイナーに関する学習成果とメジャーとの統合

- ✓ GPA アカデミック
 - メジャー・マイナーを分離して、マイナーの学習成果だけを取り出すようなことはしていない。
- ✓ 学生のメリットとして、就職活動に役立てられることが挙げられるが、マイナーでなくとも、4年生のはじめの頃には学習成果としてある程度見せられるようにしておく必要がある。そこから逆算して何をやるかを考える。
 - 「先輩の声」として、4年生が1年生に発表をする機会を設けてはどうか。「こういう学際的な研究をやってもらいたい/楽しいよ」等
 - 先輩の例を収集する必要がある。NICE のことを考えると、学生が意図的にメジャー・マイナーを関連させた例。
 - マイナーの強調⇨既存の学問(メジャー)の教育では対応できない、ということでもあるので、現在の社会的な課題に既存の学問体系では対応できないことをしっかりと説明する必要がある(誰が?→責任者に)。
- ✓ 桜美林大学では、ゼミに入ること(卒業研究)を推奨しているが、サービ斯拉ーニングを選択する学生も一定程度いる。後者の学生の学習成果は測りづらいように見えるが、コミュニケーション能力等の汎用的な能力を(元々得意なこともあるが)実践を通じた社会活動の中で伸ばしている。
 - 新潟大学では、マイナーの学習成果をメジャーの枠内で測るような科目はないので、NICEの中の科目で測るしかない。
 - 学生に対する調査で、学習成果を測ることももちろん必要(学生の満足度)。
- ✓ 学部レベルの教育では、学際性が研究成果として強く押し出せるポイント
 - 既存の学問分野の中で、研究成果の新規性を出すのは、学部レベルでは難しい(卒業研究などで)。
 - 学際的であったほうが、学部レベルの学習成果が出せるのではないか。
 - 大学院に進学することを前提とした学士課程教育ではなく、院進しない学生にとってきちんと教育できているか、という視点。
- ✓ 学内・学内の広め方
 - 協力してくれる先生を見つけて一緒に盛り上げる
 - 一方で、戦略的にトップダウンで進める部分も必要←→インセンティブの準備
 - スイングバイプログラムの先生に研究紹介をしてもらうこともできるのでは。
 - オンライン、リカレント教育の推進に関連させて、学外に動画の配信もできる。

・マイナーも含めた教学 IR

- ✓ メジャー・マイナーについて最終成果物にどのように学習成果があらわれるかを見るだけで良いかもしれないが、このプログラムの成果ということを考えると、マイナーがうまく行っているかを測るために、マイナーだけ個別に見られるようになっておいた方が良いのでは。
- ✓ 学生に対する調査について
 - アンケート調査では、学生の学習成果について、新規性を問う観点があったら良い。既存の学問分野にないこと（複数の学問分野にまたがったこと）ができたかどうかについて、テーマ・対象やメソドロジー等の質問を細分化して新規性を問う。
- ✓ 分野横断デザイン・リフレクションで、学習成果の可視化、学生の調査に関連させる必要がある。
 - 学生に目指すべき学びの方向性を示せるかどうか、例えば、新規性の何が大事なのか等々、を授業内で示せばそれを観点として分析できる。

・その他

- ✓ 学部の協力が絶対的に必要なので、学部周りをして説明することが必須。
- ✓ 科目の整備等には優秀な事務職員のサポートが必須。
 - 大学のカリキュラムについて熟知している人（教務系）がよい。
 - 教員は教務のシステムを熟知してはいないので。

[ホーム](#) > [新着情報一覧](#) > 【令和4年3月9日開催】令和3年度 新潟大学全学FD・SD 主体的学修を推進する新潟大学の取り組み - 令和3年度学長教育助成制度成果報告会 -

【令和4年3月9日開催】令和3年度 新潟大学全学FD・SD 主体的学修を推進する新潟大学の取り組み - 令和3年度学長教育助成制度成果報告会 -

令和3年度 新潟大学全学FD・SD

主体的学修を推進する新潟大学の取り組み

- 令和3年度学長教育助成制度成果報告会 -

日時：令和4年3月9日（水）13：00～15：20

形式：Zoomによるオンライン開催（後日新潟大学webサイトにて録画を限定公開）

対象：新潟大学教職員

主催：教育・学生支援機構

趣旨

新潟大学では、優れた教育改善に取り組む教員集団の実践を助成する学長教育助成制度を設けています。この制度は、本学の教育戦略を着実に推進することを目的としたものであり、令和3年度に採択された教員集団が取り組みを進めて参りました（8件）。また、今年度は昨年度に引き続き、COVID-19の感染拡大により、本学ではオンライン授業を中心として日々の授業実践が行われてきました。この著しい学習環境や学生生活の変化に対して、学生はどのように受け止めているのかを教職員で共有した上で、今後の主体的学修の促進に関して議論していく必要があります。そこで、本プログラムでは、今年度実施された「オンライン授業における学生の学修等に関する実態調査」の結果と、そこから示唆される今後の新潟大学の教育についての報告を行います。その後、学長教育助成制度に採択された教員集団がその成果について報告します。来年度以降の新潟大学の教育を展望しつつ、優れた取り組みを全学で共有する機会としたいと思います。多くの教職員のご参加をお待ちします。

プログラム

『主体的学修を推進する新潟大学の取り組み - 令和3年度学長教育助成制度成果報告会 -』

13:00 開会挨拶 理事 教育・学生支援機構長 坂本 信

13:05 趣旨説明ならびに報告：

「本学におけるオンライン授業のこれまでとこれから - オンライン授業における学生の学修等に関する実態調査の結果を中心として -」

副学長 教育・学生支援機構副機構長 福島 治

教育・学生支援機構特任助教 長 創一朗

（5分間休憩）

13:40 成果報告

①「ICTを活用した遠隔高大接続授業開発 - 初年次教育改革を視野に入れた『大学生と高校生が協働するオンライン基礎ゼミ体験』 -」

自然科学系（創生学部）教授 熊野 英和

②「ICTツールを用いたGコード科目の数学授業における反転教育」

自然科学系（理学部）准教授 劉 雪峰

③「国際オンライン協働学習（COIL）における同期型と非同期型の連携プログラムの開発」

自然科学系（工学部）准教授 上田 和孝

④「パンデミック下でも実践力を強化できる専門科目シミュレーション教育方法の開発」

医歯学系保健学系列（医学部）准教授 田中 美央

⑤「地域企業等での課題解決型インターンシップにおける、企業と大学が協働した課題設定のためのプロセス・ワークシートの開発」

教育・学生支援機構教育プログラム支援センター 助教 高澤 陽二郎

⑥「ソーシャルワーク実習におけるICTを活用したeポートフォリオの開発」

医歯学系（大学院医歯学総合研究科（歯・福祉））准教授 米澤 大輔

⑦「リモート会議を活用したドミトリ型教育によるグローバル人材養成プログラム」

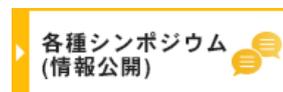
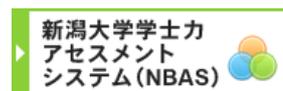
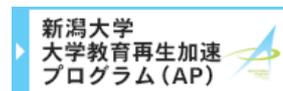
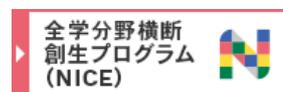
自然科学系（工学部）教授 山際 和明

⑧「オンライン多職種連携教育に資する教育基盤の開発」

医歯学系（大学院医歯学総合研究科（医））准教授 河内 泉

15:05 講評 学長 牛木 辰男

15:15 閉会挨拶 副学長 教育・学生支援機構副機構長 福島 治



機構内のセンター



[→一覧へ戻る](#)

新潟大学におけるメジャー・マイナーの学習成果に関する学生の認識

Students' Perceptions of Learning Outcomes in Major and Minor at Niigata University

○長 創一朗¹・斎藤 有吾²（¹新潟大学教育・学生支援機構, ²新潟大学経営戦略本部）

Soichiro Cho, Yugo Saito

（¹Niigata University Institute of Education and Student Affairs,²Niigata University Headquarters for Management Strategy）

1. 背景と目的

2021年度時点で、主専攻・副専攻（以下、メジャー・マイナー）制度は学部段階では281の大学（約37%）が導入している（文部科学省2021）。新潟大学では、2004年の法人化を契機に、教育体制の整備が行われ、教員所属組織の変更、教養科目（全学共通科目）と専門科目の区分の撤廃と分野・水準表示方法の導入、主専攻プログラム化に加えて、2006年度からマイナー制度が導入されている（濱口2008, 田中2011）。そして、複雑化・多様化する社会課題に対して、今後は広く複眼的な視野で問題を解決できる人材育成の強化が急務であるという認識のもと、マイナー制度をより発展させる形で、2021年度から全学分野横断創生プログラム（NICE Program: Niigata University Interdisciplinary Creative Education Program）が開設された。このプログラムは、総合大学の強みを活かしたメジャーとマイナーの掛け合わせにより分野横断的な学びを実現することで、上述のような人材の育成を目指している。

大学教育の質保証と学習成果の可視化が求められる中、メジャー・マイナー制度を導入している大学では、メジャーとマイナーを個別に認定するのが一般的であろう。しかし、新潟大学の全学分野横断創生プログラムのようにメジャーとマイナーの掛け合わせによる分野横断的な学びを想定する場合、従来の個別の認定では、個々の学習成果だけでなく、両者を掛け合わせた結果としての学習成果を可視化できるのか疑問が残る。

そこで本研究では、メジャー・マイナーを掛け合わせることで生まれる学習成果について、学生の認識から探索していく。

2. 対象と方法

本研究は、新潟大学の学生に対して半構造化インタビューを実施し、得られたインタビューデータをもとに分析を行う。

対象者は、全学分野横断創生プログラムの修了者としていたところであるが、2021年度に開設されたばかりであるため修了者はいない。そこで、2006年度から導入されているマイナー制度の修了予定者に着目する。制度的に分野横断的な学びが謳われているわけではないが、実際にはマイナー履修者は複数の分野を同時に学んでいる。このマイナー履修者には、メジャーとマイナーの学びがどのように関連したかを尋ねることができるため、本研究の対象者として妥当である。比較のためにマイナーを履修しなかった学生も含め、新潟大学の修了予定者へのアンケートにおいてインタビュー協力者を募集し、7名の学生にWeb会議ツール（Zoom）を用いてそれぞれ60分程度のインタビューを実施した（表1）。主な質問項目は、「メジャー・マイナーを決めた経緯や理由」「メジャー・マイナーの履修計画のたて方や学習方法」「メジャー・マイナーなどの分野間の学習内容の関連」「大学での学びと卒業研究のテーマや卒業後の進路との関連」「大学での学びを通して身についた能力」である。

表1 インタビュー協力者

名前	所属	メジャー	マイナー
Aさん	人文学部	言語文化学	法律学
Bさん	人文学部	歴史文化学	環境学
Cさん	理学部	化学	ドイツ語
Dさん	工学部	土木	なし
Eさん	教育学部	特別支援教育	なし
Fさん	理学部	生態学	なし
Gさん	経済学部	経済学	なし

3. 結果

ここでは概要のみを示す。詳細は大会にて具体的なインタビューデータをもとに報告する。

(1) 履修の経緯や理由

マイナーを履修した学生は、制度について知った時期や履修した理由は様々であったが(高校の教員の勧めで関心があった(Aさん)/高校で文系クラスだったが環境問題に興味があった(Bさん)/留学に使えると思った(Cさん))、「副専攻認定証」を得ること以外にマイナーを履修する目的を明確にもっていたという点で共通していた。マイナーを履修しなかった学生の中には、メジャーでも学位を取ること以外に明確な目的がある学生もいればそうでない学生もいた。

(2) 履修・学習方法

マイナーを履修した学生もそうでない学生も、メジャー・マイナーの必修科目以外の科目については、分野の違いや科目の難易度よりも自分の興味関心を優先させ主体的・自律的に履修していた。しかし、マイナーを履修しなかった学生の中には、学生の事情により興味関心よりも開講時間や単位取得のしやすさから科目を選択した学生もいた。

マイナーを履修した学生は、自分の専門ではない分野でもその分野の学生と交流を図り学びを進めていた。マイナーを履修したかどうかにかかわらず、卒業要件を満たすこと以外の目的をもって履修計画を立てた学生は、主体的・自律的に大学での学習を進めていた。

(3) 分野間の学習内容の関連

マイナーを履修した学生は、メジャーとマイナーの学習内容の関連を双方向に見出していた。異なる分野でも学問としての共通性があること(Aさん)だけでなく、学問的な関連が薄くても自分の専門ではないマイナーを試行錯誤しながら学んだ経験がメジャーの学びに役に立つこと(B・Cさん)が挙げられた。マイナーを履修しなかった学生も、メジャー以外の科目を自分の興味関心を優先して主体的・自律的に選択している場合は、同様にメジャーとそれ以外の学びに関連を見出していた(Dさん)。

(4) 卒業研究や進路との関連

卒業研究にもメジャー・マイナーの掛け合わせによる学習成果が見られた。マイナーを履修

した学生は、卒業研究にマイナーの分野の内容が直接関わることもある(Aさん)。マイナーがメジャーの卒業研究のテーマと関連が薄い場合でも、試行錯誤しながらマイナーを学んだ経験が卒業論文の執筆に活かされる(Bさん)、研究室での議論に積極的に発言ができるようになる(Cさん)など、間接的な関連を見出していた。一方で、マイナーを履修しなかった学生の場合でも、メジャー以外で学んだ科目の内容が卒業研究に活かされていると感じている学生もいた(D・E・Fさん)。

進路については、マイナーの分野で大学院に進学する学生がいるなど、マイナーの学びが進路決定のきっかけとなっていた。

(5) 大学での学びを通して身についた能力

マイナーを履修した学生は、そうでない学生に比べて、他学部の科目を多く履修したことで他分野の学生と多く接する機会があり、他分野の人と協働的に取り組む能力などの汎用的な能力が身についたと認識していた。

4. 考察

メジャー・マイナーの掛け合わせによって、学生たちは分野横断的な学びを経験するだけでなく、自分の専門ではないマイナーを学ぶことを通して汎用的な能力を身につけていると認識していた。そして、それらを卒業研究だけでなく4年間の学びを通じた学習成果として学生は認識していることが明らかとなった。ただしこれらは、マイナーを履修することで自然と生じる学習成果ではなく、学生の主体的・自律的な学びの姿勢に支えられていることに留意する必要がある。

参考文献

- 濱口哲(2008)「教養教育と専門教育を統合したアウトカム評価型学士課程教育への取り組み」『大学教育学会誌』30(1), 14-19.
- 文部科学省(2021)「令和元年度の大学における教育内容等の改革状況について」
https://www.mext.go.jp/content/20211104_mxt_daigakuc03-000018152_1.pdf (2022年4月15日閲覧)
- 田中正弘(2011)「より良い副専攻制度の探究—国立大学への訪問調査に基づく提案—」『21世紀教育フォーラム』6, 1-11.

【資料】(3.学修支援)

■ 学修デザイン相談の件数

以下に、令和3年度と、令和4年度7月までの相談件数を示します。

相談件数は増加傾向が、令和3年度7月までと令和4年度の7月までの数を比較からもうかがえます。令和4年度4月の件数が令和3年度に比べて増加した理由として、マイナー履修について学内周知が進んだことが挙げられます。相談会を設けるなどの積極的な取り組みの効果があらわれたと考えております。

令和4年度は4ヶ月間だけで、前年度の80%弱の相談がありました。その大きな理由として、昨年度にマイナー履修を開始した学生が継続して相談に訪れていることが挙げられます。後述するフォローアップの効果が数字として示されたと考えております。

令和3年度の相談件数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	総計
メール	14	2	0	0	4	9	4	0	0	1	0	1	35
対面	10	6	4	38	2	2	6	4	13	15	4	2	106
計	24	8	4	38	6	11	10	4	13	16	4	3	141

令和4年度7月までの相談件数

	4月	5月	6月	7月	総計
メール	23	1	2	0	26
対面	21	6	24	33	84
計	44	7	26	33	110

マイナー(副専攻)相談会の参加者数 [令和4年4月5日(火)、6日(水)開催]

	人数
1年	43
2年	13
3年	2
4年	0
総計	58

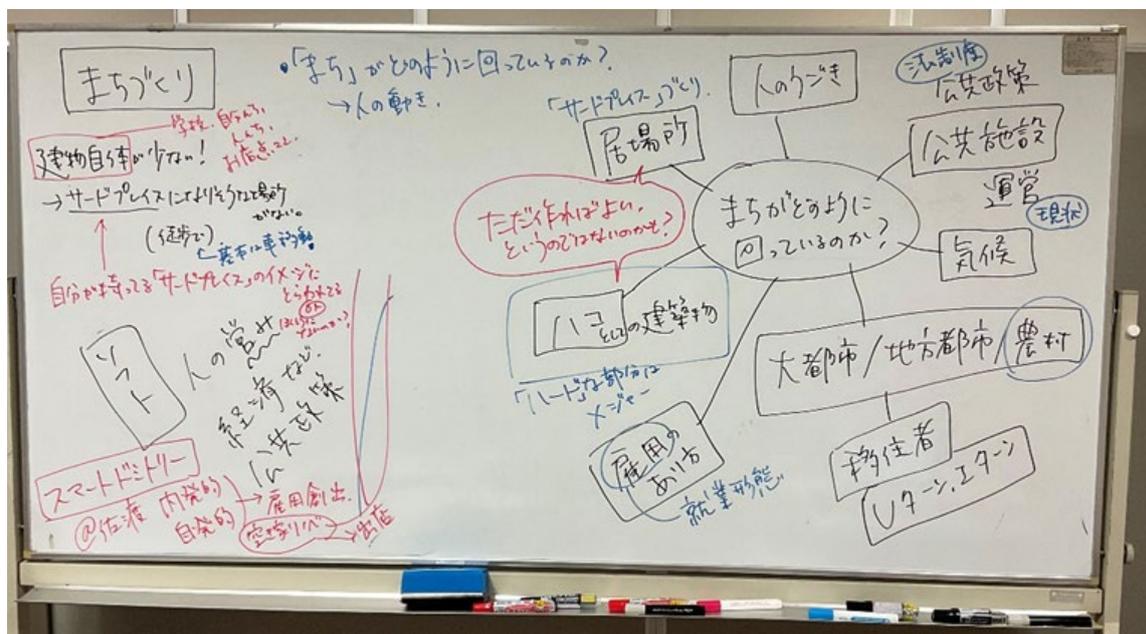
マイナー履修を検討している新入生、2年生を主な対象とした相談会を、新年度ガイダンス期間に開催しました。

相談会にはNICE 特任教員3名、SA7名が参加者への相談に対応しました。

マイナー学修全般に関する相談のほか、主専攻プログラムや教職課程、サークル、アルバイトとの両立についての相談が多く寄せられました。

■ アカデミック・アドバイジング①ーニーズの可視化

下に示す写真は、「分野横断デザイン」を履修している工学部建築学科1年生へのアドバイジング終了時のものです。アカデミック・アドバイザーは、いくつもの質問を重ね、学生のニーズを引き出し、それらをホワイトボードなどで可視化しながらアドバイジングを行います。以下に、具体的なアドバイジングの様子をご紹介します。



背景

学 生:「分野横断デザイン」履修中の工学部建築学科1年生(Aさん)

相談理由:第5回授業の事前課題に取り組み始めたところで来室

授業進行:第5回授業は、すでにある程度明らかになった自分の興味・関心をさらに深く掘り下げ、それをマイナー学修のテーマにつなげるという内容です。第5回までに学生は、自分の興味・関心を一つ挙げ、それに関連するキーワードを複数挙げた図をつくっています。第5回の事前課題では、その図を見直し、挙げたキーワードをもとに疑問文をつくります。

相談にきた学生は、「まちづくり」に興味があり、それに関連するキーワードを挙げています。しかし、メジャーの建築学とは異なる領域のキーワードを見つけることができず、行き詰まりを感じて相談にきました。

アドバイジング

これまでの授業への課題をもとに、Aさんと対話を始めました。

そもそもなぜ「まちづくり」に興味を持っているかを尋ねたところ、高校まで暮らしていた場所の話題から、家族構成にまで話が膨らみました。その中で、兄弟が多く家が学習に適した場所では必ずしもなかったため、近くの地域交流センターのような公共施設の自習室で勉強していたことや、鉄道駅に近く、周辺にコンビニや公園があり、気分転換もできる周辺環境があったことが引き出されてきました。具体的に話す中で、Aさんは居場所(サードプレイス)に関心があるのだという気づきがありました。

さらにAさんに、現在取り組んでいることについて尋ねると、工学部の自主活動の一つとして、佐渡の地域活性化に取り組んでいることを話してくれました。その取り組みの中で、先輩は空き家をリノベーションして、飲食店(佐渡の薬草を使ったカレー店)を開業する話を進めているが、個人的には、うまくいくようには思えずにいるなどの思いも出てきました。

先輩のアイデアではなぜうまく行かないかと思っているのかを尋ねると、先輩のアイデアは一時的なブームにとどまって、長期的にはうまく行かないのではないかと感じていることが言葉としてでてきました。自分なりの考えがあって取り組んでいることが確認できました。

空き家リノベーションの対象地の佐渡と、これまで自分が育った地域との違いはなになのか、などの質問を重ね、それらをキーワードにつなげていく形でホワイトボードに記入していきましました。その中で、政策、雇用、気候、農村、都市、居場所、移住者など、一人では考えつかなかったキーワードが出てきました。

最後にAさんは、これまでの自分の経験を踏まえると、自分が利用していた施設なども含めて、「まちがどのように回っているのか」ということに興味があることに気づきました。「まちづくり」というキーワードはまだ漠然としているかもしれないが、それをもとに課題に取り組みたいと話し、相談を終えました。

ご紹介した例は、興味・関心の深掘りを支援するものでした。このようにして興味・関心がある程度明らかになったあとに、科目の提案につながるアドバイジングを行います。

■ アカデミック・アドバイジング②—マイナー科目へのアドバイス

本プログラムのアカデミック・アドバイザー（AA）は、上記の例のようなアドバイジングを重ね、学生のマイナー学修のニーズの傾向をつかんでいます。それを組み入れながら、マイナー学修にふさわしい科目の情報を収集しています。これにもとづいて、学生のニーズに沿った科目を的確に紹介することが可能です。

下に示す図は、科目のアドバイジングを参考に、学生がつくったマイナー履修の計画の一部です。「分野横断デザイン」の最後に、学生は下記のような「マイナー学修デザイン」というマイナー履修の計画書を作り上げます。

この例の学生（Bさん）は、文房具に興味がありましたが、文房具から科目に発展させることが難しく、なんども相談にきました。アドバイジングの結果、もともとの興味・関心は「キーワード③日本文化」「キーワード④文化比較」に示した科目に展開することができました。「ビジネス書道入門」などは、アドバイジングの過程で提案した科目です。文房具の中で何が好きで、どういうエピソードがあるのか、対話しながらいっしょに考えていきました。

また、文房具と現代社会をつないだところで、「キーワード②経営」が出てきました。Bさんにとって、経営という領域は、当初の想定にはなかったため、Bさんのニーズに合い、かつ、視野を広げるという観点から科目を提案していきます。その中では、学生といっしょにシラバスを確認していきます。

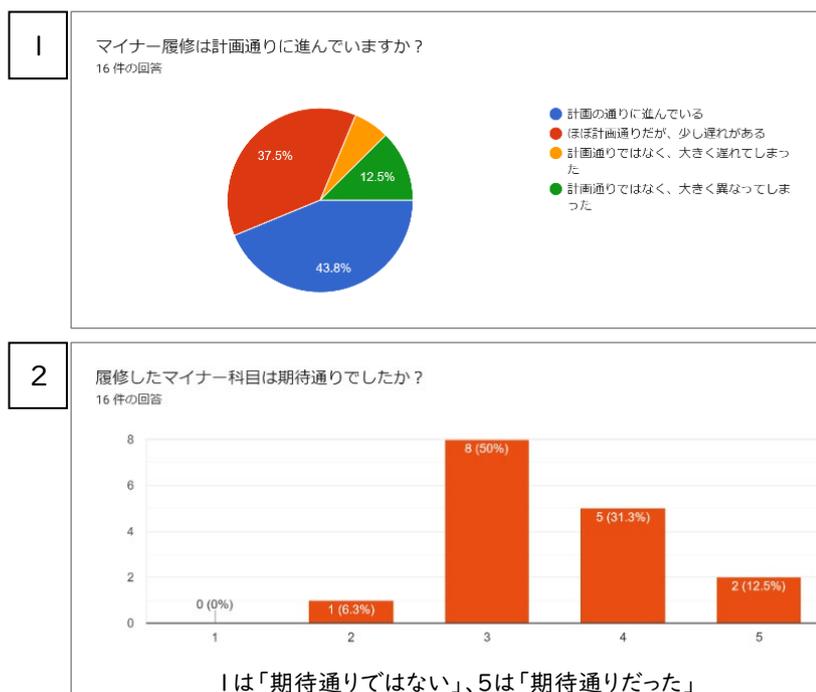
その結果、このような計画ができあがります。

キーワード②		経営				
キーワードに関連する科目	コード	水準	履修年	単位数	備考	
1	経営学入門	211E6103	03	2,3	2	
2	組織マネジメント論	211G7084	03	2,3	2	
3	ビジネスベンチャリング入門	212G7085	03	2,3	1	
4						
5						
最低履修単位数					3	
キーワード③		日本文化				
キーワードに関連する科目	コード	水準	履修年	単位数	備考	
1	文字文化史と表現	210E6543	04	2,3	2	文字文化が現代社会のいたるところに生きている。経済科学部優先
2	ビジネス書道入門	210G7540	03	2,3	2	新潟特有の文字文化について
3	歴史学K	214G7520	03	2,3	2	
4	日本文化論	210G7539	03	2,3	2	「手書き」文化を中心に論ずる。
5						
6						
7						
最低履修単位数					4	
キーワード④		文化比較				
キーワードに関連する科目	コード	水準	履修年	単位数	備考	
1	多文化間共修 A	211G3222	03	2,3	1	
2	アクティブラーニング A	211G3215	03	2,3	1	日本について、毎週異なるトピック紹介
3	日本と外国人	211G3217	03	2,3,4	1	この科目では、基本的に英語をコミュニケーションの道具としてやり取りしなければならない
4	西洋カリグラフィー A	213G3715	03	1	1	履修済み
5	日本語教育 I - A	210G7040	03	1	2	履修済み
最低履修単位数					3	

このように、学生自身の興味・関心を出発点に質問を重ね、マイナー学修につながるアドバイジングを展開しています。

■ フォローアップ（マイナー履修の進捗確認）アンケート（令和4年6月〔第1ターム終了時〕実施）

令和3年度の1学期修了時点より「分野横断デザイン」を終えた学生の希望者を対象に、ターム終了毎に、マイナー履修の進捗状況を尋ねています（フォローアップ）。フォローアップでは、簡単なアンケート調査を行い、マイナー履修の状況を把握すると同時に（1）、マイナー科目へのふりかえりと相談・情報交換会への参加をうながし、マイナー学修へのモチベーションを高めています（2）。



【設問2の回答に対する理由の一例】

- 全体的に、マイナー領域だけでなく、学んだ新たな観点をメジャーにも応用できているから
- シラバス読んで想像していた内容と違った
- 起業に興味があったため、起業に関する知識を得られるかなと思っていたが、経営に必要な知識のさわり部分の講義しかなかったため、期待通りではなかった。しかし、経営には経済学やマーケティング、会計など、様々な知識が関係していることを学ぶことができた。

【資料】(4. 教育制度)

学修創生型マイナー支援科目とは?～入口科目の開講

学修創生型マイナーは、学生が自分自身でマイナー学修をつくりあげることの特徴があります。パッケージ型マイナー、または、オナーズ型マイナーを選択した学生は、あらかじめリストアップされた 20～300 程度の科目群の中からマイナーとして履修する科目を選び、マイナー履修を行います。それに対し、学修創生型マイナーを選択した学生は、受講可能な数千の科目の中からマイナーとして履修したい科目を選び、自らのマイナー学修をつくりあげていくことになります。シラバスは Web で提供され、フリーワードによる検索も可能ですが、数千もの科目の中から自分の興味・関心に合った科目を選ぶのは容易ではありません。そこで、学修創生型マイナーを選択する学生のために、マイナー学修計画立案を支援する科目「分野横断デザイン」を設け、必修科目としています。この科目の中で学生は、自らのマイナー履修のねらいを明確にし、それに沿った履修計画をつくりあげます。なお、パッケージ型マイナー、オナーズ型マイナーを選択した学生もこの科目を受講できます。この科目を履修することによって、それらの学生も、ねらいのより明確な、実行可能性のより高い計画立案が可能になります。

学修創生型マイナーにはもうひとつ、支援科目があります。それが「分野横断リフレクション」です。この科目のねらいは、自らのマイナー学修について省察(リフレクション)をすることです。学修創生型マイナーでは、マイナー学修のねらいは学生一人ひとりで別々です。パッケージ型・オナーズ型マイナーのようにあらかじめ決められた領域を学修するわけではありません。そのため、自分自身できちんと学びを整理していく必要があります。そこで「分野横断リフレクション」では、マイナー学修から何を得たのか、マイナー学修にはどういう意味があったのか、マイナーだけでなくメジャーと合わせることによって何が達成できそうなのか等を省察します。

以上のように、学修創生型マイナーでは、「分野横断デザイン」「分野横断リフレクション」という2つの科目と、それら科目とセットになった学修デザイン相談によって、学生のマイナー学修を支援しています。なお、学修デザイン相談については、別項目で説明します。

学修創生型マイナーの支援体制

- 「分野横断デザイン」-1年、または、2年時に履修(R3 年度開講済)
- 「分野横断リフレクション」-3年、または、4年時に履修(R5 年度開講予定)
- 学修デザイン相談-科目履修中、科目履修後にも利用可能なマイナー学修の個別支援

学修創生型マイナー支援科目における到達度評価

全学分野横断創生プログラム(以下、NICE プログラム)では、学修成果の到達度を、マイナーからだけでなく、メジャーと合わせた「分野横断」の視点から測定します。本事業(NICE プログラム)の計画調書には、「『Major』と『Minor』の横断による学修成果」として、マイナー学修を経た後のパフォーマンスを評価するため、次の5つの指標を示しました。

「全学分野横断創生(NICE)プログラム」の学修成果の到達度を測る指標(5つの指標)

- 1) 文理複眼の視野
- 2) 課題を発見する能力
- 3) 発見した課題を解決する能力
- 4) 課題解決に必要な知識・技能を主体的に学修する能力
- 5) 課題に協働的に取り組むためのコミュニケーション能力

これら評価を当初は、「分野横断リフレクション」終了時点、つまり、マイナー学修終了時点で行うと想定していました。しかし前述したように、学修創生型マイナー(NICE プログラムの中核となるマイナー型)

では、「分野横断デザイン」と「分野横断リフレクション」という2つの支援科目を設け、それぞれに単位認定する仕組みをとっています。そこで、マイナー学修終了時だけでなく、「分野横断デザイン」終了時点での評価を組み込んだ評価ツール(ルーブリック)をR3年度に開発しました。

ルーブリックとは、一般的には、評価項目(観点)と評価基準(レベル)からなる表のことです。プレゼンテーションや文書作成など、複数の知識やスキルを総合して使うことによって達成できるパフォーマンス課題の評価に用いられるようになってきています。NICE プログラムでは、複数のマイナー科目履修、さらには、メジャーと合わせて何ができるようになったのかを総合して評価します。ルーブリックはまさに、このような評価にふさわしいツールです。

開発したルーブリックでは、前述の「5つの評価指標」を、3つのエリアに分けて測定します。以下がその3つのエリアです。

ルーブリックで評価する3つのエリア

- ① マイナーの創生 [メジャー外に学修したいことを見だし、学修成果に一貫した意味を与える]
- ② メジャー×マイナーの創生 [課題発見・課題解決に、複数の異なる地点を活用する]
- ③ メジャー×マイナー学修による自律・創生型学修スタイルの形成 [協働学習・自己調整の方法を自分のものにする]

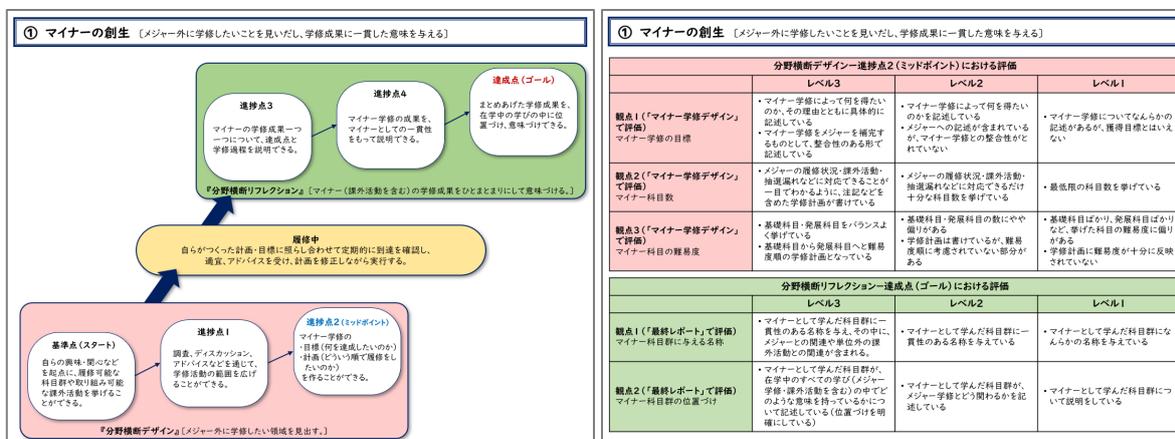
エリア①はマイナー学修によって得られることです。エリア②はメジャーに加えマイナーを学ぶことで達成できることを中心に据えています。そして、エリア③はマイナーという付加学修を行うことによってよりいっそうの力が付くと期待できる汎用スキルに焦点を当てています。マイナー学修を完了するためには、より綿密な計画づくり、他学部学生や教職員との協働作業が必要だと想定されるからです。

以上から、「5つの指標」の1)は主にエリア①で、2)3)4)はエリア②で、そして、5)はエリア③で測定するようにしています。

開発したルーブリックは、学生が自らの進捗を簡単に確認できるグラフィック部分と、より詳細にレベルを評価できる表部分にわかれています。

下図の左側は、エリア①のグラフィック・ルーブリックです。これを見ながら学生は、「分野横断デザイン」からマイナー履修を経て、「分野横断リフレクション」に至る進捗点を確認できます。右側の表部分では、観点毎に評価レベルを明確に示しています。それぞれの授業履修中に、学生は表を見ながら、詳細に自分の達成度を確認できます。また授業においては、教員がルーブリックの観点に沿って、学生を評価します。このように教員と学生が共通の評価のものさしをもつことができるのもルーブリックの特徴です。

なお、グラフィック部分も表部分も、ピンク部分が「分野横断デザイン」、緑色が「分野横断リフレクション」です。黄色部分はマイナー学修遂行中の指針となります。



全体(エリア①~③)は、別紙をご覧ください。

「分野横断デザイン」の概要（以下から R3 年度に開設した「分野横断デザイン」について詳述）

「分野横断デザイン」は NICE プログラムの入口科目です。1年、または、2年次に履修することを条件にしています。この科目では、学生個人が持っている興味・関心を探究課題として捉えなおし、マイナー学修のねらいとして書きあげます。そして、そのねらいに沿ってマイナーとして履修する科目を挙げ、学修計画を完成させます。

全学部 of 学生を対象としていることから、学部の時間割とキャンパスの制限により受講不可にならないよう、6限にオンラインで開講しています。また、1学期、2学期に同じ内容の授業を開講し、より多くの学生が受講できるように努めています。

NICE プログラムの「5つの指標」に照らし合わせ、「分野横断デザイン」では、次の3つの目標を定めています。

「分野横断デザイン」の目標

- (1) マイナー学修デザイン(自らのねらいに沿ったマイナー学修の計画書)を作成することができる。
- (2) 自らの興味・関心を探究課題として捉えなおし、それをメジャー・マイナー両領域から説明できる。
- (3) 協働学習を含む総合的な学修活動において、自らを動機づけ、自律的に学びに向かうことができる。

この目標を無理なく達成するために、次に示す表のように授業を実施しています。

No.	内容 /Content	準備学習 /Preparing learning
1	授業の目的・目標への理解を深め、グループ学習の基礎スキルを学ぶ	グループ学習の練習があります。グループ学習を含む授業で、どうすれば効果的に学習できるか、考えておいてください。 オンライン学修を中心にするため、カメラ・マイクなど ZOOM へのアクセスが確実にできる PC 等環境を整えておいてください。
2	自分の学修スタイルを把握し、学修の実行可能性を高める	学修における自らの強み・弱みを明確にし、整理し提出します(詳細はひとつ前の講義で説明します)。 授業中の「仕事現場の分野横断」を学ぶコーナーに「日本海エル・エヌ・ジー株式会社」が参加。
3	メジャーから何を学ぶかを確認する	メジャーという領域について掘り下げる調査をし、整理し提出します(詳細はひとつ前の講義で説明します)。 授業中の「仕事現場の分野横断」を学ぶコーナーに「三和ボーリング株式会社」が参加。
4	興味・関心を探究につなげる	自らの興味・関心に関連する語を挙げ、調査し、整理し提出します(詳細はひとつ前の講義で説明します)。 授業中の「仕事現場の分野横断」を学ぶコーナーに「株式会社ジオックス」が参加。
5	興味・関心とメジャーと社会とをつなぐ	探究したい興味・関心(マイナー)とメジャーと社会とのつながりを記述し、提出します(詳細はひとつ前の講義で説明します)。 授業中の「仕事現場の分野横断」を学ぶコーナーに「株式会社熊谷」が参加。
6	興味・関心をマイナー学修につなげる	自らの興味・関心からメジャー外の領域を見だし、マイナーとして調査し、整理し提出します(詳細はひとつ前の講義で説明します)。
7	マイナー学修の科目・活動をみつける	マイナーとして履修したい科目の詳細について調べて、整理し提出します(詳細はひとつ前の講義で説明します)。
8	授業をふりかえり、マイナー学修へ漕ぎ出す	本授業をふりかえるセルフインタビュー動画を作成し、提出します。また、マイナー学修デザイン(マイナー学修の計画表)と学びを総括した最終レポートを提出します(詳細はひとつ前の講義で説明します)。

シラバス全体は別紙をご覧ください。

マイナー学修を希望する学生は、メジャー以外に何かやってみたい、という思いを持っています。しかし、それが何であるかが、まだ十分に明確になっていない学生も少なくありません。そこで、メジャー以外にやってみたいことを言語化することが重要になります(第4回)。また、実行性の高い学修計画書をつくるためには自分自身の行動特性について見つめなおす必要があります(第2回)。そして、学修創生型マイ

ナーでは、メジャーとマイナーとの両方を学ぶことによって課題発見・課題解決の力を養うことも一つの目的ですから、メジャーについて改めて考え直す機会も必要です(第3回)。学問としてのメジャーで何が得られるのかについて、考える機会を設けています。将来において取り組むことになる課題は、社会と密接にかかわることから、学問と社会とのつながりを意識させるようにもしています(第2回～第5回の「仕事現場の分野横断」コーナー、および、それらのまとめ回である第5回)。

このようにして、自分について、メジャーについて、社会とのつながりについて一通り学んだ上で、マイナー学修計画に取り組めるように授業を設計しました(第6回～第8回)。なお、第2回～第5回までの各回内容は、毎回行う ZOOM でのグループ学習に徐々に慣れていけるよう、グループ学習において話しやすい順に配置しています。

授業形態の特徴

「分野横断デザイン」の授業では、授業1回目に授業構成を示しています。この図に沿って、授業形態の4つの特徴を説明します。

「分野横断デザイン」授業形態の特徴

- A) 事前ワーク・事後課題
- B) グループ学習
- C) 「学修デザイン相談」
- D) SA(Student Assistant)によるファシリテーション(R3 2学期より)

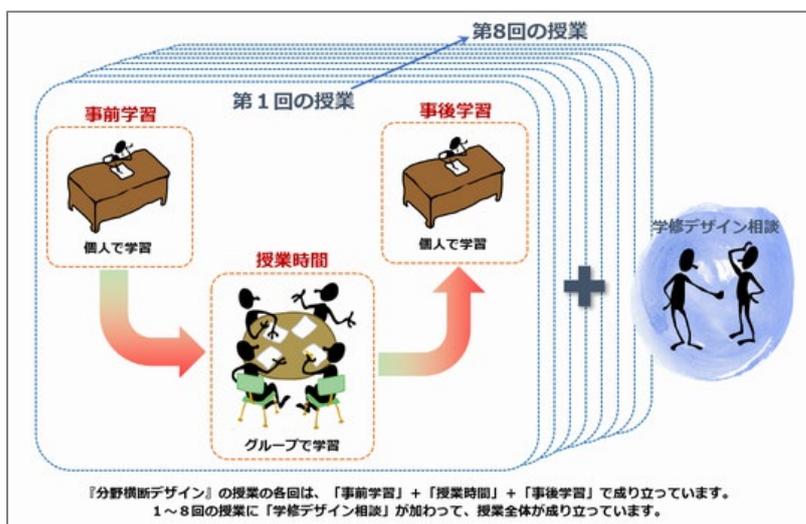
1つめ(A)の事前ワーク(図では事前学習)・事後課題(図では事後学習)は、毎回の授業で課している個人学習です。毎回の事前ワーク・事後課題を積み重ねて、「マイナー学修デザイン」(マイナー学修計画書)が無理なく完成できるように構成しています。

2つめ(B)のグループ学習は、協働学習の体験です。この活動は、上述の「5つの指標」の5番目につながるものとなります。グループで話し合うことによってコミュニケーション力を高めるだけでなく、「分野横断デザイン」が全学部にかかれていることを活用し、異なる学部の学生と話し合う経験をつくりだしています。学部が異なれば、考え方や志向が異なります。分野横断の学修によって身に付くと期待される、異なる立場、考え方を持つ者との対話力などの獲得に向けた第一歩となるようにしています。

3つめ(C)は、「学修デザイン相談」による個別サポートです。授業は全体に向けて伝えるものです。個別につくりあげることになるマイナー学修計画に対応しきれない場合がでてきます。そこで、「学修デザイン相談」による個別サポートで補完しています。

さらに、図にはありませんが、最後の特徴(D)は、R3年度の2学期より開始したSAによるファシリテーションです。「分野横断デザイン」を修了した学生、つまり、自らもマイナー学習者である学生が、経験を交えながら、グループ学習を支援しています。

これらの4つの特徴によって、能動的に授業にかかわる仕組み(アクティブラーニング)をつくりあげて

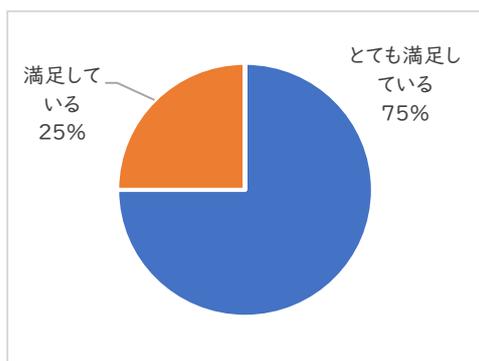


います。また、他学部との学生や SA、教員との話し合いや、学修相談でのアカデミック・アドバイザーとの話し合いによって視野を広げながら、マイナー学修計画をつくりあげられるようにしています。

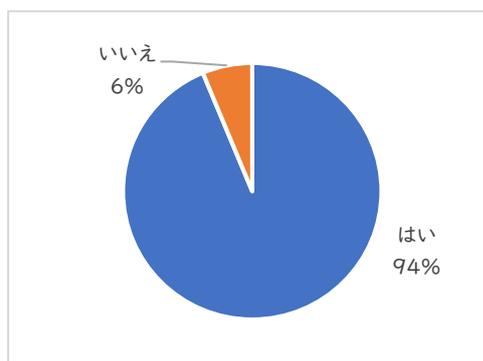
「分野横断デザイン」への満足度

R3年度の1学期、2学期終了後に、授業アンケートを実施しました。その主な結果について示します。アンケート結果は、1学期、2学期を合算したもので示します。授業登録者は、1学期・2学期合わせて62人で32人がアンケートに答えました(回答率51.6%)。

なお、登録者62人のうち、合格者は55人です。7人の不合格者のうち6人は、最初から授業に出てこない、数回出ただけで出席しなくなった学生です。1人は最終のレポートを出しませんでした。2学期に再度受講し合格しました。



授業への満足度

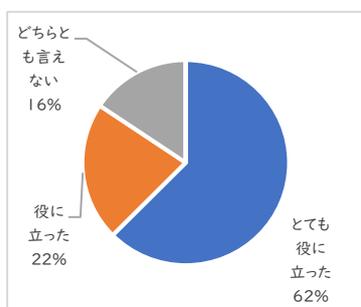


この授業を同級生や後輩に勧めたいか？

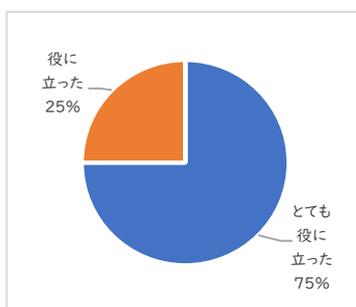
授業アンケートで、「授業への満足度」について5段階で尋ねました。この結果より、アンケートに答えたすべての学生が授業に満足したと判断できます。続いて、「この授業を同級生や後輩に勧めたいか？」という項目において、さらに満足度をさぐりました。2人の学生が「いいえ」と答えましたが、重ねてその理由を記述してもらったところ、「課題が少し重い。」「個人的にはとても満足しているが、他の人に勧めるには事前課題や事後課題が多く、他の課題との両立が大変だと感じたから。」という理由が示されました。このことより、他の学生にも勧めたい授業であると判断できます。

続いて、授業の中での他の学生とのやりとり(グループ学習)、課題へのフィードバック(課題へのコメント)、学修デザイン相談という、授業のインタラクション部分(いわゆるアクティブラーニングの大きな要素)についての状況を示します。

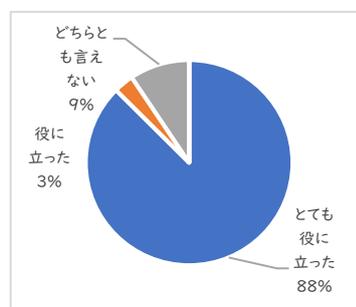
次の各要素は目標達成に役立ったか？



グループ学習



課題へのコメント



学修デザイン相談

アンケートの結果、これらの要素が目標達成の役に立ったことがうかがえました。なお、「学修デザイン相談」で「どちらとも言えない」と答えた学生のうち2人は、学修デザイン相談を活用しなかった学生です。

なお、学修デザイン相談は学修創生型マイナーを選んだ学生については必須活動としていますが、パッケージ型・オナーズ型を選んだ学生は選択としていました。また残りの1人は、「必須活動と言われたので予約して行った」と答えました。自分には必要なかったという気持ちがあったのかもしれませんが。

「学修デザイン相談」についてはさらに、32人中29人がその理由を自由にアンケートに記述しました。以下に主なものを示します。

- ◆ 自分の課題意識を明確な言葉にさせていただけたこと、視野が広がったこと
- ◆ 自分の考えが明確になったり、自分では気づくことができなかつたところに気づくことができたりしたこと、また、自分がまだまだ未熟だということを改めて実感することができたことがよかった。
- ◆ マイナーに直接関わる話だけでなく大学生活全体の過ごし方等の話もできたため、これからの学修のモチベーションが高まった。
- ◆ 自分の悪いところを罵倒せず受け入れてもらい、どう改善していくかの具体的なアドバイスまでいただいた。一言で言えば面倒見がものすごくよかった。

SAの育成と活用

「分野横断デザイン」の特徴の一つは、グループ学習です(B)。グループ学習は現在、多くの授業で取り入れられるようになってきていますが、参加者一人ひとりに対する評価が難しい、授業時間を何も言わずにやり過ごすことで済ませてしまう学生がいるなどの問題も生じています。

R3 年度1学期(開講当初)は、授業担当教員が7人であることを活かし、少人数グループのファシリテーションを教員が担当しました。2学期には、1学期授業を修了した学生8人を SA(Student Assistant)として雇用し、グループ学習のファシリテーターを務めてもらいました。R4 年度からは SA を前提として授業を展開しています。

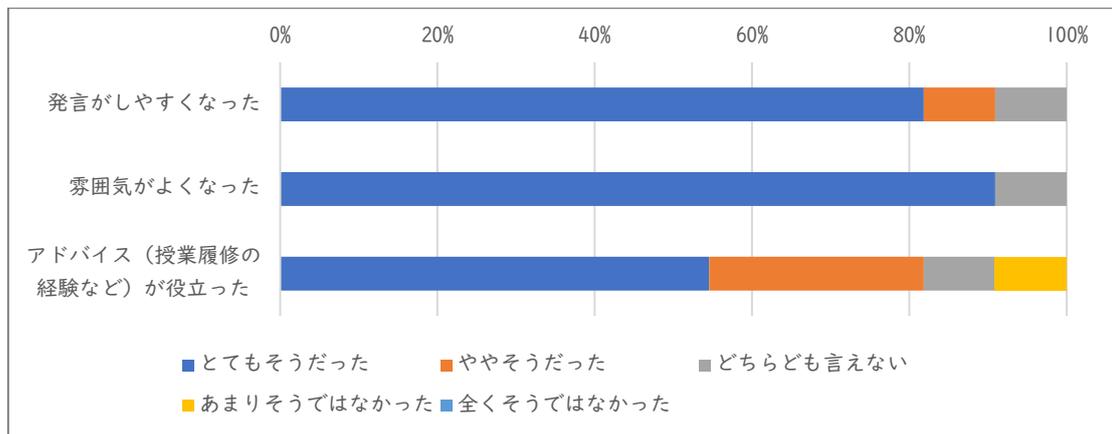
SA は受講者と年齢が近く、「分野横断デザイン」の受講という共通点があることから、話しやすい環境づくりに寄与しやすくなります。また、自らもマイナー学修を行っているため、当事者ならではのアドバイスも期待できますし、自らのマイナー履修に対するモチベーションも高まることが期待できます。さらに、SA 業務を通じてファシリテーションスキルを上げれば、いずれ履修する「分野横断リフレクション」を牽引する存在となることも可能です。

SA の授業での活用にあたっては、事前にファシリテーション研修を実施しました。授業終了後すぐの実施であること、また、「分野横断デザイン」でのファシリテーションスキルに特化したスキルだけを対象としたため、eラーニングシステムによる知識学習と実地練習を合わせて3時間で、授業で活躍できる確実なスキルを身に付けさせることができました。

また、SAとして授業に参加する際には、授業前に資料の確認とグループ学習でのファシリテーションの計画、授業後すぐの口頭でのふりかえりとふりかえりレポートの提出、さらに全回終了後のふりかえり会への出席と締めくくりレポートの提出も業務に含めました。これによりファシリテーションスキルを高めると同時に、授業でのグループ学習では教員とほぼ同等の役割を果たしてもらっています。

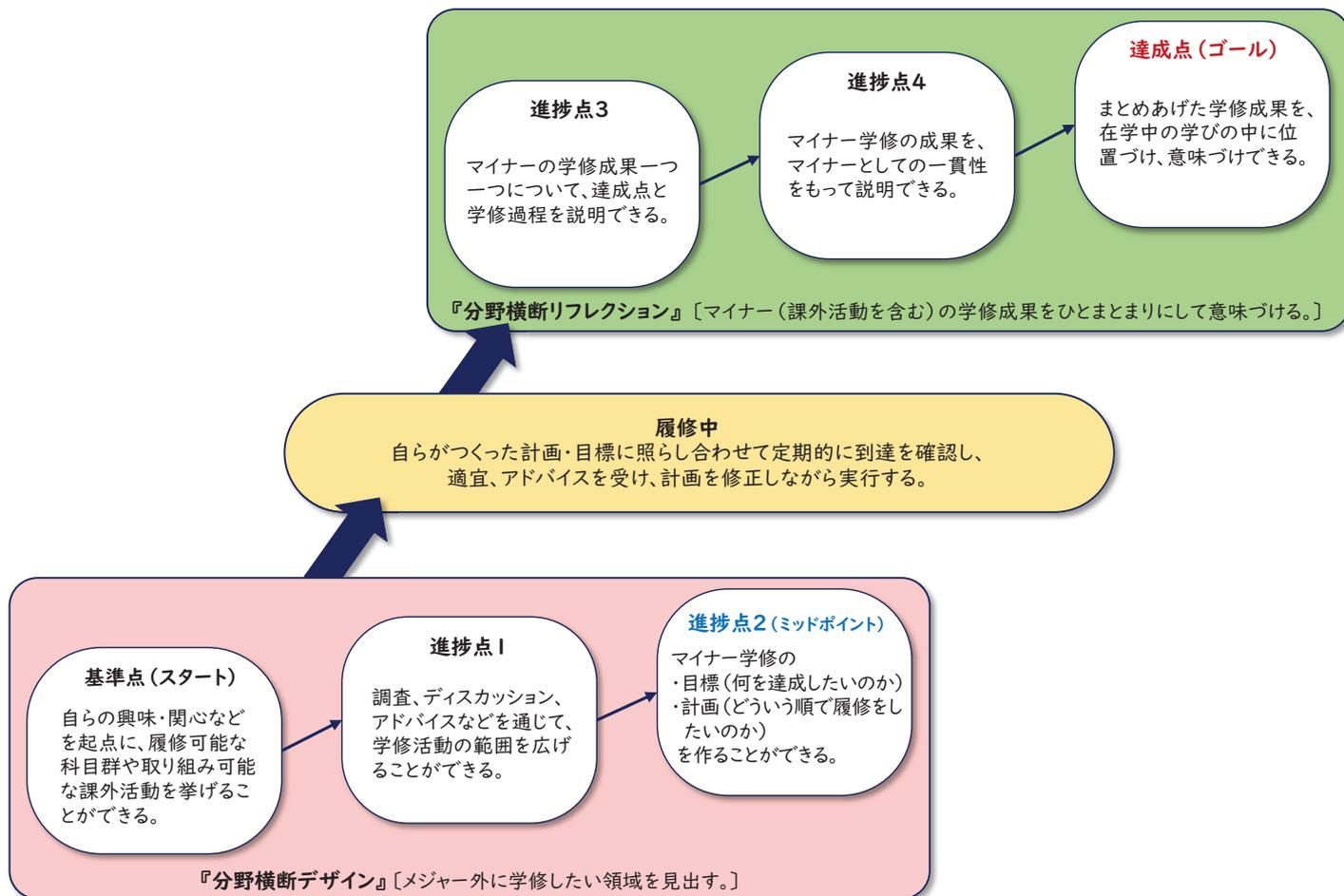
なお、半年、1学期分の授業でSAを務めた学生は、教育・学生支援機構長名でファシリテーターとして、認定証を授与することとしています。R3 年度2学期に SA を務めた学生8人に、授与しました。

SA を活用した R3 年度2学期では、授業アンケートで受講生に SA がいたことによって「発言がしやすくなったか」「グループの雰囲気がよくなったか」「アドバイスが役立ったか」について尋ねました。その結果をグラフに示します。



SA に行くように明確に指示をしなかった「アドバイス」については、「あまりそうではなかった」が含まれますが、全体として SA がグループ学習により効果をもたらしたことが示されました。

① マイナーの創生 [メジャー外に学修したいことを見だし、学修成果に一貫した意味を与える]

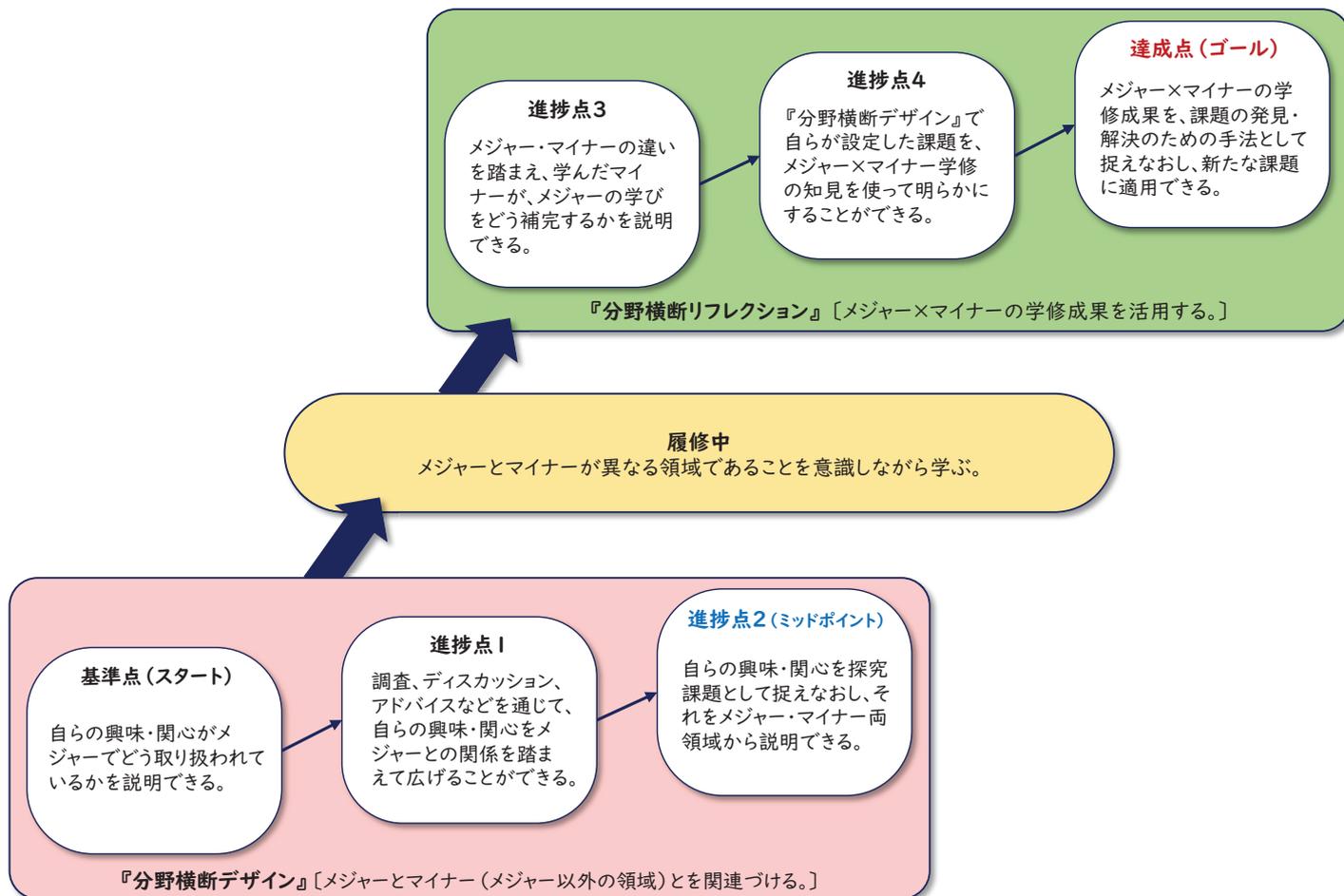


① マイナーの創生 [メジャー外に学修したいことを見だし、学修成果に一貫した意味を与える]

分野横断デザインー進捗点2(ミッドポイント)における評価			
	レベル3	レベル2	レベル1
観点1(「マイナー学修デザイン」で評価) マイナー学修の目標	<ul style="list-style-type: none"> マイナー学修によって何をしたいのか、その理由とともに具体的に記述している マイナー学修をメジャーを補完するものとして、整合性のある形で記述している 	<ul style="list-style-type: none"> マイナー学修によって何をしたいのかを記述している メジャーへの記述が含まれているが、マイナー学修との整合性がとれていない 	<ul style="list-style-type: none"> マイナー学修についてなんらかの記述があるが、獲得目標とはいえない
観点2(「マイナー学修デザイン」で評価) マイナー科目数	<ul style="list-style-type: none"> メジャーの履修状況・課外活動・抽選漏れなどに対応できるように、一目でわかるように、注記などを含めた学修計画が書けている 	<ul style="list-style-type: none"> メジャーの履修状況・課外活動・抽選漏れなどに対応できるだけ十分な科目数を挙げている 	<ul style="list-style-type: none"> 最低限の科目数を挙げている
観点3(「マイナー学修デザイン」で評価) マイナー科目の難易度	<ul style="list-style-type: none"> 基礎科目・発展科目をバランスよく挙げている 基礎科目から発展科目へと難易度順の学修計画となっている 	<ul style="list-style-type: none"> 基礎科目・発展科目の数にやや偏りがある 学修計画は書けているが、難易度順に考慮されていない部分がある 	<ul style="list-style-type: none"> 基礎科目ばかり、発展科目ばかりなど、挙げた科目の難易度に偏りがある 学修計画に難易度が十分に反映されていない

分野横断リフレクションー達成点(ゴール)における評価			
	レベル3	レベル2	レベル1
観点1(「最終レポート」で評価) マイナー科目群に与える名称	<ul style="list-style-type: none"> マイナーとして学んだ科目群に一貫性のある名称を与え、その中に、メジャーとの関連や単位外の課外活動との関連が含まれる。 	<ul style="list-style-type: none"> マイナーとして学んだ科目群に一貫性のある名称を与えている 	<ul style="list-style-type: none"> マイナーとして学んだ科目群になんらかの名称を与えている
観点2(「最終レポート」で評価) マイナー科目群の位置づけ	<ul style="list-style-type: none"> マイナーとして学んだ科目群が、在学中のすべての学び(メジャー学修・課外活動を含む)の中でどのような意味を持っているかについて記述している(位置づけを明確にしている) 	<ul style="list-style-type: none"> マイナーとして学んだ科目群が、メジャー学修とどう関わるかを記述している 	<ul style="list-style-type: none"> マイナーとして学んだ科目群について説明をしている

② メジャー×マイナーの創生 [課題発見・課題解決に、複数の異なる地点を活用する]

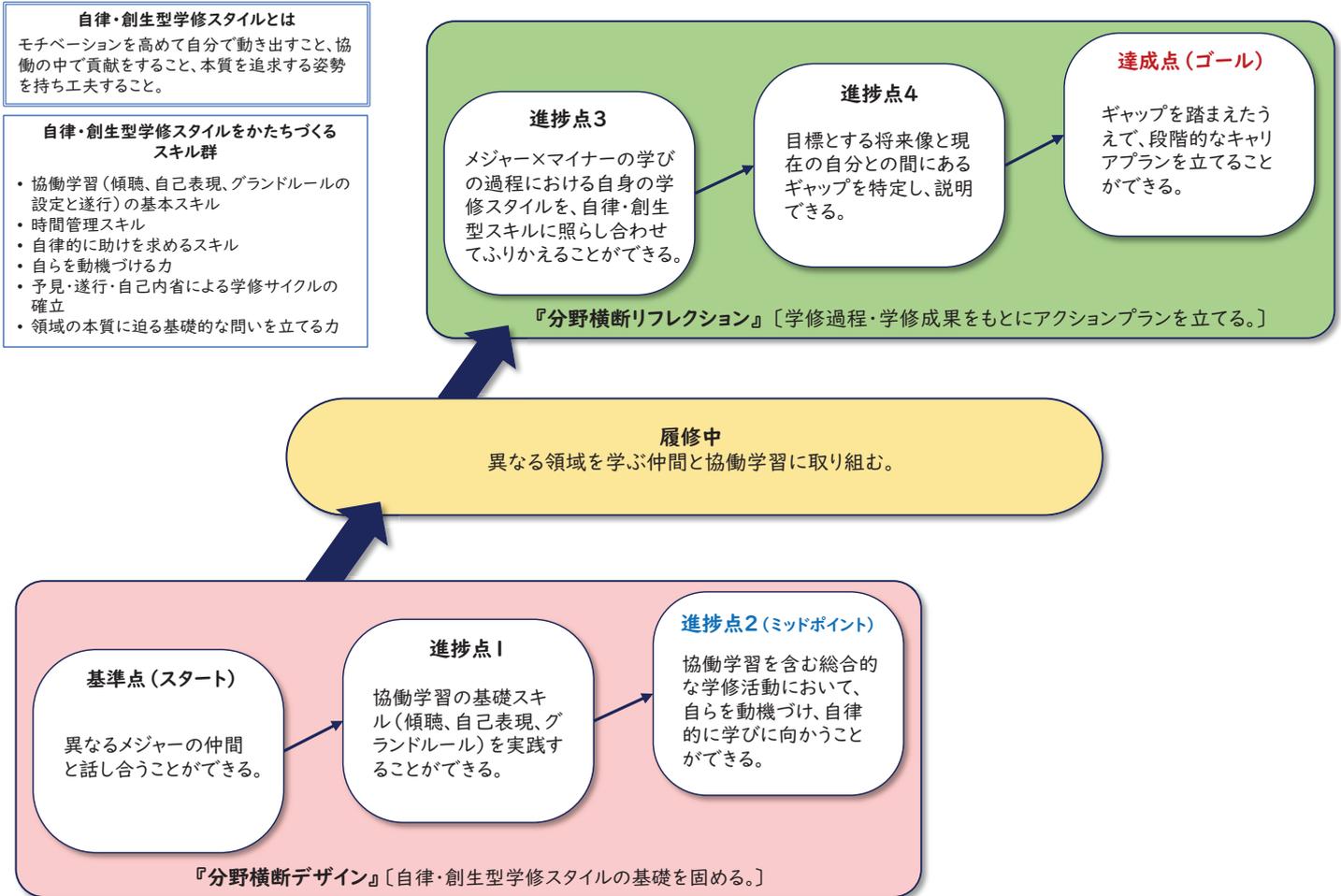


② メジャー×マイナーの創生 [課題発見・課題解決に、複数の異なる地点を活用する]

分野横断デザイン-進捗点2(ミッドポイント)における評価			
	レベル3	レベル2	レベル1
観点1 (「最終レポート」で評価) メジャー・マイナーと個人の興味・関心との関わり	<ul style="list-style-type: none"> 自分の興味・関心を、メジャーとマイナー両方の、方法・考え方・社会への影響などの観点から記述している 	<ul style="list-style-type: none"> 自分の興味・関心を、メジャーまたはマイナーどちらかの方法・考え方・社会への影響などの観点から記述している 	<ul style="list-style-type: none"> 自分の興味・関心についてメジャーまたはマイナーと関連させて記述している
観点2 (「最終レポート」で評価) 個人の興味・関心に端を発する課題	<ul style="list-style-type: none"> 自分の興味・関心を、それが生まれてきた背景、それに取り組む動機・意義を含め、具体的な探究課題として記述している 	<ul style="list-style-type: none"> 自分の興味・関心について、それが生まれてきた背景、それに取り組む動機・意義を記述している 	<ul style="list-style-type: none"> 自分の興味・関心が何であるかを記述している

分野横断リフレクション-達成点(ゴール)における評価			
	レベル3	レベル2	レベル1
観点1 (「最終レポート」で評価) メジャー×マイナー学修を通じた課題定義・課題解決	<ul style="list-style-type: none"> 自らが設定した課題を、学修を通じて得た知見を用いて記述し、解決案を記述している 	<ul style="list-style-type: none"> 授業で与えられた課題を、学修を通じて得た知見を用いて記述し、解決案を記述している 	<ul style="list-style-type: none"> 学修と、課題定義・課題解決との関係について記述している
観点2 (「最終レポート」で評価) メジャー×マイナー学修成果のメタ把握	<ul style="list-style-type: none"> メジャー×マイナー学修を、課題の発見・解決のための汎用性を持つ手法として捉えなおして記述している 	<ul style="list-style-type: none"> メジャー×マイナー学修から得られた手法について記述している 	<ul style="list-style-type: none"> マイナー学修から得られた手法について記述している

③ メジャー×マイナー学修による自律・創生型学修スタイルの形成 [協働学習・自己調整の方法を自分のものにする]



③ メジャー×マイナー学修による自律・創生型学修スタイルの形成 [協働学習・自己調整の方法を自分のものにする]

分野横断デザイン-進捗点2(ミッドポイント)における評価			
	レベル3	レベル2	レベル1
観点1(授業中のグループ学習で評価) グループ学習参加中の行動	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の考えと調査内容を区別し、筋道立てて話している ・仲間の考え・調査内容を明確にする質問をしている ・仲間の考え・調査内容を発展させるアイデアを話している 	<ul style="list-style-type: none"> ・考えや調査内容などを話している ・仲間の考え・調査内容に対して質問をしている 	<ul style="list-style-type: none"> ・考えや調査内容などを話している
観点2(「最終レポート」で評価) メジャー・マイナーの調査行動	<ul style="list-style-type: none"> ・「ある領域の学びから多くの収穫を得るための問い」を用いた調査過程を、得た結果を示しながら整合性のある形で記述している 	<ul style="list-style-type: none"> ・メジャー・マイナーについての調査過程を、得た結果を示しながら記述している 	<ul style="list-style-type: none"> ・メジャー・マイナーについての調査結果を記述している(調査過程は記述されていない)
観点3(「最終レポート」で評価) 学修の進め方についての計画	<ul style="list-style-type: none"> ・学修への取り組みへの自らの強み・弱みを挙げ、それらを踏まえた上でメジャー・マイナーの学びをどう進めていくかを説明している 	<ul style="list-style-type: none"> ・学修への取り組みへの自らの強みまたは弱みのどちらかを挙げ、それらを踏まえた上でメジャー・マイナーの学びをどう進めていくかを説明している 	<ul style="list-style-type: none"> ・学修への取り組みへの自らの強みまたは弱みのどちらかを挙げている
観点4(学修デザイン相談で評価) アカデミック・アドバイザーの活用状況	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の学修計画の中にアドバイス依頼などを組み込み、適切なタイミングをとらえて行っている 	<ul style="list-style-type: none"> ・困ったときなど、どうしても必要なときにアドバイス依頼などを行っている 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業での促しに応じてアドバイス依頼を行っている

分野横断リフレクション-達成点(ゴール)における評価			
	レベル3	レベル2	レベル1
観点1(「最終レポート」の記述) メジャー×マイナーの学修過程	<ul style="list-style-type: none"> ・メジャー×マイナーの学修過程について、協働的な活動結果(学外学修、インターンシップなども含まれる)を記述している 	<ul style="list-style-type: none"> ・メジャー×マイナーの学修過程について、個人による活動部分を記述している 	<ul style="list-style-type: none"> ・マイナーの学修過程について、個人による活動部分を記述している
観点2(「最終レポート」の記述) <目標とする将来像>と<現時点における自分>とのギャップの分析	<ul style="list-style-type: none"> ・将来と現時点のギャップ把握に基づいた現状の到達度を、複数の観点から説得力をもって記述している 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分自身の不足を、将来と現時点のギャップ把握に基づいて記述している 	<ul style="list-style-type: none"> ・現時点における自分自身の不足の記述を記述している
観点3(「最終レポート」の記述) 段階的なキャリアプラン	<ul style="list-style-type: none"> ・ギャップ分析と整合する形でキャリアプランを、段階的(3か月後、1年後、5年後など)、かつ具体的に記述している 	<ul style="list-style-type: none"> ・キャリアプランを、段階的(3か月後、1年後、5年後など)、かつ具体的に記述している 	<ul style="list-style-type: none"> ・なんらかのキャリアプランを記述している

●授業基本情報

科目名／Course title	分野横断デザイン / Cross-Disciplinary Design		
担当教員／Instructor	神田 麻衣子, 斎藤 有吾, 高澤 陽二郎, 竹岡 篤永, 長 創一郎, 樋口 健		
対象学年／Eligible grade	1, 2	開講番号／Registration Code	
講義室／Classroom		開講学期／Semester	2022 年度／Academic Year 集中／INTENSIVE
曜日・時限／Class period	他/Others	単位数／Credits	1
授業形態／Type of class	講義・演習	科目区分／Category 細区分／Sub-division	新潟大学個性化科目／Niigata University Original Subjects 自由主題／Other Themes
副専攻／Minor		定員／Capacity	160
分野／Academic Field	75:新潟大学個性化科目	水準／Academic Standard	01:全学学生受入可・大学学習法など
抽選方法／Method of lottery	手動/Manual (学務情報システムでマイナー履修申請をしていない者は登録不可)	学部優先／Precedence Faculty	無し/None
実務経験を有する教員が実施する科目／Courses conducted by teachers who have practical experience			

●授業概要情報

対象学部等／Eligible Faculty	全学部 / 1・2年生
聴講指定等／Designated Students	詳細は、「登録のための条件(注意)」を参照してください。
科目の概要／Course Outline	「分野横断デザイン」は2つあるマイナー学修支援科目の1つで、「全学分野横断創生(NICE)プログラム」における導入科目です。
科目のねらい／Course Objectives	この科目では、自らが持っている興味・関心を探究課題として捉えなおすことを手助けし、捉えなおした探究課題に結びつく形で「マイナー学修デザイン」(自らのねらいに沿ったマイナー学修の計画書)をつくりあげてもらうことをねらいとしています。 個人が持つ興味・関心は、社会からの影響を受けながら形づくられていきます。現代社会の課題に向かっていくためには、自分と社会と自分の接点の中から複数の領域の学びに展開していくことが必要になってきます。例えば、貧困に関心があるとした場合、その関心は一つの分野では解決できません。人口、食糧、政治、制度など、貧困という課題に対するアプローチの方法は多岐にわたるといえるでしょう。本科目では、ある課題に対して、自分の専門領域(メジャー)とは別のものの見方でとらえる力を養うためのマイナー学修について、自分なりのねらいと学修計画を立てることを目的としています。
学習の到達目標／Specific Learning Objectives	(1)マイナー学修デザイン(自らのねらいに沿ったマイナー学修の計画書)を作成することができる。 (2)自らの興味・関心を探究課題として捉えなおし、それをメジャー・マイナー両領域から説明できる。 (3)協働学習を含む総合的な学修活動において、自らを動機づけ、自律的に学びに向かうことができる。

<p>登録のための条件(注意) /Prerequisites</p>	<p><履修のための必須条件> ①1年生、または、2年生であること。 ②マイナー学修(副専攻)の履修希望者であること。 ③本科目の登録前に学務情報システムの「マイナー学修(副専攻)関連」で、「履修」申請をしておくこと。 ※未申請の場合は、履修不許可となります。</p> <p><推奨要件(なるべくしておいた方がよいこと)> ①ガイダンス動画の視聴 ・副専攻の位置づけ等と知るためにガイダンス動画を事前に視聴しておくことが望ましい。 ※配信日付などの詳細は学務情報システムで連絡します。 ②学修デザイン相談 ・詳細が知りたい、履修を迷っているなどの場合には、事前に「学修デザイン相談」で相談することを推奨します。 ※相談日、相談方法は、下記関連リンクの「アカデミック・アドバイジング」「よくある質問/お問い合わせ」を参照してください。</p> <p><本科目の履修について> ・本科目は「学修創生型マイナー」の必修科目である。「学修創生型」希望者は、必ず履修すること。 ⇒本理由により、履修人数が定員を超えた場合は「学修創生型マイナー」希望者を優先する。 ・第1・第2学期の授業は同一内容であるため、両方の履修は認められない。</p> <p><履修登録・許可期間> ・履修登録期間(学生):4月1日(金)から4月22日(金)まで ・履修許可期間(教員):4月23日(土)から4月26日(火)まで</p> <p>・履修登録期間(学生):10月3日(月)から10月14日(金)まで ・履修許可期間(教員):10月15日(土)から10月18日(火)まで</p>
<p>授業実施形態について /Study Advice</p>	<p>・本科目の各回授業は「事前学習+授業(講義+グループ学習)+事後学習」という構成を取っています。加えて、5か月間の授業期間中の1回以上の「学修デザイン相談」(対面または Zoom でアドバイザーに相談)を必須とします。 ・授業(講義+グループ学習)は Zoom(リアルタイムと動画配信を併用)により実施します。 ※他の授業等の都合により、リアルタイムで出席できない場合は、講義部分については動画配信で確認が可能です。ただし、本科目ではグループ学習を通じて協働学習のスキルを学んでもらうことも目標の一つであるため、1~2回程度を動画視聴の限度とします。</p>
<p>成績評価の方法と基準 /Grading Criteria</p>	<p>ルーブリックを用いて評価します。配点は以下の通りです。 (1)各回の事前・事後課題:60% (2)最終レポート(マイナー学修デザインを含む)、議論への参加状況、学修デザイン相談の利用状況:40% ※(1)(2)それぞれに、60%以上の得点を獲得していること。</p>
<p>使用テキスト /Textbooks</p>	<p>必要に応じて資料を配付する。</p>
<p>関連リンク /URL of syllabus or other information</p>	<p>新潟大学分野横断創生(NICE)プログラム http://www.iess.niigata-u.ac.jp/niceprogram/index.html</p>
<p>参考文献 /References</p>	
<p>キーワード /Keywords</p>	<p>副専攻 マイナー NICE プログラム 分野横断 分野融合</p>
<p>備考 /Remarks</p>	

●授業計画詳細情報

No.	内容 /Content	準備学習 /Preparing learning	備考 /Notes
1	授業の目的・目標への理解を深め、グループ学習の基礎スキルを学ぶ	グループ学習の練習があります。グループ学習を含む授業で、どうすれば効果的に学習できるか、考えてみてください。 オンライン学修を中心にするため、カメラ・マイクなど ZOOM へのアクセスが確実にできる PC 等環境を整えておいてください。	4月27日(水)6限 10月19日(水)6限 (18:05~19:35)
2	自分の学修スタイルを把握し、学修の実行可能性を高める	学修における自らの強み・弱みを明確にし、整理し提出します(詳細はひとつ前の講義で説明します)。 授業中に「仕事現場の分野横断」を学ぶコーナーがあります(日本海エル・エヌ・ジー株式会社が参加されます)。	5月11日(水)6限 10月26日(水)6限 (18:05~19:35)
3	メジャーから何を学ぶかを確認する	メジャーという領域について掘り下げる調査をし、整理し提出します(詳細はひとつ前の講義で説明します)。 授業中に「仕事現場の分野横断」を学ぶコーナーがあります(三和ボーリング株式会社が参加されます)。	5月18日(水)6限 11月9日(水)6限 (18:05~19:35)
4	興味・関心を探究につなげる	自らの興味・関心に関連する語を挙げ、調査し、整理し提出します(詳細はひとつ前の講義で説明します)。 授業中に「仕事現場の分野横断」を学ぶコーナーがあります(株式会社ジオックスが参加されます)。	5月25日(水)6限 11月16日(水)6限 (18:05~19:35)
5	興味・関心とメジャーと社会とをつなぐ	探究したい興味・関心(マイナー)とメジャーと社会とのつながりを記述し、提出します(詳細はひとつ前の講義で説明します)。 授業中に「仕事現場の分野横断」を学ぶコーナーがあります(株式会社熊谷が参加されます)。	6月15日(水)6限 12月7日(水)6限 (18:05~19:35)
6	興味・関心をマイナー学修につなげる	自らの興味・関心からメジャー外の領域を見だし、マイナーとして調査し、整理し提出します(詳細はひとつ前の講義で説明します)。	6月29日(水)6限 12月21日(水)6限 (18:05~19:35)
7	マイナー学修の科目・活動を見つける	マイナーとして履修したい科目の詳細について調べて、整理し提出します(詳細はひとつ前の講義で説明します)。	7月13日(水)6限 1月11日(水)6限 (18:05~19:35)
8	授業をふりかえり、マイナー学修へ漕ぎ出す	本授業をふりかえるセルフインタビュー動画を作成し、提出します。また、マイナー学修デザイン(マイナー学修の計画表)と学びを総括した最終レポートを提出します(詳細はひとつ前の講義で説明します)。	7月27日(水)6限 1月25日(水)6限 (18:05~19:35)

【資料】(5. 企業・社会との接続)

大学教育と社会・仕事との接続

学問領域の枠にとらわれず複数領域の専門知識を身につけさせることは、現代社会の諸課題に対応する人材を育成する大学の重要な役割です。「大学と職業の接続検討分科会」において、「職業との関連から大学教育の質とそれを保証するための仕組み」の検討がなされ、高度経済成長型の社会構造の中では求められなかった「仕事と接続する大学教育の質」が問い直されました(2010)。また、かつては存在しなかった諸課題に対応するため、これまでになかった専門職が必要だと指摘されました。また、大学は、より広い俯瞰的な社会認識、普遍的な倫理意識、個人としての社会的な責任認識についての教育についても打ち出していく必要があることが明確にされました。

本事業(NICEプログラム)の計画調書においても、この問題意識が共有されています。そこで、本事業では、メジャーに加え、マイナー学修を通じて、現代社会の諸課題に対応する人材育成をめざしています。一部の教育プログラムではなされているものの全学のものとはなっていない「社会における課題解決を意図した教育プログラム」をさらに推進するため、本事業では次のような人材像を掲げました。

「全学分野横断創生プログラム」で育成する人材像は「文理複眼の視野を持つソリューション志向型人材」、すなわち、社会に対する深い理解や倫理観を持ち合わせながら、複数の学問分野の知見を動員して物事を見通し、優れた判断や解決策の実行が可能な人材の養成を目指す。

加えて、地方大学として、地域のニーズに対応した文理融合を推進することも目指しています。

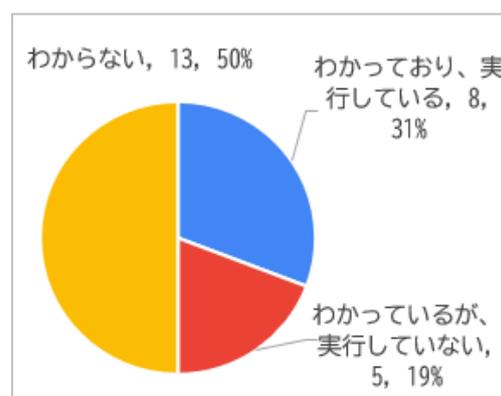
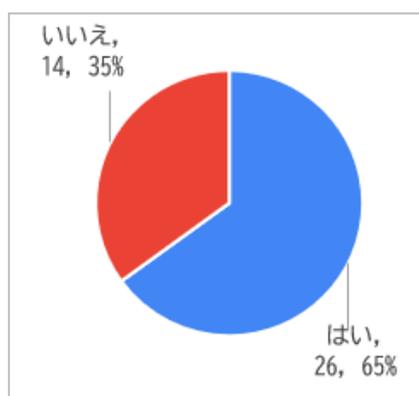
具体的には、本事業の「学修創生型マイナー」の入科目「分野横断デザイン」において、社会・仕事との接続を意識させうえて、マイナー学修の計画立案に導く授業を展開しています。

◆本間由紀(2010)大学と仕事との接続を沿いなおす「学術の動向」(2010.6)

マイナー学修に取り組む学生の意識と取り組みポイント

「分野横断デザイン」を履修する学生、つまり、マイナー学修を行いたいという学生は、メジャーとは別の分野を学びたいと考える目的意識の高い学生たちといえます。しかし、例えば、R4 年度1学期の第1回に実施したアンケート結果によると、目的意識はあるものの、具体的な行動には至っていない姿が浮かび上がってきています(40/47人回答(87.2%)。)

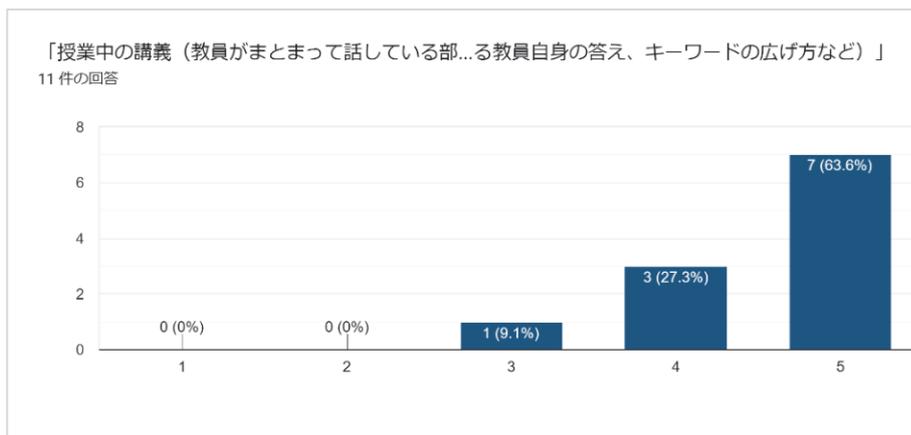
「あなたは自分の将来について見通し(将来こういう風になりたい)を持っていますか?」に対する結果(左)から、1、2年生のうちからなんらかの将来の見通しを持っている学生であることがうかがえました。しかし、この質問に「はい」と答えた受講者に「あなたは、その実現に向かって、今現在自分がすべきことをわかっていますか? またそれを実行していますか?」と尋ねた答えからは、見通しに対する行動が必ずしも起こせていないことがうかがわれました(右)。



このような学生に向けて、現実社会で複数領域が実際にどう使われているかを示すことには大きな意味があります。活用事例を知ることによって、具体的な見通しを持つ可能性が高まるからです。そして、それがマイナー学修のモチベーションにもつながります。

そこで、R3 年度2学期より、「分野横断デザイン」の中に、専門領域と社会・仕事との接続についてのインプットを導入しました。

R3 年度は、同授業を担当している教員7人の専攻が多様であることをいかし、教員がそれぞれ、自分の専門について深く話したり、専門の中にある分野横断の実例を話したりしました。異なる学部の学生と話し合う経験となるグループ学習の時間を確保するため、各回での時間は 10 分程度としました。この部分に対して効果があったことは、下に示す授業アンケートの結果からもうかがえます。



企業との連携 (R4 年度の取り組み)

R4 年度1学期には、担当教員からのインプットに替わって、新潟大学サポーター倶楽部の会員企業と連携し、実際の仕事でどのような分野横断がなされているか話してもらうコーナー（ミニ・レクチャー）を設けました。こちらも持ち時間は 10 分程度とし、グループ学習の時間を確保しました。また、ミニ・レクチャーによって情報をインプットするだけでなく、受講者と企業とのやりとりも行いました。ただし、グループ学習の時間を確保するために、やり取りは非同期とし、教員がとりまとめる形で実施しました。

R4年度1学期の協力企業は、次の4社でした。

- ◆ 第2回 (5/11) 日本海エル・エヌ・ジー株式会社 (液化天然ガスの購入、受入、気化、販売または配送)
- ◆ 第3回 (5/18) 三和ボーリング株式会社 (地質コンサルタント事業/ボーリング工事業)
- ◆ 第4回 (5/25) 株式会社ジオックス (ボーリング薬剤、ケーソン薬剤、シールド薬剤等の開発・販売)
- ◆ 第5回 (6/15) 株式会社熊谷 (プラスチック系包装資材製造・販売)

受講者 (学生) の反応

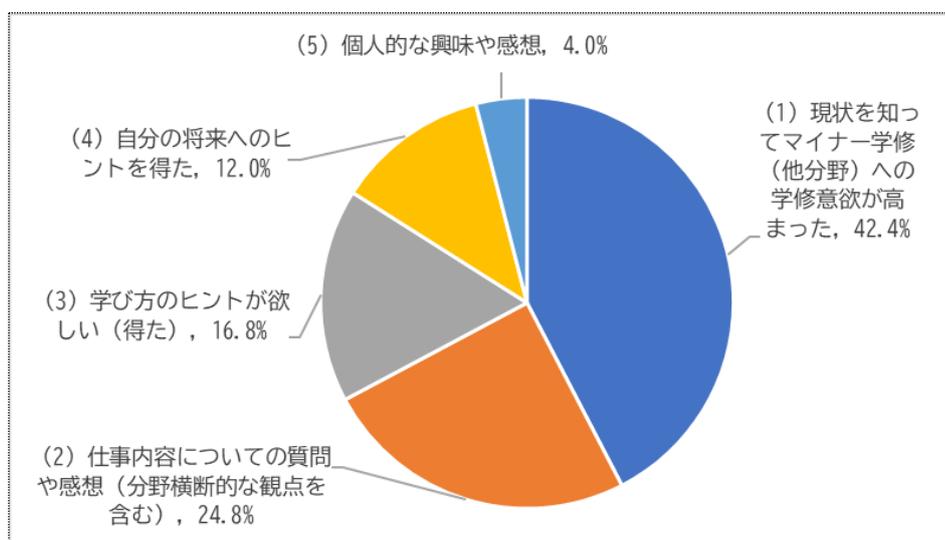
受講者から企業に対する質問・感想は必須とせず、希望者だけが行うようにしました。任意であったにもかかわらず、次表に示すように、多くの受講者がミニ・レクチャーへの質問・感想を寄せました。この数字からも、取り組みに効果があったことがうかがえます。

	企業 A	企業 B	企業 C	企業 D
質問・感想の記述者数 (%)	45 (95.7%)	41 (87.2%)	38 (76.6%)	28 (60.0%)
総文字数 (平均文字数)	6,441 (146.4)	5,826 (149.4)	5,649 (156.9)	4,320 (154.3)

企業からは質問等への回答を得ました。その一部を授業で示すと同時に、質問・感想とそれに対する

回答のすべてを学生に配布しました。

次に示すグラフは、受講者からの質問・感想を分類したものです。この分析から受講者が、仕事は一つの専門分野ではできないことを知り、マイナー学修へのモチベーションが高まったことがうかがえました。



以下に示すのは、授業で紹介した受講者と企業のやり取り（非同期）の一部です。学生と企業とのやり取りを示しながら、授業で学生に、自らが行いたいと考えているマイナー学修と社会の接点について考えてもらいました。

① 分野横断の現実

- Q 分野横断的な専門外の知識は働いていく中で身につけたとおっしゃっていましたが、逆に専門外の知識を持って入社してきた同僚の方はいらっしゃるのですか？
- Q 機械を学んだ社員が、電気系や制御装置系の部署に配属されることやその逆であったり、技術系の社員が事務系に配属されることなどがあるので、そういった意味で専門外の知識を持って入社される方は何人もいます。やはり幅広い知識を持っていると周囲からの評価や期待が高まるように思います。
- Q いちばん分野横断する部署はどこでしょうか？
- Q 断トツで経営者ではないでしょうか。あとは総務、営業、開発、製造とそれぞれの部署で分野横断的な知識、スキルが必要となりますので、特に差はないかと思います。

② 異なる専門領域の中にある共通点

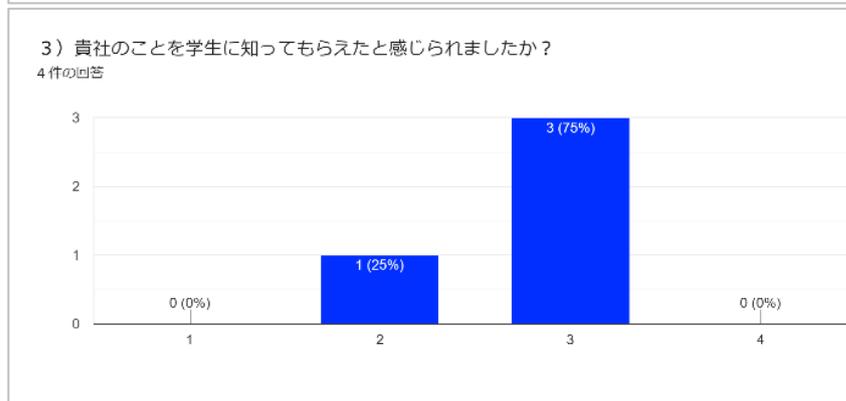
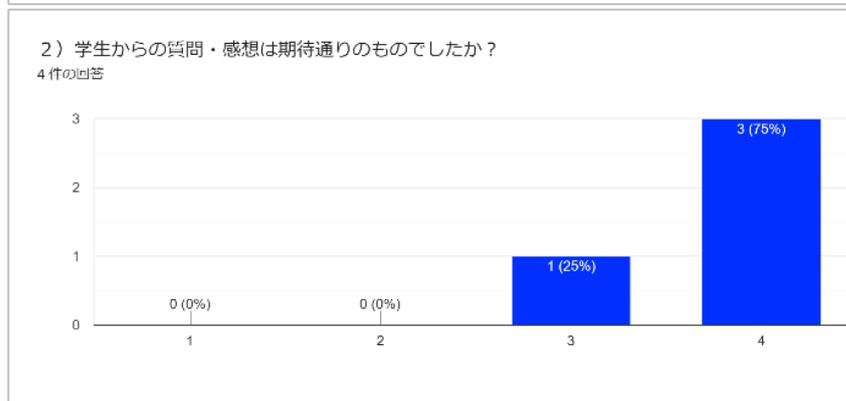
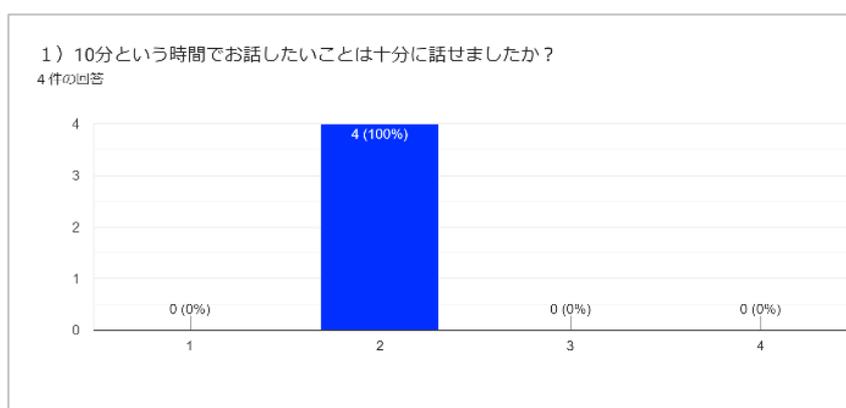
- Q 地質調査は理系の学問分野に属すると考えられるのですが、三和ポーリングに文系学部出身の方はいらっしゃいますか？
- Q 地質調査の担当部署に文系学部出身者は在籍していません。しかし、直接的・間接的なデータを積み重ねて、対象物に迫る（向き合う）手法は文系の研究手法と相通じることがあると思います。もっというと、技術者の哲学を有することができるか、が成長に大きく影響すると考えています。その意味では文系学部で学んだアプローチが地質工学（土質工学）にも生かされるのではないのでしょうか。
- Q 道路建設や土地の調査などの会社とのことで、初めは人文学系の分野はあまり役に立たないだろうと予想していた。しかし、過去に起きた土砂崩れの詳細について、残された石碑から読み取ったり、地域住民の方にお話を伺ったりして突き止めていったと聞き、人文学部で行われるフィールドワークに近いものがあると感じた。

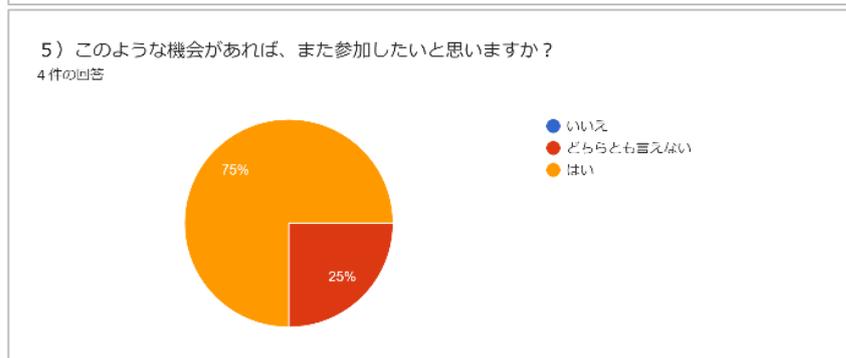
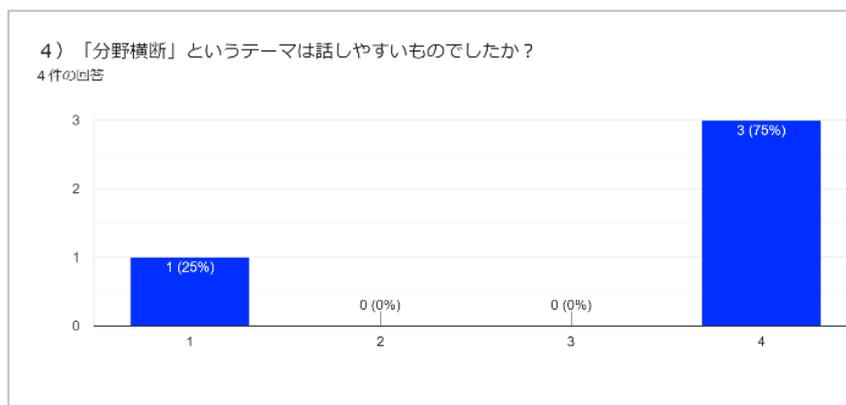
③ 異なる専門領域を学ぶときのヒント

- Q 仕事に取り組みながらの勉強（専門分野外）はどのように行っていたのでしょうか？
- Q 遠回りではありますが、専門用語等を「分かったふり」で済ませず、用語の定義や地質調時の留意点を箇条書きでワードにまとめておりました。
- Q 営業のとき意外な知識が必要になったことはありますか？
- Q 顧客と話していると、専門性の高い質問をされ、試されているなあと感じることは多々あります。こちらもプロなのでわかっている体で話をあわせますが、あとで会社に帰って調べまくります。それでもわからないときは他の顧客に聞いておしえてもらいます。専門的なものだからとわからないままにしない、その積み重ねで知識が身になり、自分の言葉で説明できるようになると思います。

参加企業の反応

企業へのアンケート結果を以下に示します。





この結果から、10分という時間は十分ではなかったものの(問1)、ある程度、自分の会社のことを知ってもらえたと考えられたことがうかがえます(問2,3)。また、分野横断というテーマが話しやすかったことから、このテーマが現場の実情に沿ったものであることも示されました(問4)。なお、問4の「分野横断というテーマは話しにくかった」という回答は、比較的若い社員によるミニ・レクチャーであったことも関連すると考えています。

「分野横断デザイン」における大学教育と社会・仕事との接続についての本格的な取り組みは、R4年度に始まったばかりといえますが、このように大きな成果を上げていると考えております。

真の強さを学ぶ。

NIIGATA
UNIVERSITY

2023 大学案内





メジャー・マイナー制による学び

真の意味の総合大学を目指して

主専攻(メジャー)

全学の理念「自律と創生」に基づいた、特色ある学位プログラム

大学に入学すると、自分の夢を実現するために、所属する学部が提示する学位プログラムのもとで学ぶことになります。新潟大学では、教養教育と専門教育が融合した学生主体の「到達目標達成型プログラム」と、「到達目標創生型プログラム」を提供しています。特色ある2つのプログラムで社会の諸問題に対して的確に対応でき、課題解決のために広範に活躍できる人材を育成します。

到達目標達成型プログラム

人文学部 ・心理・人間学プログラム ・社会文化学プログラム ・言語文化学プログラム	経済学部 ・経済学プログラム ・経営学プログラム ・学際日本語プログラム ・地域リーダープログラム	医学部 ・医学教育プログラム ・看護学プログラム ・放射線技術科学プログラム ・検査技術科学プログラム	工学部 ・機械システム工学プログラム ・社会基盤工学プログラム ・電子情報通信プログラム ・知能情報システムプログラム ・化学システム工学プログラム ・材料科学プログラム ・建築学プログラム ・人間支援感性科学プログラム ・協創経営プログラム
教育学部 ・学校教員養成プログラム	理学部 ・数学プログラム ・物理学プログラム ・化学プログラム ・生物学プログラム ・地質科学プログラム ・自然環境科学プログラム ・フィールド科学人材育成プログラム	歯学部 ・歯学教育プログラム ・口腔保健福祉学教育プログラム	農学部 ・応用生命科学プログラム ・食品科学プログラム ・生物資源科学プログラム ・流域環境学プログラム ・フィールド科学人材育成プログラム
法学部 ・法学プログラム ・法曹養成プログラム			

到達目標創生型プログラム

創生学部 ・創生学修プログラム

到達目標 達成型プログラム

対象学部/人文・教育・法・経済科・理・医・歯・工・農学部



臨床以外にも歯科医の活躍が見えてくる歯学教育プログラムで学ぶ

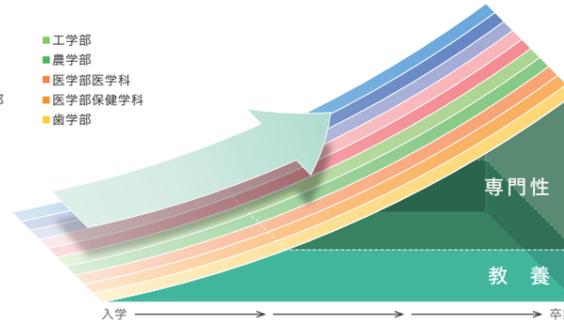
歯学部 勝俣 理子さん

段階的に医療を理解できるように考えられたカリキュラムで、実習時にも「基礎が活かされている」と感じることが多いです。またグループワークの授業が多いので、チーム医療の観点からも必要とされるコミュニケーション能力が自然と身に付きます。以前は卒業後に臨床歯科医になることを考えていましたが、大学で福祉に関する授業を受けたことがきっかけで、「歯科医療格差などの社会問題を解決したい」という思いが強まり、将来は行政での活躍を目指しています。

到達目標 創生型プログラム

到達目標 創生型プログラム

対象学部/創生学部



食品に関する多角的な研究が可能な食品科学プログラムで学ぶ

農学部 大場 ななほさん

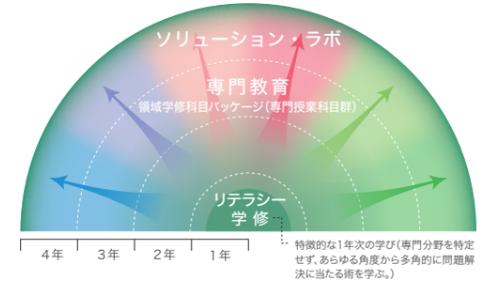
新潟大学の農学部で学べる学問領域は「農学・食品科学・環境学」と幅広く、1・2年次はそれらを網羅的に学びつつ、自分の興味・関心を確かめることができます。私の場合は学部の授業で「酵母は万能な微生物」と習ったことをきっかけに興味を湧き、食品科学プログラムを選びました。酵母から人間の健康を考える新しい学問「醸造健康学」の研究室に所属し、興味を尽きない「酵母」について研究を進めていきます。



最短5年で司法試験受験が可能な法曹養成プログラムで学ぶ

法学部 西田 楓人さん

弁護士・検察官・裁判官を目指す人のために2019年に新設された「法曹養成プログラム」で学び、3年で早期卒業する資格も得ました。現役弁護士の先生のゼミに所属し、特に民事系事案に関する学びを深めています。卒業後は、法曹資格を得るために司法試験合格を目指します。私は福島出身なので、東日本大震災で多くの方から助けていただいた恩を忘れず、人助けのできる弁護士になりたいと考えています。



課題発見・課題解決能力(リテラシー)育成を中核としたカリキュラムの中で、専門領域を自ら選び学んでいく



創生学部 今村 悠人さん

「知能情報システムパッケージ」を選択し、ICTによる医療分野の課題解決に取り組んでいます。入学して身に付いた一番の力は「課題発見能力」です。課題解決は、「どこにどのような課題があるのか？」を明確に認識することから始まるので、この能力がまず大切です。実際にそれが体感できる1年次のフィールドスタディーズ(企業や自治体等でのグループ活動)は、この学部の大きな魅力の1つだと思います。

副専攻(マイナー)

複数の分野を体系的に学ぶ

新潟大学では、さらに幅広い視野を身につけるために「メジャー・マイナー制」を導入しています。学位プログラムの主専攻(メジャー)と並行して、皆さんの「マイナー」での幅広い学びを応援するしくみが、全学分野横断創生プログラム(通称:NICEプログラム)です。「NICEプログラム」には、3つのマイナー(副専攻)があり、興味・関心にもとづいて、メジャーとは異なる分野・専門領域を学ぶことができます。マイナー学修の修了者には、修了証が発行されます。

全学分野横断創生プログラム

(NICE: Niigata University Interdisciplinary Creative Education Program)

事例1: 法学部のAさん
新潟県内の自治体でデータサイエンティストとして活躍したい!

事例2: 農学部のBさん
食料問題を解決するために政治について学びたい!

事例3: 理学部のCさん
1年生のうちから現場の数学教育を経験したい!

こんな人におすすめ!
NICEプログラムは、視野を広げたい人、何をやりたいか迷っている人、とにかく何かに挑戦したい人、なんとなく自信が持てない人など、すべての学生に開かれたプログラムです。少しでもマイナーに興味のある人は、お気軽に「学修デザイン相談」までお越しください!

学問分野の枠にとらわれずに、自分の興味・関心に沿って学びたい!

マイナーとして学びたい分野やテーマが決まっている!

マイナーでの学びを「第二の専門分野」として深めたい!

学修創生型マイナー

パッケージ型マイナー

オナーズ型マイナー

くわしくはこちら

新潟大学 NICE 検索



One Day at Niigata University 自分らしい一日

自分で決める自分の毎日!



大学は、自分の興味関心を追求しつつ、様々な学部、国・地域の学生と出会い、ともに学べる、興奮に溢れた場所です。その興奮を毎日味わう生活を送っています。

人文学部2年
板垣 薫さん
(山形県出身)

2年生 後期(第3ターム)

	Mon	Tue	Wed	Thu	Fri
1	博物館情報・メディア論				くらしを支える機械システム工学
2	健康スポーツ科学講義	くらしを支える機械システム工学	歴史文化学基礎演習	対人行動の心理学	
3	アジア史概説	ビジネス書道入門		アジア史概説	地誌学概説
4		西洋歴史文化研究法B	美術史概説A		地誌学概説
5		古文書学概説B			



新潟大学の時間割

- 1限 - 8:30~10:00
- 2限 - 10:15~11:45
- お昼休み 11:45~12:55
- 3限 - 12:55~14:25
- 4限 - 14:40~16:10
- 5限 - 16:25~17:55

1コマ
90分

大学生になると、**時間割は自分で決めます**。毎年春と秋に行われる「履修登録」で、**自分が学びたいこと、進みたい道**に合わせて授業を選んでください。

※学年は2021年度のものであります。



大学生はとにかく自由です。自由であるからこそ、どこに行っても何をやるか、何に時間を使うか、全てに責任は伴いますが、そうした中で自身の成長が感じられる日々はとても充実しています。

工学部1年
塩崎 真央さん (群馬県出身)

1年生 後期(第3ターム)

	Mon	Tue	Wed	Thu	Fri
1			情報セキュリティ概論	臨床心理学概論	
2			知的財産概論	臨床心理学概論	
3			学生がデザインする働き方の未来	建築図学I	健康スポーツ科学実習I
4	基礎数理B	建築学概論	学生がデザインする働き方の未来	基礎数理B	建築学概論
5		アカデミック英語入門L			アカデミック英語入門R



水曜日

10:15 ● 2限 歴史文化学基礎演習

自分の関心のある時代・地域の歴史を取り上げた文献を調べ、発表します。歴史に関心のある人ばかり集まっており、その取り上げる題材や疑問など着眼点の鋭さには毎時間学ぶことだらけです。



12:00 ● ダブルホームのミーティング

少々急ぎ足でKホームのミーティングへ。久々の対面とあって、和気あいあいとした雰囲気です。今回は、メンバーの得意分野を活動地域の加茂市で活かさないか話し合いました。



13:30 ● 新大広報のスタッフミーティング

学生が主体となって企画・編集を行う広報誌「新大広報」のスタッフを務めています。新大生にとって役立つ情報を提供できるよう、様々な企画を考え、学生目線で大学の魅力を紹介しています。今日は春号の企画会議に参加しました。



14:40 ● 4限 美術史概説A

18:00 ● 地域活動・学生発表交流会のスタッフミーティング

夕食の前に今日最後のミーティング。地域との関わりに関心を持つ新潟県内の各大学の学生が、活動内容やその課題の共有・議論を行う交流会に参加しています。今回は、今後のイベント内容について、学内外の学生・教職員の方と話し合いました。



大学生協の新生サポートセンターでアルバイトをしています。共済や保険の説明、お部屋探しなど、新生の新生活準備が楽しくなるような接客を心掛けています。

学生生活ピックアップ

ダブルホーム活動に参加していて、加茂市で活動するKホームと新潟市万代地域で活動するNホームに所属しています。Kホームでは加茂で毎年行われるイベント「AKARIBA」での竹灯籠作成、Nホームでは万代地域を散策し地域課題の探求などを行い、地域の方々と関わりながら楽しく活動しています。大変なことも多いですが、それだけにワクワクが止まりません。

※詳しくは「4 地域で学ぶ取り組み(13~14ページ)」参照

金曜日

9:00 ● 自宅で自炊

毎日食事の用意をするのは大変なので、たいてい2週間分の食材をまとめて買って作り置きをしておきます。自分の好きなものを好きなように作るの楽しいです。

12:00 ● 学食で友人とランチ

12:55 ● 3限

14:40 ● 4限 建築学概論

建築学にかかわる各分野を専門とする先生方が、建築学の基礎的な理論や最新の話題をわかりやすく紹介してくれる授業です。この授業を受けたことで、普段何気なく目にしてる街並みを違った視点から捉えることができるようになりました。

16:25 ● 5限 アカデミック英語入門R

大学での学習や研究に必要な英語力を身に付けるための授業です。教科書の解説だけでなく、より英語の本質を突いた大学ならではの講義にはいつも新たな発見があります。

18:15 ● 飲食店でのアルバイト

週に2回程度アルバイトをしています。お店には常連さんも多く、いつも気さくにお話してくれます。マスターの作るまかないをいつも楽しみにしています。



新潟大学独自の取組として、自身の専門分野だけでなく学部を越えた複数の分野を横断して学ぶことのできるNICEプログラムというものがあります。アドバイザーの先生と相談しながら、興味・関心にあった科目を自由に選択することができます。私は主専攻である建築学に加えて、副専攻として経済学や政治学を学んでいます。※詳しくは「全学分野横断創生[NICE]プログラム(3~4ページ)」参照

学生生活ピックアップ



新潟県の佐渡島をフィールドとして、多様な学部・学年から成るチームで多角的な視点から離島過疎地域の社会課題解決を目指す「スマートドミトリー活動」に参加しています。1年生からこのような研究活動に参加できるのは新潟大学の強みだと感じます。私は、現地に点在する空き家の問題やまちづくりに興味があるため、この活動は大変有意義な時間となっています。

資料6-② NICEプログラムウェブサイト 学修パッケージ一覧

どんなマイナーがあるの？

学修型マイナー (14単位/履修開始学年：1・3年生)

新潟大学で開講されている科目の中から、マイナー学修に適した科目を選択して、マイナー学修デザイン(履修計画)を作成します。オリジナルの履修計画をデザインすることが、「オーダーメイド型」の中身です。
まずは必修科目の「分野横断デザイン」の受講を通して、自分の興味・関心や問題意識を起点に探究課題を見つけ、マイナーとして履修する科目を選択し、履修計画を立てます。マイナー科目履修の終盤～終了後に、「分野横断リフレクション」(必修：3,4年次在籍中のいずれかの学期で履修)で、自分の学びを振り返ります。

パッケージ型マイナー (12単位/履修開始学年：1・2・3・4年生)

テーマごとにパッケージ化された科目リストの中から、自分で科目を選択し、計画的に履修を行います。

- アグロ・フードアソシエーツ
- コミュニティ・マネジメント
- ジオパーク
- ふるさと共創学
- MOT基礎(特許・経営および製品開発基礎コース)
- ことづくり・マネジメント
- データサイエンスリテラシー
- 地域災害環境システム
- 外国語 (ロシア語)

領域学修基礎パッケージ

- 心理・人間学
- 言語文化学
- 数学
- 化学
- 自然環境科学
- 社会基盤工学
- 知能情報システム
- 材料科学
- 生物資源科学/流域環境学
- 社会文化学
- 法学
- 物理学
- 生物学
- 機械システム工学
- 電子情報通信
- 化学システム工学
- 建築学
- 応用生命科学/食品科学

オナース型マイナー(副専攻プログラム)

オナース型マイナーとは？

オナース型マイナー (副専攻プログラム) (4単位/履修開始学年：1・2・3年生)

新潟大学には、分野横断を目的とする先行プログラムとして「副専攻プログラム」があります。2021年度に「学修型マイナー」、「パッケージ型マイナー」が新設されたのを機に、「副専攻プログラム」は「オナース型マイナー」という名称に変わりました。「オナース」(Honors)とは、「優秀な学生を対象とした」という意味です。くわしくは、「よくある質問(Q&A)」を参照してください。

- 環境学
- 外国語 (英語)
- 外国語 (ロシア)
- 外国語 (中国語)
- 経済学
- 統合化学
- 学校教育実践
- 外国語 (ドイツ語)
- 外国語 (フランス語)
- 外国語 (ロシア語)
- GIS (地理情報システム) リテラシー
- 電子・情報科学
- 医学物理学基礎
- データサイエンス

資料6-② NICEプログラムウェブサイト マイナーの履修方法

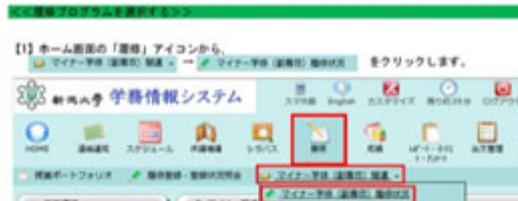
マイナーの履修方法

マイナーの履修には、学籍情報システムでの「マイナー登録」申し込み（エントリー）と科目の履修登録が必要です。

① マイナーの履修申し込み（エントリー）

履修を希望するマイナーを学籍情報システムから申し込み（エントリー）してください。なお、ここで選択したマイナーは、毎年、学期はじめの履修登録期間中（4月・10月）に変更、あるいは履修取り消しをすることができますので、悩んでいる人も気軽に選んでかまいません。どのマイナーも履修するか悩んでいる場合でも、必ず申し込みは行うようにしてください。

学籍情報システム「マイナー登録（新専攻）関連」履修ボタン操作手順



【1】 履修したいプログラムの「履修」をクリックします。

【2】 「マイナー登録（新専攻）関連」をクリックします。



② 授業科目の履修登録

各パッケージの認定条件や科目リストを確認し、通常の授業科目と同様に履修登録を行ってください。
「学修対象型マイナー」の履修を希望する人、あるいは「未定」の人は、1・2年次に「分野横断デザイン」、3・4年次に「分野横断リフレクション」を必ず履修登録してください。

科目の履修登録をしないと、その科目の履修情報（オンライン授業のミーティングIDなど）の連絡通知は届きません。必ず履修登録日までに科目の履修登録を済ませるようしてください。

プログラム履修ガイドPDF

[2022年プログラム履修ガイド](#)

[2021年プログラム履修ガイド](#)

新潟大学教育・学生支援機構
全学分野横断型プログラム(NICEプログラム)
〒950-2181 新潟市西区五十嵐2-1-105番地
TEL:025-262-4301 FAX:025-262-4304
E-Mail: kyoiku.misut@st.niigata-u.ac.jp

教育・学生支援機構 | 新潟大学 | アクセス

PAGE TOP

資料6-③ NICEプログラムウェブサイト トップページに動画を掲載



資料6-④ NICEプログラムウェブサイト よくある質問 (FAQ)



真の知を学ぶ。 豊かな専門の学びと幅広い学びを実現するメジャー・マイナー制
新潟大学 全学分野横断創生プログラム(NICE)
 Niigata University Interdisciplinary Creative Education Program



HOME	プログラム概要/ 履修手続	マイナー学修一覧	アカデミック・ アドバイジング	分野横断デザイン/ 分野横断リフレクション	高校生・受験生の みなさんへ	活動・成果報告	よくある質問/ お問い合わせ
------	------------------	----------	--------------------	--------------------------	-------------------	---------	-------------------

HOME > よくある質問/お問い合わせ

よくある質問 (FAQ) / お問い合わせ

よくある質問 (FAQ)

マイナー学修について

マイナーとは何ですか。
↑

Q **マイナーとは何ですか。**

A マイナーとは「副専攻」のことです。
 みなさんは入学を希望する学部の実験を経て、新潟大学に入学します。入学した学部では、2年生から主専攻プログラムで専門領域を学び始めます。この主専攻プログラムがメジャーです。
 しかし、大学での学びはメジャー（主専攻）だけではありません。新潟大学では、メジャーとは異なる学問分野や専門領域について学ぶことのできるシステムとして、マイナー（副専攻）制度を導入しました。みなさんが、主専攻プログラムと並行して異なる分野を学ぶことで、専門に偏らない、複眼的なものの見方や分野横断的な思考を身につけることができます。

Q **マイナーは必ず履修しなければならないのですか？**

A マイナーは希望者のみが履修申し込み（エントリー）をして、自主的に学修を進めていく制度です。新潟大学の学生全員が履修しなければならないものではありません。
 また、マイナーの履修を申し込んだ後、途中でマイナーを変更したり、取り消したりすることも可能です。変更や取り消しは、各学期の履修登録期間中に学務情報システムを通じて行うことができます。

Q **NICEプログラムの各マイナーの違いがよくわかりません。**

A NICEプログラムには、3種類のマイナーがあります。分野横断的な学びをめざすというコンセプトは同じですが、以下のような違いがあります。

	学修創生型マイナー	パッケージ型マイナー	オナズ型マイナー
履修開始学年	1・2年	1・2・3・4年	1・2・3年
修了認定単位数	14単位以上	12単位以上	24単位以上
必修科目	「分野横断デザイン」 (1・2年次に履修) 「分野横断リフレクション」 (3・4年次に履修)		各プログラムが定める 「入門科目」 (3年次の未までに履修し、 単位を修得していること)
備考		各パッケージが定める 修了要件を踏まえて 科目履修する	・卒業時の総修得単位数が、 卒業要件単位数にプラス 「12単位」以上 ・卒業時の全科目のGPAが 「2.5」以上

Q **新潟大学には、いままでも副専攻プログラムがありましたが、NICEプログラムとの違いは何ですか。**

A 副専攻プログラムは、「オナズ型マイナー」という新しい名称に変更され、NICEプログラムを構成するマイナーのひとつとなっています。オナズ型マイナー（副専攻プログラム）と、ほかのマイナーとの間のもっとも大きな違いは、認定に必要な単位数です。オナズ型マイナー（副専攻プログラム）の修了認定に必要な単位数は24単位でしたが、NICEプログラムの学修創生型マイナーでは14単位、パッケージ型マイナーでは12単位となっています。

副専攻プログラムと新しく導入されたマイナープログラムとの違い

副専攻プログラム（現・オナズ型マイナー）	学修創生型マイナー パッケージ型マイナー
<ul style="list-style-type: none"> 各プログラムの「入門科目」を、「第3年次末」までに履修し、その単位を修得していること。 卒業時の総修得単位数が、所属する学部の卒業要件単位数に「12単位」以上を加えたものであること。 各プログラムが定めた授業科目から「24単位」以上を修得していること。 卒業時の全科目のGPAが、「2.5」以上であること。 その他、各プログラム独自の認定条件等を満たしていること。 	<ul style="list-style-type: none"> 各プログラムが定めた授業科目から、「12単位」以上（パッケージ型）「14単位」以上（学修創生型）を修得していること。 その他、各プログラム独自の認定条件等を満たしていること。

資料6-⑤ NICEプログラムウェブサイト 高校生・受験生のみなさんへ

The screenshot shows the top navigation bar of the NICE program website. The navigation menu includes: HOME, プログラム概要/ 最新情報, マイナー学習一覧, アカデミック・アドバイザー, 分野横断デザイン/ 分野横断リフレクション, 高校生・受験生のみなさんへ, 活動・成果報告, and よくある質問/ お問い合わせ. Below the navigation bar, there is a breadcrumb trail: 2021 > 高校生・受験生のみなさんへ. The main content area has a blue background with white text. The heading is '高校生・受験生のみなさん、こんにちは！'. The text explains that the NICE program started in 2021 (Heisei 33) and is a new education program. It allows students to take courses from other departments as minors (secondary majors). It addresses the difficulty of choosing a department based on exam scores and family expectations, and mentions that academic advisors are available to support students in their choices.

HOME プログラム概要/
最新情報 マイナー学習一覧 アカデミック・
アドバイザー 分野横断デザイン/
分野横断リフレクション 高校生・受験生の
みなさんへ 活動・成果報告 よくある質問/
お問い合わせ

2021 > 高校生・受験生のみなさんへ

高校生・受験生のみなさんへ

高校生・受験生のみなさん、こんにちは！

NICEプログラムは、2021（令和3）年度からスタートした、新しい教育プログラムです。
NICEプログラムは、学部で学ぶメジャー（主専攻）をベースに、学部の枠を越えた幅広い分野をマイナー（副専攻）として学ぶことができるプログラムです。
本格的に大学や学部について考えるとき、NICEプログラムが持つ可能性を考慮に入れてもらえるとうれしいです。

やりたいことが明確に決まっている人は、その目標に向かって、違うことなく大学や学部を選ぶことができると思います。ですが、「やりたいこと」がはっきりしている人ばかりではないでしょう。試験の点数で「行けそうな」大学や学部を選んでしまっている、家庭の事情から、大学や学部の選択肢を広げられない大学受験には、そんな側面もある気がします。

NICEプログラムには、みなさんのマイナー（副専攻）での学びをサポートするアカデミック・アドバイザーが在籍しています。マイナーとして何を学んだらよいのか、どんなふうに学びを進めていけばよいかなど、迷いや不安を感じたら、アカデミック・アドバイザーに相談することができます。大学で「とにかく何かに挑戦してみたい」、「視野を広げたい」、「やりたいことを見つけたい」、そんな人たちをNICEプログラムは応援しています！NICEプログラムで、自分の興味・関心を多角的に探究してみてください。

資料6-⑥ NICEプログラムウェブサイト マイナー履修者生の声および時間割

NICEプログラム履修者の声



佐々木 真理也さん
経済学部1年/秋田県出身

学修創生型マイナーを履修中。
テーマは「日本から見る国際支援」

現在、週4回フランス語の授業を受講しています。大変ですが、国際支援の現場で使える言語として、大学に入る前から勉強しようと思っていました。

Q マイナー学習をはじめた理由は？

A 大学に入る前から、将来は国際支援にかかわりたいと思っていました。国際支援の現場では、資金が尽きると事業がまわらなくなってしまうので、経済的な視点を持つことは大切です。そこで、メジャーは経済学を選びました。ですが、せっかく総合大学に入ったのに、経済学を学ぶだけでは物足りない気がして、マイナー学習を始めました。
将来やりたいことにつながるものを学んだほうが充実するだろうと思ったからです。

Q いま、マイナーとしてどのような科目を履修していますか？

A 「平和学概論」と「医療ボランティア論」、「医学と医療の歴史」の3科目を履修しています。「平和学概論」は、紛争や環境問題といった国際レベルの問題をテーマとして置っていて、学生同士でディスカッションをして意見を共有します。ほかの受講者のひらめきや意見などは、自分の発想にはないもので、視野が広がって刺激的です。

Q 将来についてどのように考えていますか？

A 国際支援に関わる民間企業で投資に関わりたいと思っています。

Q メジャーとマイナーの両立は大変ではないですか？どんな時間割で1週間過ごしているのか、教えてください！

A 月曜日から金曜日まで毎日授業を入れています。対面で実施されている授業があるので、週3日大学にきています。1年次の第3チームは、水曜日にマイナー履修科目を2つ履修しているため、5コマ連続となってしまいました。

	月	火	水	木	金
1			【マイナー履修】 医療ボランティア論		
2		初級外国語 (フランス語)	初級外国語 (フランス語)	初級外国語 (フランス語)	
3	人文社会科学入門 (木3とセット開講)	データサイエンス 概論	スタディスキルズ	人文社会科学入門	初級外国語 (フランス語)
4			【マイナー履修】 医学と医療の歴史	アカデミック英語 (リスニング)	【マイナー履修】 平和学概論 (2コマ連続開講)
5	アカデミック英語 (リーディング)		日本経済入門		
6					

高校生・受験生へのメッセージ

わたしが大学受験をしたころは、新型コロナウイルス感染症の流行真っただ中でした。大学に合格しても、どんな大学生活になるのか見通しが立たない状態。オンライン授業といわれても、それで大学の授業が理解できるのか、ついていけるのか、とにかく不安が大きかったです。

けれど、入学してみたら、オンライン授業でも理解を深めるための工夫がこらされていて、授業の不安はすくなくなくなりました。いまは、マイナーとして医療ボランティアに関する科目を受講していますが、メジャーとは異なる分野でも理解に不安はなく、モチベーションを保って履修できています。

資料6-⑥ NICEプログラムウェブサイト マイナー履修者生の声および時間割



園部 紗依さん
経済学部1年 / 新潟県出身

学修創生型マイナーを履修中。
テーマは「組織から社会へ、社会から働くことについて」

「まなび屋」というサークルに所属して、2週間に1回、地域の小学生の学習支援をしています。あわせて、ボランティアサークル「ボラんち。」でも活動中です！

- Q** 『分野横断デザイン』を履修したきっかけは？
- A** 大学に入学すると、どんな科目を学ぶかを含めて、時間割を自分で決めることができます。でも、メジャーのほかに何について学んだらよいか分からなかったため、それを考えてみようと思い「分野横断デザイン」を履修しました。
- Q** 『分野横断デザイン』はどうでしたか？
- A** グループワークを通して、ほかの人の興味・関心に触れることで、視野が広がりました。自分自身は「働くこと」に興味があって、それを深めたいという思いから、組織の中での個人の役割について考えるようになりました。「組織」というキーワードで世の中を見直してみると、自分にとって身近なものや、自分が学んでいること、それらと社会との接点が見えてきた気がします。夏休みに新潟県内の企業インターンシップに行きましたが、この授業を受けたことで「心がまえ」を持ってインターンシップに取り組みました。
- Q** マイナーとして、どんな科目を履修していますか？
- A** 「キャリア意識形成と自己成長」を履修しています。いろいろなキャリアを持つ人がゲスト講師として講義をするオムニバス形式の授業です。講義の後はグループで意見の共有をします。講義から職業の多様性を知ることができるだけでなく、いろいろな働き方・考え方がありということがわかりました。さまざまな職種で働くことのエッセンスを自分の中に取り込みたいと思っています。
- Q** メジャーとマイナーの両立は大変ではないですか？どんな時間割で1週間過ごしているのか、教えてください！
- A** 月曜日から金曜日まで毎日授業があります。講義の授業は対面講義なので、週3日大学にきています。1年次の第3タームは、1科目（2コマ連続開講）だけマイナー履修しています。

	月	火	水	木	金
1		初級外国語 (中国語)	初級外国語 (中国語)		初級外国語 (中国語)
2	キャリア形成と 法制概			キャリア形成と 法制概	
3	人文社会科学入門 (木3とセット開講)	【マイナー履修】 キャリア意識形成と 自己成長 (2コマ連続開講)	スタディスキルズ	人文社会科学入門	
4			データサイエンス 概論	アカデミック英語 (リスニング)	
5	アカデミック英語 (リーディング)		日本経済入門		
6					

高校生・受験生へのメッセージ

大学に行くことや学部を選択など、いろいろ考えた上で新潟大学の経済学部を受験しました。コロナ禍でオンライン授業からのスタートとなりましたが、インターンシップの事前・事後活動のために、オンライン上のコミュニケーションを兼ねて、友だちもできました。1年生という早い段階で企業インターンシップができたことで、大学と企業（社会）それぞれの「ものの見方」をバランスよく学べたように感じています。

資料6-⑦ NICEプログラムのTwitter

The screenshot displays the Twitter profile for the Niigata University NICE Program. The profile header features a banner image with the following text: "アカデミック・アドバイザーによるサポート体制" (Academic advisor support system), "学部の枠を越えた分野横断" (Interdisciplinary across department boundaries), and "Niigata University Interdisciplinary Creative [Nice] プログラム" (Niigata University Interdisciplinary Creative [Nice] Program). A "フォロー" (Follow) button is visible. The profile name is "新潟大学NICEプログラム" (@Niigata_u_NICE). The bio states: "新潟大学全学分野横断創生プログラム (NICEプログラム)は、学部の枠を越えて複数の分野を横断して学ぶことができます。" (The Niigata University Interdisciplinary Program (NICE Program) allows you to learn across multiple disciplines, transcending department boundaries). The website link is iess.niigata-u.ac.jp/niceprogram/in... and it notes "2022年3月からTwitterを利用しています" (Using Twitter since March 2022). There are 4 followers and 69 followers. The navigation tabs are "ツイート" (Tweets), "ツイートと返信" (Tweets and replies), "メディア" (Media), and "いいね" (Likes). The most recent tweet, dated August 10th, thanks participants for attending an open campus event and mentions several hashtags: #新潟大学, #NICEプログラム, #副専攻, #メジャー・マイナー, and #大学受験.

新潟大学NICEプログラム
52件のツイート

アカデミック・アドバイザー
によるサポート体制

学部の枠を越えた
分野横断

Niigata University
Interdisciplinary
Creative

【Nice】
プログラム

フォロー

新潟大学NICEプログラム
@Niigata_u_NICE

新潟大学全学分野横断創生プログラム (NICEプログラム)は、学部の枠を越えて複数の分野を横断して学ぶことができます。

iess.niigata-u.ac.jp/niceprogram/in...
2022年3月からTwitterを利用しています

4 フォロー中 69 フォロワー

ツイート ツイートと返信 メディア いいね

新潟大学NICEプログラム @Niigata_u_NICE · 8月10日

新潟大学オープンキャンパスにご参加いただきありがとうございました！
NICEプログラムのイベントにもたくさんの方々から質問をいただき、大変
有意義なイベントになりました！大学でみなさんにお会いできるのを楽し
みにしています！

#新潟大学
#NICEプログラム
#副専攻
#メジャー・マイナー
#大学受験

資料6-⑧

R3年度オープンキャンパスで公開した動画



資料6-⑨
R4年度オープンキャンパスで公開した動画

YouTube 検索

マイナーを学ぶ意義とは

新潟大学 副学長(教育改革担当) 浅賀 岳彦



ローカルレベル(新潟)の課題
人口減少、地域コミュニティの維持、農工業の振興、
若者が活躍できる産業育成

グローバルレベル(環境)の課題
海洋プラスチック・ごみ、脱炭素、カーボンニュートラル
⇒人びとの日々の行動の変容、国家間のルール作り、
新しい科学技術開発の必要性

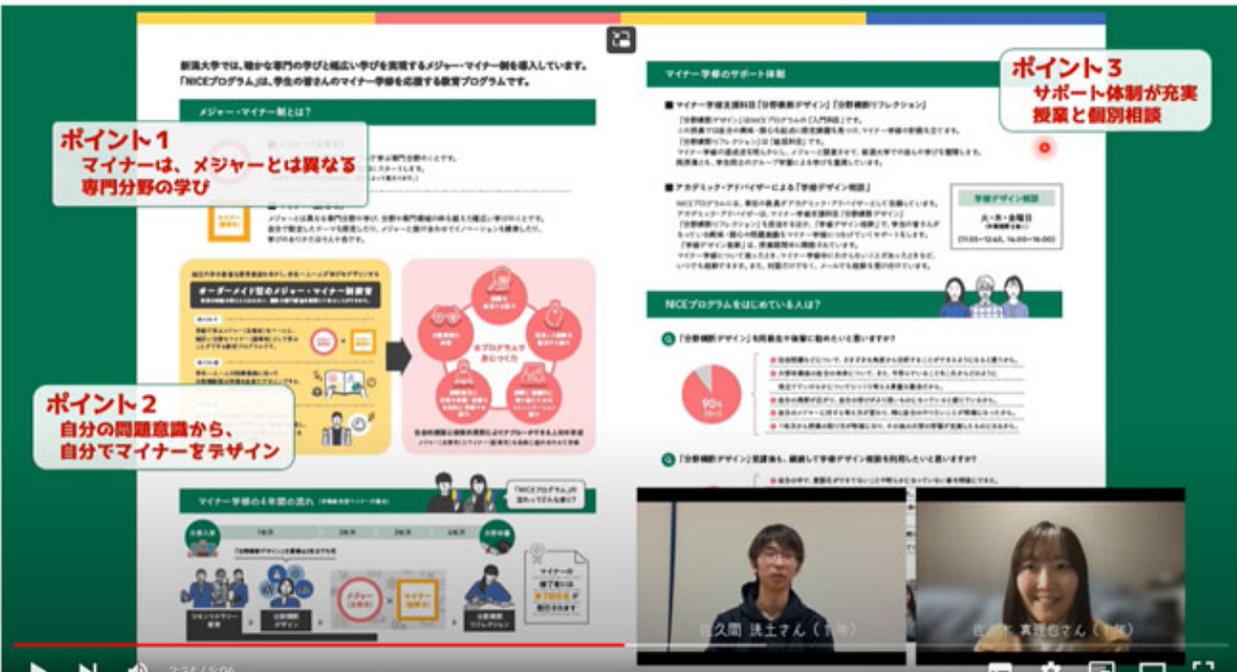
地域の課題が世界の課題に直結、その内容が複雑で多様

マイナー学修の意義
ひとつの学問分野だけでなく、いくつかの分野からの視点
＝複眼的な視野でものごとをとらえ、本質を見極める

6:40 / 10:28

NICE メジャー・マイナーでこれからの社会をまなざす
∞ 限定公開

YouTube 検索



新潟大学では、様々な専門の学びと幅広い学びを実現するメジャー・マイナー制を導入しています。
「NICEプログラム」は、学生の皆さんのマイナー学修を応援する教育プログラムです。

メジャー・マイナーとは?

ポイント1
マイナーは、メジャーとは異なる
専門分野の学び

ポイント2
自分の問題意識から、
自分でマイナーをデザイン

ポイント3
サポート体制が充実
授業と個別相談

マイナー学修のサポート体制

■ マイナー学修支援科目【分科連携デザイン】【分科連携フレクション】
【分科連携デザイン】はNICEプログラム(入門編)です。
この授業では自分の興味・関心に基づいた得意な授業を履修し、マイナー学修の準備をします。
【分科連携フレクション】は「基礎科目」です。
マイナー学修の基礎となる科目で、メジャーと関連する科目で新潟大学で履修した学びを履修し、
履修すると、卒業要件のグループ学習による学びを履修しています。

■ アカデミックアドバイザーによる「学習デザイン相談」
NICEプログラムの、履修の最適化をサポートするアドバイザーとして活躍しています。
アカデミックアドバイザー、マイナー学修支援科目【分科連携デザイン】
【分科連携フレクション】も履修するほか、「学習デザイン相談」で、学習の準備が
進むにつれて履修・履修の相談もサポートを受けることができます。
【学習デザイン相談】は、卒業要件に相談して行います。
マイナー学修について進みます。マイナー学修の履修の進捗もサポートします。
いつでも相談できます。また、相談だけでなく、メールでも相談も受け付けています。

NICEプログラムをはじめてみる人へ?

①【分科連携デザイン】を履修する準備が整った状態ですか?

②【分科連携デザイン】を履修する準備が整った状態ですか?

③【分科連携デザイン】を履修する準備が整った状態ですか?

④【分科連携デザイン】を履修する準備が整った状態ですか?

⑤【分科連携デザイン】を履修する準備が整った状態ですか?

⑥【分科連携デザイン】を履修する準備が整った状態ですか?

⑦【分科連携デザイン】を履修する準備が整った状態ですか?

⑧【分科連携デザイン】を履修する準備が整った状態ですか?

⑨【分科連携デザイン】を履修する準備が整った状態ですか?

⑩【分科連携デザイン】を履修する準備が整った状態ですか?

久間 洸士さん (1年)

田中 真智也さん (2年)

2:34 / 5:06

マイナー(副専攻)プログラムのご紹介
∞ 限定公開

資料6-⑩

R4年度オープンキャンパスでの相談の様子

モザイクのかかった学生が相談者の高校生

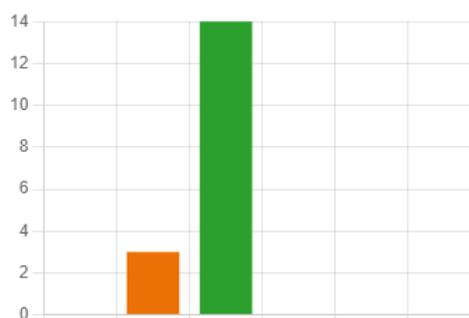


資料6-⑪ 令和4年度オープンキャンパス参加者アンケート結果

1. ご自身の立場に当てはまるもの一つ選択してください。

[詳細](#)

● 高校1年生	0
● 高校2年生	3
● 高校3年生	14
● 過年度生	0
● 保護者	0
● その他	0

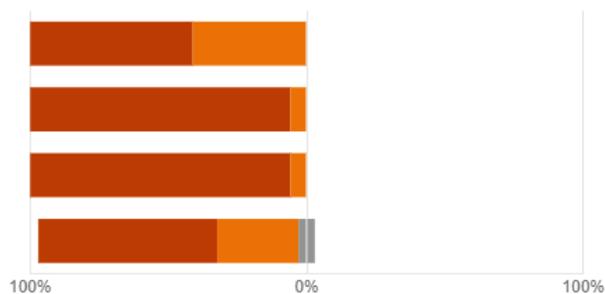


2. 各プログラムの満足度について当てはまるものを一つ選択してください。参加しなかったプログラムについては「参加しなかった」を選択してください。

[詳細](#)

■ 参加しなかった ■ かなり満足している ■ 少し満足している ■ あまり満足していない ■ まったく満足していない

[9日] 履修ナビゲーション
 [9日] 履修相談会
 [10日] 履修相談会
 [10日] 履修ナビゲーション



3. 新潟大学のマイナー（副専攻）制度について興味をもちましたか。当てはまるものを一つ選択してください。

[詳細](#)

● かなり興味をもった	14
● 少し興味をもった	3
● あまり興味をもたなかった	0
● まったく興味をもたなかった	0



4. 感想や質問、ご要望等ございましたら、ご自由に記入してください。

- ◆ わかりやすい説明ありがとうございました!新潟大学の志望理由の1つでもあるので、今回詳しく聞いて良かったです。質問ですが、海外の学生と交流するような副専攻はありますか？
- ◆ 実際入学してマイナーを受けるとなった時、同じ学部仲間がいた方が安心だなと思っていたので学部別のマイナー受講者数を知ることができたのはありがたかった。
- ◆ 他の大学ではなかなかできないことができるとわかり、新潟大学に入学してこのプログラムに参加したいと思いました。
- ◆ とてもわかりやすい説明だったので、副専攻について疑問に思っていたことも詳しく知ることができました。ありがとうございました。
- ◆ マイナー制度のことや、在学生がどのようなテーマで学習しているのかを知ることができて良かったです。
- ◆ NICE プログラムについて詳しく説明いただいて、疑問が解決しました。大学で自分の興味があることへの学びを深められるように活用してみたいと思いました。とてもわかりやすかったです。ありがとうございました。
- ◆ マイナーについて詳しく知ることができてよかったです。皆さんが楽しそうな雰囲気、新潟大学に入りたいという気持ちが高まりました。ありがとうございました。
- ◆ 自分が思っていたよりもマイナーは自由に学べるのだなと感じました。日頃から様々な事に興味、関心を持ち、マイナーでの学習に生かしていきたいです。

新潟大学「全学分野横断創生プログラム（NICEプログラム）」事業ロードマップ

事業内容区分	取組内容	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	
1. 事業基盤	(1) 事業設計 事業実施体制 プログラム設計	準備（事例調査）	メジャー・マイナー制に関する先進事例（国内・国外のグッド・プラクティス）の調査・分析				
		設備	新NBAS（仮称）等のシステム改修及びオンライン授業の推進に関連する施設・設備等を準備する。	システムの改修			
		人員配置		・事業推進のためのアカデミックコーディネーター3名（特任教員2名、特任専門職員1名）、ハイブリッド型大学教育システム構築担当の特任教員1名、教学マネジメント（IR）担当の特任教員1名を配置する。			
		事業ホームページ作成	事業ホームページ作成、プログラム説明用埋め込み動画作成	ホームページ更新			
		情報発信				・シンポジウムまたはFD等を実施し、学内外に向けて事業成果・課題を広く共有する。	
						・学生を中心とした情報発信活動により、高校生や初年次学生、社会や企業に向けた情報発信を行う。	
	(2) 教育プログラムの内容	マイナー学修パッケージの整備	教務専門委員会において、具体的な「マイナー学修パッケージ」の提供の詳細を議論し、具体的な制度設計を進める。	・「マイナー学修パッケージ」の段階的導入の開始 ・マイナー学修登録者数の確認	・「マイナー学修パッケージ」の段階的導入を促進	・「マイナー学修パッケージ」の段階的導入を加速	・「マイナー学修パッケージ」の本格展開
		学修創生型マイナーの実施、指導	学修創生型マイナー・プログラムの設計	実施、指導			
		(3) 改善点	IR分析による教学マネジメント			教育戦略統括室による教学IR分析と学内へのフィードバック（FD）を実施し、教学マネジメントサイクルの試行的な運用を行う。	教育戦略統括室による教学IR分析と学内へのフィードバック（FD）を実施し、教学マネジメントサイクルの運用を行う。
	自己評価			・当該年度の本事業の実施状況について自己評価を行い、学内外に報告後、次年度の計画にフィードバックする。			
外部評価				「外部評価委員会」を設置して外部評価を行う（中間評価）。	「外部評価委員会」による外部評価を行う（中間評価）。	「外部評価委員会」による外部評価を行う（最終評価）。	
2. 学修成果の評価	教学IR・学修成果の可視化	ディプロマサプリメント	ディプロマサプリメントの調査、準備	ディプロマサプリメントの設計、発行	ディプロマサプリメントの改善・継続		
		成績・単位の可視化			GPAと取得単位数の可視化	GPAと取得単位数の可視化の改善	メジャーとマイナーに関するGPAと取得単位数の可視化
		学生へのアンケート・インタビュー			アンケート、インタビュー実施および分析結果の報告		
3. 学修支援	アカデミック・アドバイジング学修デザイン相談	アカデミック・アドバイジング学修デザイン相談		アカデミック・アドバイザーによる履修指導を定期的実施			
4. 教育制度（授業内容）	学修創生型マイナー支援科目の開設と実施	プログラムのコア科目（分野横断デザイン、分野横断リフレクション）の開講	・「分野横断デザイン」の授業設計 の開講、ルーブリック作成	・「分野横断リフレクション」の授業設計	・「分野横断リフレクション」（3,4年次・集大成科目）を開講		
5. 企業・社会との接続	大学教育と社会・企業との接続	大学教育と社会・企業との接続	ミニレクチャー準備	分野横断デザインにおいてミニレクチャー実施	・学生を中心とした情報発信活動により、社会や企業に向けた情報発信を行う。		
6. 高大接続	高等学校、高校生、保護者等への広報	高等学校、高校生、保護者等への広報	・パンフレット配布				
			・オープンキャンパス出展	・オープンキャンパス出展	・オープンキャンパス出展	・学生を中心とした情報発信活動により、高校生に向けた情報発信を行う。	・オープンキャンパス出展

令和 4 年度外部評価結果

令和4年度新潟大学「全学分野横断創生プログラム(NICEプログラム)」事業
「外部評価委員会」日程

日時:令和4年9月16日(金)10時00分~11時30分

会場:新潟大学総合教育研究棟D棟1階 大会議室

次第

1. 開会挨拶
2. 外部委員紹介
3. 委員長の選出
4. 事業実績報告
 - 1) 事業基盤
 - 2) 学修成果
 - 3) 学修支援
 - 4) 教育制度(授業内容)
 - 5) 企業・社会との接続
 - 6) 高大接続
5. 意見交換(事業評価)
6. 総合評価および評価委員講評
7. オブザーバーコメント
8. 閉会挨拶

令和4年度 外部評価委員名簿

氏名	所属	職名
木村 治生	ベネッセ教育総合研究所	主席研究員
清水 栄子	追手門学院大学 共通教育機構／教育支援センター	准教授
田中 一孝	桜美林大学 リベラルアーツ学群	准教授
徳武 裕一	一般社団法人新潟県経営者協会	専務理事
鷲尾 雄慈	新潟明訓高等学校	新潟明訓高等学校進路指導 アドバイザー 前新潟県立長岡向陵高等学校長 大学教育等推進事業委員会短期大 学部会委員

事業評価担当

- 1) 事業基盤……………全委員
- 2) 学修成果……………木村委員
- 3) 学修支援……………清水委員
- 4) 教育制度……………田中委員
- 5) 企業・社会との接続 ……徳武委員
- 6) 高大接続……………鷲尾委員

令和4年度新潟大学「全学分野横断創生プログラム(NICEプログラム)」事業
外部評価(実施審査全体評価)

外部評価委員会委員長 清水 栄子
(追手門学院大学 共通教育機構/教育支援センター)

実地審査全体評価 :A

コメント

評価できる点

- ・学修者の成長につながるプログラムである。
- ・緻密な計画が立てられており、受講した学生の成果は大きい。
- ・ロードマップが示され、わかりやすい。

より一層の改善・進展が望まれる点

- ・人材育成の目標とこの計画の明示をしてほしい。
- ・履修者を増やす為に、ヒドンカリキュラムを組み込むようにしてはどうか。
- ・ロードマップに成果目標まで具体的に明示してはどうか。
- ・学生に興味を持ってもらう機会、教職員にこのプログラムの意義を理解してもらう機会を増やしていくとよいのではないか。

その他、コメント

- ・評価を具体的に示してほしい。
- ・学生に分かりやすいように、サンプルを提示してはどうか。
- ・一度に全学部を対象とするのも良いが、重点的に働きかける学部を決めて、徐々に広げていくことを検討されても良いのではないか。

学修成果 担当	木村 治生 委員
---------	----------

全体評価:A

学修成果の評価:A

コメント

評価できる点

【全体に関して】

- ・本プログラムは、マイナー・プログラムの履修を通して、学修者である学生がメジャー・マイナーそれぞれについて学ぶことの意義を考えて目標設定を行い、学修の内容・方法を自己選択して活動し、その成果をふりかえって可視化する試みであり、全学横断的な学修活動の改善の循環を生み出す仕組みとして緻密な制度設計がなされていると評価できる。こうした目標設定→学修活動→ふりかえりの循環づくりや学修成果の可視化は、「学修者本位の教育」に整合するものであり、「知識集約型社会を支える人材育成事業」の目的にも沿っていると考える。
- ・特に、「分野横断デザイン」と「分野横断リフレクション」の取組みは、受講者が一定の負荷を感じながらも、アカデミック・アドバイザー(AA)、ともに学修する仲間や SA などと交流し、企業のサポートも得て、分野を横断して学ぶことの意味を考える取組みになっていることが、履修者アンケートからわかる。ルーブリックも、とてもよく設計されている。こうした学ぶ意味の探索やふりかえりは、大学全体に広げてほしいところでもあり、他大学にも参考になるところが多い。
- ・取組み事例やインタビュー調査の結果からは、AA の学生に対する支援が「足場かけ」の役割を果たし、学習意欲やメタ認知能力の向上、進路意識の醸成に効果を持っていることが確認できる。全学分野横断のために科目の組み合わせが複雑になるが、そうした効果を生み出すのに AA が機能している。
- ・事業実施体制、プログラムの設計はとても充実しており、教育内容面での質の向上や学修成果の可視化、受講者の増加施策など、現在、進行中の取組みを継続的に実施できれば、本プログラムの目的は達成できると考える。

【学修成果に関して】

- ・事業ロードマップでは、「ディプロマ・サプリメント」に関する取組みは令和 3 年度から、「学修成果の可視化」に関する取組みは令和 4 年度からの開始であり、着手間もない段階であることを考慮すると、十分な検討と実行がなされていると評価できる。
- ・「ディプロマ・サプリメント」については、新潟大学学士カアセスメントシステム(NBAS) で運用することを前提に掲載内容の具体的な検討が行われ、それを可視化するための改修計画が立てられている。在学中にも学生がそれを確認できるように設計することで、学修改善にも役立てられることが考慮されている点が良い。

- ・「学修成果の可視化」については、履修状況に関するデータだけではなく、学生や卒業予定者に対するアンケート調査などを行うことで、事業改善に必要となるデータが部分的に取られ始めている。プログラムを履修していない学生へのアンケートから事業課題が明確にできている。今後はこうしたデータを生かして事業の改善を行うとともに、可視化したデータを学生にフィードバックすることで、彼らの学びを改善する情報として活用してほしい。

より一層の改善・進展が望まれる点

【全体に関して】

- ・教職員、学生が同じ目的・目標で活動するために、このプログラムの中で、学内にあるより上位の目標（中期目標・計画、将来ビジョン、ディプロマポリシーなど）との関連を明示してほしい。本プログラムで計画される分野横断の学びは、新潟大学が掲げる理念や育成したい人材像といった「目的」を実現するための「手段」である。目的とする人材育成・社会貢献の在り方から、このプログラムの必要性を明確にできるとよい。新潟大学が理念とする「自立と創生」につながる取組であり、自律した学修者の育成を意識してほしいと感じた。
- ・履修者が目標に達していない点については、学内外での PR の不足を感じる。本プログラムは、分野横断の学習を通じて学修者が自らの学びの意義を考え、学修者として成長するための取組みであり、Society5.0 時代をより良く生きていくために必要な資質・能力の獲得につながるものである。そうしたプログラムの理念や学修者にとってのメリットが十分に伝わっていない様子が見受けられる。学部や教員への協力の働きかけ、学生に対するインセンティブの提示、高校や高校生へのわかりやすい説明など、コミュニケーション戦略を十分に練って実行してほしい。ホームページ等の WEB を使ったコミュニケーションも、対象別に設計できるとよい。

【学修成果に関して】

- ・「ディプロマ・サプリメント」については、どのように活用するのかを想定したうえで記載内容を検討し、UX、UI を設計してほしい。DP4 領域の目標の提示や評価のための得点化をどうするのか、メジャーとマイナーを分ける必要やその意味などをどう示すのか、受け手となる学生や企業にとってわかりやすく意味のあるものになるとよい。
- ・「学修成果の可視化」についても、マネジメントや学修・教育活動にどう生かすかを考慮したうえで、取得する情報を検討してほしい。

その他

- ・今後の高等教育の在り方を検討するうえで有意義、かつ先進的な取組みであり、計画を着実に実行するとともに、学内外への PR に努めていただきたい。

学習支援 担当	清水 栄子 委員
---------	----------

全体評価:A

学修成果:A

コメント

評価できる点

- 1) 全学分野横断プログラムは、新潟大学におけるこれまでの改革を基盤とし、計画されその目的達成に向けた緻密な計画を立て、取り組まれている。
- 2) 学生の興味・関心、学びへの意欲に応じた機会として学修創成型・パッケージ型・オナーズ型という複数の選択肢を提供している。
- 3) プログラムを進めるにあたって、アカデミック・アドバイジングによる支援により、学生の興味・関心をひきだす工夫が行われている。また、「分野横断デザイン」の担当者として、アカデミック・アドバイザーが加わっている点は、必要に応じた継続的支援の実現に向けて効果が期待できる。

より一層の改善・進展が望まれる点

- 1) 上述のとおり、素晴らしい取り組みであるため、今後他大学において参考になるものである。学生の認知度を高めることや全学的な取り組みとして現在も努力されていることは十分理解できるが、さらに取り組んでいただきたい。
- 2) 今後アカデミック・アドバイジングによる支援が浸透することで、利用者数の増加が予想される。ピア・サポート体制の構築に取り組まれていることは評価できる。しかし、研修を積んだ学生であっても、担当できる範囲には限界があると思われるため、その担当範囲を早めに明確にすることも検討していただきたい。

その他

- 現地視察の際に、NICE オフィスを見学させていただいた。必要に応じて徐々に備品等を整備し、学生の利便性が高まるように取り組まれていることがわかった。このようなニーズに応じた取り組みも発信するとよいと思う。
- 学生の認知度を上げることや全学的な取り組みとするために、アカデミック・アドバイジングの特性を活かした2方向からの働きかけを行うことも可能かと思われる。1つは本プログラムの利用者を対象とした働きかけである。継続的な面談や支援により、当該学生に本プログラム利用の学びや成長をインセンティブとして意識してもらうことで、より一層学びや成長につながるとともに、他の学生や教職員に対する好影響をもたらすことも期待できる。もう1つは学部教職員の理解や協力を高めるための働きかけである。例えば定期的な懇談会や履修相談の共同開催によって、情報共有や意見交換の機会を持つことができる(たとえば、学部のニーズやアドバイザーのノウハウなど) 全学部を対象とすると負担が大きいこともあ

るため、本プログラムの利用学生の割合が高い学部の教職員との接点を持つことから始めていくなど、共同先(協働先)を戦略的に選定してもよいと思う。

- 負担にならない範囲で、ニュースレター等による定期的な情報発信も検討していただきたい。電子媒体でよいので、コンスタントな発信を負担のない範囲で行うことで学内外への発信となり得る。掲載内容をピア・アドバイザーに企画してもらうことにより、学生目線で発信ができる。募集スケジュールや説明会などの早めの情報発信や学生にとって理解が難しい用語解説などにより、本プログラム自体の理解と認知度を高める方策となり得ると思う。
- 最後に、アカデミック・アドバイジングは日本において広まりつつある支援制度であるため、本プログラムで得られた成果や知見(あるいは課題)を論文による外部発信についても検討いただきたい。

教育制度(授業内容) 担当	田中 一孝 委員
---------------	----------

全体評価:A

教育制度(授業内容):A

コメント

評価できる点

全体について、実地審査においても、当該プログラムが極めて緻密に設計されており、担当副学長、NICE プログラムスタッフが主導する形で着実に運用されていることを確認できた。とりわけ、多数のマイナープログラムを創設したことでマイナープログラムの履修者は順調に増加していることは極めて高く評価できる。またマイナー履修を宣言していない学生が潜在していることを考慮すると、新潟大学において当該プログラムの重要性が高まっていることを今後さらに期待できる。

担当の教育制度について、「学修創成型マイナー」は学生自らがマイナーカリキュラムをデザインできるという他に類例の無い当該プログラム独自の制度である。流動的な社会状況や学生の自らの関心に応じて組立てられる学びは、他大学にも大きなインパクトを与える可能性がある。「学修創成型マイナー」を履修する学生に対しては、「分野横断デザイン」「分野横断リフレクション」の科目設置、アカデミックアドバイジングの実施など、多角的なサポート体制を整えており、その教育効果を高める工夫は十分に認められる。

より一層の改善・進展が望まれる点

全体について、当該プログラムをさらに発展させていくためには、直接的な運用に携わるNICE プログラムオフィスだけでなく、学部学科の教職員の協力が不可欠である。当該プログラムの重要性を全学的に伝達する機会を設けるだけでなく、個別の学部学科にアプローチしながら、当該プログラムの運用・支援に教職員が携わる仕組みを作り出す必要があるだろう。

教育制度について、「学修創成型マイナー」プログラムの履修者を増やすために、基幹科目である「分野横断デザイン」の履修者を増やす必要がある。科目の履修者を増やすためには、科目を充実させるだけでなく、制度的なアプローチも行う必要がある。学部学科の協力を得ながら、当該科目をメジャーのカリキュラムに深く関係づける制度設計を検討してもらいたい。

その他

当該プログラムの成果を、新潟大学のみならず、我が国の高等教育全体に資する形で公開することを、今後さらに進めていただきたい。

企業・社会との接続 担当	徳武 裕一 委員
--------------	----------

全体評価:A

学修成果:A

コメント

評価できる点

○全体

- ・本事業を実施していくために必要と考えられる詳細、具体的なプログラムや態勢が整備されている。
- ・マイナー制で学ぼうとする学生へのサポートの充実など、学生本位の事業運営がされている。

○担当項目(企業社会との接続)

- ・本学において、現在の企業・社会が直面する課題や期待する人材像などが的確に理解されたうえで、本事業が計画され取組まれている。
- ・学生に対し、企業等で文理融合や複数分野の学問が実際にどのように活用されているのか、社会人から直接リアルな話を聴く機会が設けられている。

より一層の改善・進展が望まれる点

○全体

- ・少なくとも今回提示された資料などでは、本事業により生み出される具体的な成果として何をどの程度目標としているのか明確に把握できなかった。この成果目標については例えば本学として履修者数を入学定員の25%以上とすることを目指すとしているほか、これに限らずどのようなものが相応しいのかは整理する必要があると思うが、成果目標を明確にするとともに事業計画と紐づけていくことは、PDCA を効果的に行っていくことや本事業をより実効性のあるものにしていく観点から重要であると思われる。
- ・現状ではマイナー学修に取組む学生数が少ないと見受けられ、アンケート調査の結果などから、本プログラムに対する学生や教員の認知・理解を深めていくことや、全学的な取り組みとしての機運を醸成していくことの一層の促進が必要と思われる。

○担当項目(企業社会との接続)

- ・社会人によるミニレクチャーは意義があり計画通り実施されているが、このミニレクチャーから得たものが受講者自身の目的、将来の見通しをより明確にし、それに必要なマイナー学修の計画・実践に結びつくことが最も重要であると考えことから、本項目の取組みにあたっては、こうした観点からの評価や実施内容の一層の充実が図られればなお良いものと思われる。

その他

- ・現在の企業社会は新型肺炎の感染拡大や地政学的リスクの増大、世界的な経済情勢の変動に伴う人々の考え方や社会・経済活動の変化、或いは DX・GX への対応など、これまでにない課題に直面している。
- ・こうしたことから、このように複雑化する課題に柔軟かつ適切に対処し、解決に向けてリードしていくことの出来る人材が求められている。
- ・こうした現状下で、特に大都市圏に比べて人材の育成・確保が難しい新潟県内において、教育機関の中核である本学でこのような事業に取り組まれることは大きな意義があり、当地の社会や経済界からも大きな関心と期待を持たれるものと思われる。
- ・そのような観点から、本学からは当地域の社会や経済界など学外に対しても本事業の趣旨や取組みなどの情報をより積極的に発信、周知していただくとともに、企業・経済団体としては例えば企業社会との接続におけるミニレクチャーやその他の取組みなどについて出来ることがあれば協力させて頂ければとも考えている。

高大接続 担当	鷲尾 雄慈 委員
---------	----------

全体評価:A

学修成果:A

コメント

評価できる点

Society5.0 時代の到来に向け、全学横断的教学マネジメントを確立し、社会とのインタラクションの強化を実現しながら、今後の社会や学術の新たな変化等に対して柔軟に対応できるようにするための幅広い教養と深い専門性を両立した人材を育成することが本事業の目的であり、そのような観点から、本プログラムは計画どおりに進められている。

より一層の改善・進展が望まれる点

文理横断・学修の幅を広げ、広さと深さを両立する教育プログラムを開発すること、理解・修得した分野を融合・統合する学びのプロセスを改革することなどが具体的な課題となろう。本学以外にメジャー・マイナー制度を設けている大学では、評価が個別に行われているケースが多いが、全学分野横断創生プログラムのようなメジャー・マイナーを組み合わせた分野横断的な学びについては、クロスの学習成果の評価方法を検討する必要がある。メジャー・マイナーのクロス効果により自発的で主体的な学びの姿勢が多数の学生に身につくよう評価方法を工夫するとともに、科目設定を構築していく必要がある。現状では、マイナー履修申請学生数が全学年 600 人程度で、理系学部より文系学部の履修学生数が少ない。例えば、学部単位でマイナー科目選択の類型を示す、メジャー分野を補足するために適したマイナー科目を提案するなどの必要がある。また、パッケージ型マイナー科目バイキング料理を羅列し、品数を増やすのではなく、メインディッシュとの相性や栄養バランスを AA できるよう運用するとよい。

高大接続の観点からは大学全体の広報活動の中では取り組みが進められているが、事業ロードマップにも、大学案内・HP・オープンキャンパス出展の計画しか示されておらず、広報することありきで、接続していくための具体策が示されていない。実際、高校教員の認知度は低く、新潟大学を志望している高校生には浸透しているとは言えない。なお、他県の高校生に、他の国立大学との差別化するアピールポイントとして、本プログラムは有効であろう。このような点から、高校教員と高校生に対しての広報活動を全学的に検討すべきと提案する。

その他

年次進行により、得られた経験を次年度以降に反映していただきたい。

<参 考>

知識集約型社会を支える人材育成事業（文理横断・学修の幅を広げる教育プログラム） 新潟大学「全学分野横断創生プログラム（NICE プログラム）」事業 外部評価要項

新潟大学は、第4期中期目標期間にメジャー・マイナー制の全学的な普及を進めるべく教育改革を進めている。本事業はその推進力となるものであり、確実な成果が期待されているところである。そこで、本事業に関して多面的な評価体制を整備する。即ち、「外部評価」、「事業全体の評価」、「各副専攻プログラムの評価」である。それぞれの評価によって得られた知見を学長の意思決定に活用し、現場の教職員とトップレベルの意思決定の統合を図る。これにより事業の適切な運営・実施を目指す。

本評価要項は、このうち「外部評価」の実施方法について定めたものである。外部評価は、本学の学生において分野横断型教育システムの履修が一定程度進んだ時期が望ましいため、事業期間の中間年度となる令和4年度から開始する。

1. 外部評価の概要

高等教育の専門家および県内の企業や高等学校の関係者等、本事業の各側面に関連して高い知見を有する外部有識者から構成される外部評価委員会を設置する。当該委員会は「事業説明書」に基づいて全体的な評価（「事業設計」、「教育プログラムの内容」、「改善点」の観点）と、事業の各側面（学修成果の評価、学修支援、教育制度、企業・社会との接続、高大接続）に関する評価を実施する。

「事業説明書」には、本事業の計画と実施状況等を熟知している本学教職員が説明書作成時点（令和4年8月）までの事業の実施状況を記載し、進捗状況の自己評価を明示する。

2. 外部評価の方法

（1）事業説明書

事業説明書は、事業の実施内容とそれに基づく自己評価により構成される。事業を実施する本学担当教員は、事業説明書の中に、2）に示す担当業務区分毎に事業の実施内容を記載し、その進捗状況について下表による4段階の自己評価を行う。

（2）事業内容区分

①事業基盤

事業設計（事業実施体制、プログラム設計）、教育プログラムの内容、改善点

②学修成果の評価

ディプロマ・サブプリメント、成績・単位の可視化、学生へのアンケート・インタビュー

③学修支援

アカデミック・アドバイジング、学修デザイン相談

④教育制度（授業内容）

学修創生型マイナー支援科目の開設と実施

⑤企業・社会との接続

大学教育と社会・仕事との接続

⑥高大接続

高等学校、高校生、保護者等への広報

区分	自己評価
1	所期の計画以上の取り組みが行われている
2	所期の計画と同等の取り組みが行われている
3	所期の計画に比べ、全体の取り組みが遅れているが、一部は同等の取り組みが行われている
4	所期の計画に比べ、取り組みが遅れている

(3) 外部評価委員会

外部評価委員会は、本学教職員が作成した「事業説明書」に基づき、事前コメント、および、実施審査での評価を行い、総合評価を行った上で、以下の区分により評価の結果を決定する。

区分	評価
S	計画を越えた取組であり、現行の努力を継続することによって本事業の目的を十分に達成することが期待できる。
A	計画どおりの取組であり、現行の努力を継続することによって本事業の目的を達成することが期待できる。
B	一部で計画と同等又はそれ以上の取組もみられるものの、計画を下回る取組があり、本事業の目的を達成するには、助言等を考慮し、一層の努力が必要である。
C	取組に遅れが見られるなど、総じて計画を下回る取組であり、事業の目的を達成するためには、当初計画に基づく目標の早急な達成や事業規模の縮小等に向け、事業計画の抜本的な見直しが必要である。

4. 評価結果の決定

外部評価委員による事前コメント及び実地審査の結果を基に総合評価を行う。評価結果において、総合評価が「C」とされた場合には、評価結果に対する本事業計画の見直し等の対応策を講じ、外部評価委員による再評価を行うこととする。

5. その他

(1) 開示・公開等

①外部評価委員会の審議内容等の取り扱いについて

評価に係る審議は原則非公開とする。

②評価結果の公表等について

評価結果は、文部科学省へ報告されるとともに、新潟大学ホームページ本事業サイトへの掲載等を行い社会へ周知するとともに、今後の事業推進等に活用する。

③委員等の氏名について

外部評価委員会の委員の氏名等については、評価結果の決定後に公表することとする。

(2) 利害関係者の排除等

事業に以下の利害関係がある委員（以下の①～③に該当）は、事務局にその旨申し出ることとし、本事業の評価には参加させないこととする。

(利害関係があるとみなされる場合)

- ①委員が本学の専任又は兼任として在職（就任予定を含む）又は3以内に在職していた場合
- ②委員が本学の役員として在職（就任予定を含む）又は3以内に在職していた場合
- ③その他、委員が中立・公正に評価を行うことが困難であると判断される場合

(3) 情報の管理、守秘義務、事業結果報告書の用途制限

- ①評価の過程で知り得た個人情報及び本事業の評価内容に係る情報については、外部に漏らしてはならない。
- ②委員として取得した情報（「事業説明書」等の各種資料を含む）は、他の情報と区別し、「善良な管理者」の注意義務をもって管理する。
- ③評価にかかる資料等は、本事業の評価を行うことを目的とするものであり、その目的の範囲内で使用する。

(4) 評価結果の活用

外部評価の結果は、他の評価の結果と合わせて教学 IR 体制のもとで分析するとともに、全学部・主専攻プログラムと教育・学生支援機構及び教育戦略統括室が協働で、データに基づく議論を展開し、プログラム全体の改善を実施する。プログラムの現状と課題は迅速に大学執行部へ伝達され、教育及び経営の意思決定の指標として活用する。

以上

【担当部署】

新潟大学 教育・学生支援機構教育プログラム支援センター
NICE プログラムオフィス

〒950-2181 新潟県新潟市西区五十嵐2の町 8050

TEL : 025-262-7168 FAX : 025-262-6304

おわりに(外部評価を受けて)

本学は副専攻制度を平成17年に開始していましたが、10数年が経過したところで、やや疲労が見えておりました。大学教育委員会はこのことを見逃さず、教育基本問題検討作業委員会を組織して検討を命じ、令和2年12月には「副専攻プログラム見直しを契機とした教育改革の方向性(答申)」が打ち出されました。教育・学生支援機構(当時)では、答申で提案された改革について、資金面を含めどのように進めるか議論が活発化しておりました。「全学分野横断創生プログラム」はそこでの議論を集約したもので、これが「知識集約型社会における人材育成事業」に採択されたことは、機構の教職員一同の大きな励みになりました。

本事業は令和2年度の準備期間を経て令和3年度にはいよいよ新たなマイナー・プログラムの提供が始まりました。学生の主体的な学びを後押しするための学修創生型マイナーや「分野横断デザイン」の授業は、他にない特徴的なプログラムとなっています。また、マイナーに関しては各学部の教員たちも大きな関心を寄せており、本報告書を作成しているさなかにも新しいマイナー・プログラムの開設計画が提出されてきております。

本事業の遂行にあたっては学長および教育担当理事にリーダーシップを発揮していただいております。授業やアドバイジングを実践する私どもと未来にあるべき本学の姿を共有しながら、大学全体として新しい教育のしくみ作りに日々尽力しているところです。

マイナー・プログラムの学内浸透のため、令和4年度にもいくつかの手を打っております。それがいかに効果を発揮するかはまた次年度の評価を待つこととなります。自己評価と外部評価は来年度、再来年度と続き、今回と同様の報告をいたします。本報告を手にとってご覧の方々には、今回の進捗状況についてもぜひご確認下されれば幸いです。

令和4年10月

教育基盤機構全学分野横断創生事業プロジェクト実施責任者
教学マネジメント部門長 福島 治

新潟大学教育基盤機構

未来教育開発部門

全学分野横断創生プログラム(NICEプログラム)

〒950-2181 新潟県新潟市西区五十嵐2の町 8050

TEL:025-262-7168 FAX:025-262-6304